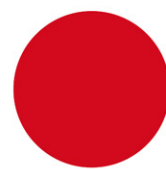


土堂小

の研究



JAPAN HERITAGE

日本遺産

国立教育政策研究所指定
教育課程研究指定校事業

広島県教育委員会指定
「学びの変革」パイロット校事業

尾道市教育委員会指定
尾道版「学びの変革」推進事業

(コミュニティ・スクール)

研究主題

主体的に学ぶ子供を育成する教育の創造

—対話で創る課題発見・解決学習と学ぶ習慣づくりを通して—
—算数科「割合」の意味を理解するための系統的な指導計画や効果的な指導計画等の工夫改善—



平成29年11月20日(月)
主催 広島県教育委員会
尾道市教育委員会
尾道市立土堂小学校

尾道市立土堂小学校

目 次

I	平成 29 年度土堂小学校スクールプラン	4
II	教育研究計画	
1	研究構想	5
2	研究の概要	6
3	指導・助言者	7
4	研究計画	8
5	資料	
	主体性・積極性の系統表「国語科」「算数科」	9
	思考力・表現力の系統表「国語科—読むこと—」	10
	思考力・表現力の系統表「算数科—割合—」	11
	コンピテンシー表「総合的な学習の時間」	12
III	実践のまとめ	
1	国語科	14
2	算数科	24
3	特別支援教育	36
IV	基礎・基本定着のための取組	
1	モジュール授業の原理	42
2	モジュール授業の内容	
3	モジュール授業の学習目標	43
4	モジュール学年系統表	
5	フラッシュ教材「割合」	45
V	研究の結果と考察（中間）	
1	「基礎・基本」定着状況調査	47
2	全国学力・学習状況調査	48
3	質問紙調査	49
VI	研究のまとめ（中間）	
1	成果	51
2	課題と今後に向けて	
VII	日 程	52
	会場案内図	54

VIII 全体会	
開会行事	55
実践報告	56
分科会・講評	57
講演	58
閉会挨拶	59
IX 公開授業 I	
モジュール授業	
第1学年	62
第2学年	63
第3学年	64
第4学年	64
第5学年	65
第6学年	66
特別支援学級(知的)(情緒)	67
特別支援学級(難聴)	68
X 公開授業 II	
国語科	
第1学年「スイミー」	70
第2学年「かさこじぞう」	74
第4学年「ごんぎつね」	77
第5学年「大造じいさんとがん」	80
算数科	
第1学年「たすのかな ひくのかな」	83
第2学年「かけ算(3)」	86
第3学年「分数」	90
第5学年「割合とグラフ」	93
第6学年「速さ」	97
総合的な学習の時間	
第4学年「小路復活大作戦」	100
特別支援教育	
特別支援学級(知的)「面積」	105
特別支援学級(情緒)「割合とグラフ」	109
特別支援学級(難聴)「ひき算(2)・三角形」	112

ごあいさつ

土堂っ子太鼓の音が、今朝も尾道の町に響き渡っています。

本日、全国各地から多くの先生方のご参加をいただき、このように盛大に教育研究会を開催できますことに心から感謝申し上げます。

本校は、平成17年度にコミュニティ・スクールの指定を受け、以来、地域とともに歩む学校として、学校運営協議会から示されたミッションステートメントの達成を目指し、教育活動の充実を図ってまいりました。本年度は、①基礎・基本を大切にし、確かな学力と健やかな心身を育む学校 ②学ぶ力、遊ぶ力、伝える力、受容する力を育む学校 ③尾道への郷土愛を高める学校 ④地域と保護者が共に育て支える学校-土堂小学校の教育への理解を深め、地域や保護者同士の交流を促進する-の4つを目指す学校像として、日々取り組んでまいりました。

また、文部科学省から教育課程研究指定校事業、広島県教育委員会から3年目となる「学びの変革」パイロット校事業の指定、尾道市教育委員会から尾道版「学びの変革」推進事業の指定を受け、主体的に学ぶ子供を育成するための教育の創造に取り組んでまいりました。

特に今年度は、全教科、領域を通じて資質・能力を育成するための単元開発・改善、資質・能力の系統表の作成に努めてまいりました。じっくり考え、進んで話す子供たちの姿から確実に成果を実感しているところです。

本日、これらの実践の一端を発表いたしますが、私たちの取組は試行錯誤の繰り返しで、日々模索しながら歩んでいるところです。皆様から御指導、御助言をいただき、さらなる改善、発展に向け、一層の努力を重ねてまいります。

終わりになりましたが、本校の研究推進に温かい御指導、御支援をいただきました多くの先生方に心から感謝を申し上げ、あいさつといたします。

平成29年11月20日

尾道市立土堂小学校

校長 佐々木 智彦

I 平成29年度 土堂小学校スクールプラン

夢と志を抱きグローバル社会を生き抜く子どもの育成

平成29年度 コミュニティ・スクール 土堂小学校スクールプラン

教育課程研究指定校(国立教育政策研究所教育課程研究センター)
 広島県教委指定 「学びの变革」パイロット校

学校教育目標

**志を持ち未来を拓く子どもの育成
「自ら学ぶ」**



ミッションステートメント (学校運営協議会)

- 1 基礎・基本を大切に、確かな学力と健やかな心身を育む学校
- 2 学ぶ力、遊ぶ力、伝える力、受容する力を育む学校
- 3 尾道への郷土愛を高める学校
- 4 地域と保護者が共に育て支える学校

-土堂小学校の教育への理解を深め、地域や保護者同士の交流を促進する-

スクールミッション (尾道市教育委員会)

保護者・地域住民が参画したコミュニティ・スクールの更なる推進による特色ある学校づくり
 「学びの变革」パイロット校としての組織的研究推進と研究成果の発信と普及

知

「自ら学ぶ子」

- 学びのための習慣づくりと基礎・基本の定着
 - ・ 個に応じた指導
 - ・ モジュール授業
 - ・ 検定試験への挑戦
 - ・ 家庭学習の定着
- 主体的な学習の構築
 - ・ 課題発見・解決学習の充実
 - ・ 作品募集への積極的応募
- 尾道への郷土愛の育成
 - ・ 「総合的な学習の時間」におけるカリキュラム開発

徳

「思いやりのある子」

- 「土堂っ子太鼓」の継承
- マナーの定着と奉仕の精神の涵養
 - ・ あいさつの励行
 - ・ 主体的な清掃活動
- 道徳実践力の向上
 - ・ 道徳授業の充実
 - ・ 道徳的環境の整備
- 読書活動の充実
 - ・ 朝読書
 - ・ 推薦指定図書の読破
 - ・ 委員会活動の活性化

体

「根気よくやりぬくたくましい子」

- 体力の向上
 - ・ 体育授業における運動量の確保
- 保健・安全指導の充実
- 保健・安全管理の徹底
- 食育の充実

体験的な学習・異学年交流の推進 語彙力の向上

教育のプロとしての自覚と誇りをもつ教師

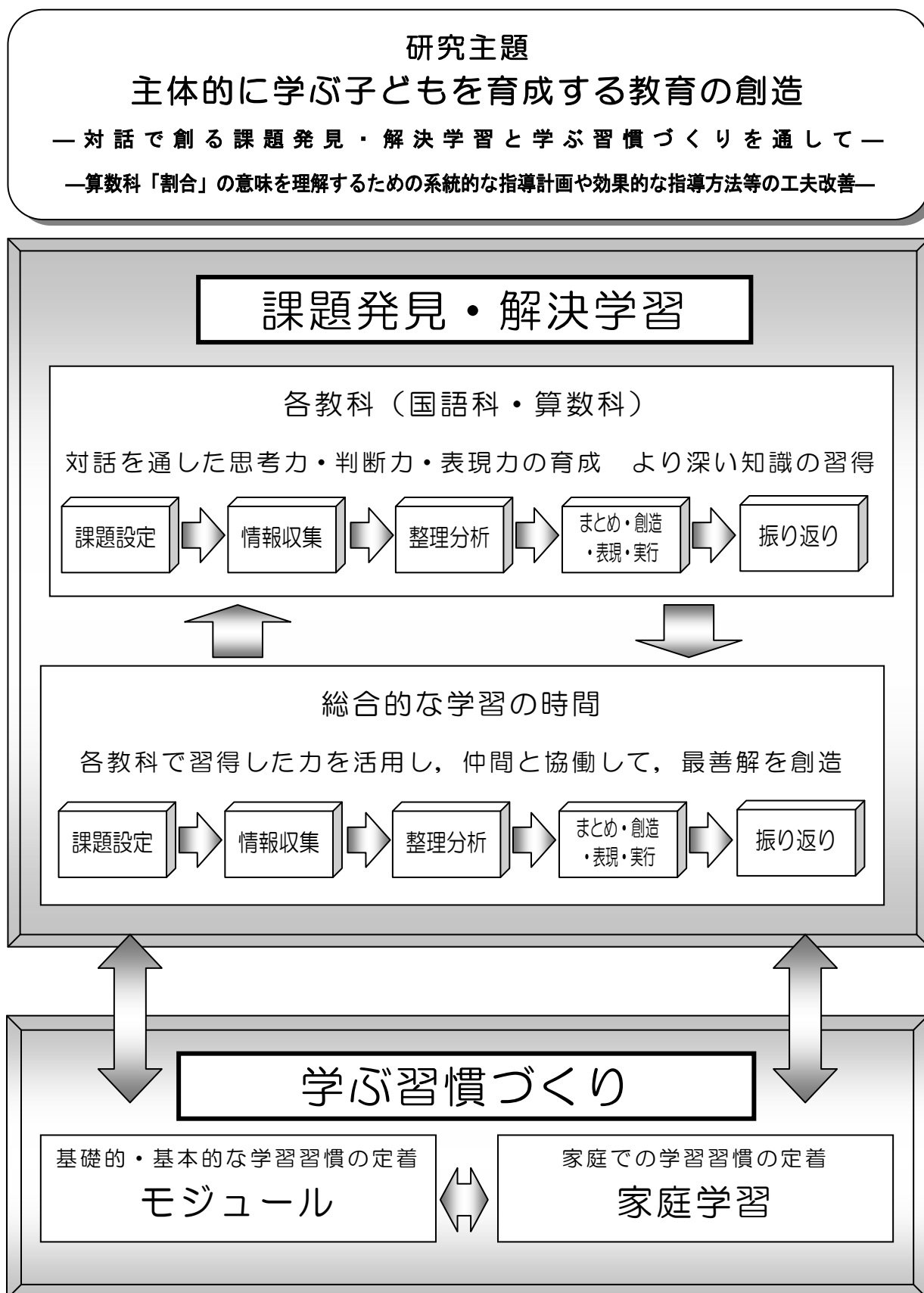
- ・ 「出会い」「きっかけ」「体験」を大切にする教師
- ・ 言葉を大切にする教師
- ・ 傾聴できる教師

家庭・地域との連携

- ・ 学校評議員との連携
- ・ 積極的な情報公開・発信
- ・ 地域行事への積極的な参加

II 教育研究計画

1 研究構想



2 研究の概要

(1) 研究主題・副題

主体的に学ぶ子どもを育成する教育の創造

－対話で創る課題発見・解決学習と学ぶ習慣づくりを通して－
－算数科「割合」の意味を理解するための系統的な指導計画や効果的な指導方法等の工夫改善－

(2) 研究主題の設定理由

21世紀はグローバル化が一層進み、多様な価値観、自分とは異なる文化や習慣に根付いた人々と、正解のない課題や経験したことのない課題を解決していかなければならない「多文化共生」の時代へと向かっていく。このような時代を生きる子ども達は、自己を確立しつつ、他者を受容し、多様な価値観を持つ人々と共に思考したり、協力・協働したりしながら課題を解決することで、新たな価値を生み出し、社会に貢献していくことがより一層求められていく。

本校では、これまで、課題発見・解決学習のための単元開発や基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるための学ぶ習慣づくりについて研究をしてきた。

平成28年度は、生活場面や他教科・領域と関連付けた単元構成やかかわりを生かした協同学習の工夫等により、児童が学ぶ必然性を感じ、目的をもった学習が実現できた。しかし一方で、特に資質・能力に関する理論的な研修が十分ではなく、特に教科固有の見方や考え方を働かせた深い学びが実現できたとは言えない。そこで、平成29年度は、引き続いて「課題発見・解決学習」と「学びの習慣づくり」を重点として研究を進めるとともに、特に教科の単元開発において、児童の主体的・対話的で深い学びを実現するために、理論と実践の両面から研究を進める必要がある。

平成28年度は、前述のように、教科固有の見方や考え方を働かせた資質・能力の育成に関する理論的な研究が十分できなかったため、児童の思考や態度の変容を学校全体として十分に評価し、記録できたとは言えない。そこで、平成29年度は、国語科と算数科の各部会が、学校全体の研修計画に基づいて、部会で研究計画を立て、部ごとにPDCAサイクルに則った研究推進を行う。その中で、教科固有の見方や考え方、資質・能力に関する理論研究と実践研究を推進し、学校全体で定期的に交流し合う。このことで、児童の変容に基づいて検証し、記録し、次年度へつなぐ体制づくりを行う。

また、割合に関する児童の実態は、平成27年度の全国学力・学習状況調査の算数B問題②（示された情報から基準量を求める場面と捉え、比較量と割合から基準量を求めることができるかどうかをみる問題）において、本校正答率が26.1%（全国13.4%）であった。また、同調査の平成28年度の算数A問題⑨（1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を理解しているかどうかをみる問題）において、本校正答率が78.9%（全国51.2%）であった。これらの結果から、本校の児童は割合の学習において一定程度の基礎的・基本的な学力を身に付けていると言える。しかし、児童が、必ずしも割合の学習に対して主体的に取り組んでいるとは言えないことや、学校全体で割合の学習につながる各学年での指導の在り方について、系統的に整理し、指導しているとは言えない。

したがって、各学年での算数科の授業やモジュール教材で、割合に関する系統的な指導を工夫するとともに、第5学年において児童が主体的に割合の学習に取り組み、意味理解を深める指導の工夫を行う必要がある。

そこで、研究主題を「主体的に学ぶ子どもを育成する教育の創造－対話で創る課題発見・解決学習と学ぶ習慣づくりを通して－」とし、単元開発や教科固有の見方考え方についての研究を通して、主体的・対話的で、深い学びの実現を目指すこととし、特に割合の学習指導に関しては、学校全体における割合に関する系統的な指導を構築し、割合の学習において児童が主体的に学習に取り組み、意味理解を深める指導の工夫を行うことを通して、児童の確実な理解を図るとともに、その成果を全国に発信する。

(3) 研究のねらい

- 思考力・表現力を育成する。
- 主体的・協働的に学ぶ児童を育成する。
- 基礎的・基本的な力を付け、基礎的な知識の定着を図る。

(4) 研究仮説

基礎的・基本的な学習習慣の定着を図り、国語科・算数科，総合的な学習の時間において，課題発見・解決学習のための授業づくりを行うことで，主体的・対話的で，深い学びを実現することができるであろう。

(5) 研究内容（研究の方向）

- 教科のカリキュラム開発と評価，検証を中心に単元開発を進める。
- 基礎的・基本的な力を付けたり，意欲を高めるためのモジュール授業の工夫を行ったりして，基礎的な知識の定着を図る。
- PDCA 検証部会を設け，学校全体としての研究の方向性を共有しながら，PDCA サイクルに基づいた単元ごとの検証と改善を行い，単元の質の向上を図るとともに国語科や算数科における資質・能力の系統表を作成する。
- 特に割合に関しては，
 - ・全学年で割合につながる考え方を身に付ける系統的な指導を工夫する。（立式の理由の説明に重点を置いた指導。割合につながるモジュール教材の開発。）
 - ・第5学年の割合指導において，児童の対話や問題づくり等を中心とした指導の工夫を行う。

(6) 検証の指標

成果指標	指標	達成目標	検証時期	検証方法
*本県の指標を参考にする こと	「基礎・基本」定着状況調査における通過率	県平均 +13	平成29年6月 平成30年2月	「基礎・基本」定着状況調査問題を利用
	全国学力・学習状況調査における正答率	県平均 +16 (B問題) 県平均 +12 (A問題)	平成29年4月 平成30年2月	全国学力・学習状況調査問題を利用
	「基礎・基本」定着状況調査等の質問紙調査の肯定率	肯定的回答 75%以上	平成29年6月 平成30年2月	「基礎・基本」定着状況調査問題を利用

3 指導・助言者

氏名	所属・職名等	備考
笠井 健一	文部科学省・教育課程調査官	
林 武広	比治山大学・比治山短期大学副学長 広島大学名誉教授	
河野 智文	福岡教育大学・教授	
岩田 耕司	福岡教育大学・准教授	
平田 恭子	広島県東部教育事務所・指導主事	
神鳥 裕史	広島県東部教育事務所・指導主事	
西谷由季子	広島県東部教育事務所・指導主事	
山口 晴子	尾道市教育委員会・指導主事	
大矢 純一	尾道市教育委員会・指導主事	
佐藤 喜昭	尾道特別支援学校・教育相談主任・地域支援部長	
井桁 陽介	尾道特別支援学校・教育相談主任	

4 研究計画

	月 日	研 修 内 容	講 師
4	4日(火)	研究構想について モジュール授業について	
	18日(火)	全国学力・学習状況調査	
5	1日(月)	授業研究(モジュール1組)	
	2日(火)	授業研究(モジュール2組) 協議会(モジュール)	
	17日(水)	学びの革新推進協議会(谷川)	
	29日(月)	授業研究①算数科(谷川)	笠井先生(文部科学省)
	31日(水)	授業研究②国語科(島本)(上田)	河野教授(福岡教育大学)
6	9日(金)	授業研究③算数科(亀本)(舩上)	岩田准教授(福岡教育大学)
	13日(火)	「基礎・基本」定着状況調査	
	20日(火)	授業研究④国語科(灰垣)(岡)	河野教授(福岡教育大学)
	29日(木)	授業研究⑤算数科(隆杉)(菅方)	岩田准教授(福岡教育大学)
	30日(金)	授業研究⑥特別支援教育(黒飛)(渡邊)	佐藤先生(尾道特別支援学校)
7	3日(月)	授業研究⑦特別支援教育(内海)	井桁先生(尾道特別支援学校)
	7日(金)	教育センター研授業(保森)	
	24日(月)	P D C A 検証部会 1学期の反省 教育研究会に向けて モジュール授業について モジュール教材開発	
	28日(金)	教育研究会単元計画提出	
8	9日(水)	理論研修(国語科)	河野教授(福岡教育大学)
	10日(木)	理論研修(算数科)	岩田准教授(福岡教育大学)
	21日(月)	研究会モジュール指導案提出 紀要【具体的な取組】提出	
	25日(金)	学力テスト分析 道徳地域公開指導案提出	
9	20日(水)	検証授業(算数科5年)	
	22日(金)	紀要【成果と課題】提出	
11	20日(月)	教育研究会	笠井先生(文部科学省) 林教授(比治山大学) 河野教授(福岡教育大学) 岩田准教授(福岡教育大学) 佐藤先生(尾道特別支援学校) 井桁先生(尾道特別支援学校)
	21日(火)	P D C A 検証部会 教育研究会反省(総括)	
1	12日(金)	総合学力テスト	
	18日(木)	尾道市学力テスト	
	23日(火)	6年目研(亀本)	
2	5日(月)	全学年検証実施	
3	8日(木)	P D C A 検証部会 来年度研究について	

土堂小学校版！ 国語科「主体性・積極性」の系統表

資料

学年		低学年	中学年	高学年
国語科	(見通し) 課題発見	教師との対話によって、学習の見通しをもつことができる。	既習学習を想起し関連づけながら、教師の支援を得つつ、学習の見通しをもつことができる。	児童相互の対話によって学習の見通しをもち、必要に応じて見直すことができる。
	学習展開 課題解決	自らの疑問について、調べたいという意欲をもつことができる。	解決のために必要な方法や手段を考え、実行することができる。	課題解決に向けて計画を立て、情報を集め、よりよい方法で解決することができる。
	次への展望 ふり返り	学習目標（ねらい）について、達成したことや困難だったことを振り返ることができる。	学習内容について、自分の考えを明確にしたり、既習内容と関連させたりして振り返ることができる。	学習内容や学習方法について自己評価したり、次時に向けての課題を設定したりすることができる。
	対話性	友達の多様な考えに関心をもち、積極的に交流・共有しようとする。	友達の考えの、とくに相違点に関心をもち、自分の考えを見直そうとする。	多様な考えを対話によって分類・整理し、目的を意識して再構成しようとする。

土堂小学校版！ 算数科「主体性・積極性」の系統表

学年		低学年	中学年	高学年
算数科	見通し	<ul style="list-style-type: none"> 具体物を用いた活動を通して、数量や図形についての感覚を豊かにする。 数学的に考えることや数理的な処理に親しもうとする。 算数の学習が生活や学習と関係があることを見付けようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 数量や図形についての感覚を豊かにする。 数学的に考えることや数理的な処理のよさに気付く。 算数の学習を進んで生活や学習に活用しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活と結び付けて考え、数量や図形についての感覚をより豊かにする。 数学的に考えることや数理的な処理のよさに気づき、活用しようとする。 よりよく生活や解決するために、算数の学習を進んで生活や学習に活用しようとする。
	課題解決	<ul style="list-style-type: none"> 疑問をもち、よりよく問題を解決しようとする。 数字や図形を絵や具体物と関連付けて考えようしたり、具体物を数字や図形に表現しようしたりするなど、抽象と具体の双方から考えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決などにおいて、よりよいものを求め続けようとする。 抽象的を具体的に表現したり、表現されたことをより一般的に表現したりするなど、多面的に考えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決などにおいて、よりよいものを求め続けようとする。 抽象を具体的に表現したり、表現されたことをより一般的に表現したりするなど、統合的・発展的に考えようとする。
	次への展望 ふり返り	<ul style="list-style-type: none"> 自分が解いた問題を振り返り、自分が解いた計算や図が正しいのか、別の方法や友達の方法で確かめようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分や友達が解いた問題を振り返り、解答や解き方が正しいのか複数の考えを比べて、共通点や相違点を見付けながら検討しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分や他者が数学的に表現・処理したことを振り返り、根拠を明らかにしながらよりよい方法や新しい課題を見付け、批判的に検討しようとする。

土堂小学校版！ 国語科「思考力・表現力」の系統表

—読むことの学習につながる系統性—

指導事項	低学年	中学年	高学年
構造と内容の把握 叙述を基に，文章の構成や展開を捉えたり，内容を理解したりすること 【C読むこと(1)イ】	場面の様子や登場人物の行動 など，内容の大体を捉えること。	登場人物の行動や気持ち などについて，叙述を基に捉えること。	登場人物の相互関係や心情 について，描写を基に捉えること。
精査・解釈 文章の内容や形式に着目して読み，目的に応じて必要な情報を見付けたり，書かれていること，あるいは書かれていないことについて，具体的に想像すること 【C読むこと(1)エ】	場面の様子に着目して， 登場人物の行動 を具体的に想像すること。	登場人物の気持ちの変化や性格，情景 について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。	人物像や物語などの全体像 を具体的に想像したり， 表現の効果 を考えたりすること。
考えの形成 文章の構造と内容を捉え，精査・解釈することを通して理解したことに基いて，自分の既存の知識や様々な体験と結び付けて感想をもったり考えをまとめたりしていくこと 【C読むこと(1)オ】	文章の内容と自分の体験とを結び付けて， 感想をもつ こと。	文章を読んで理解したことに基いて， 感想や考えをもつ こと。	文章を読んで理解したことに基いて， 自分の考えをまとめる こと。
共有 文章を読んで形成してきた自分の考えを表現し，互いの考えを詰め合ったり，比較して違いに気付いたりすることを通して，自分の考えを広げていくこと 【C読むこと(1)カ】	文章を読んで 感じたことや分かったこと を共有すること。	文章を読んで感じたことや考えたことを共有し， 一人一人の感じ方などに違いがあること に気付くこと。	文章を読んでまとめた意見や感想を共有し， 自分の考えを広げる こと。

土堂小学校版！ 算数科「思考力・表現力」の系統表 —割合の学習につながる立式の系統性に着目して—

学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生		
めざす資質・能力	日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察する力							
	問題場面を適切に表して演算決定する力	「1つ分の数×いくつ分」や「何倍か」を用いて、全体の大きさを考える力	「1つ分」を「もとにする大きさ(1つ分、1倍)」として捉え、わり算を用いて、何倍かを考える力 かけ算を用いて、倍の大きさを考える力	「いくつ分」から「割合の見方」で倍を捉える力 「割合の見方」を用いて、かけ算になる理由を説明する力	かけ算を用いて、小数倍の大きさを考える力 基準量や比較量が小数のときも、わり算を用いて、何倍かを考える力 基準量・比較量・割合の関係を捉える力	「割合の見方」を用いて、身の回りの事象を捉え、見通しをもち筋道を立てて考える力		
めざす説明の姿(3年生以上はわり算)	数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力							
	ブロック操作やまる図等で、式の意味や立式した理由を表現する力	テープ図・比例テープ図で、かけ算で立式した理由を説明する力	比例テープ図・比例数直線で、わり算やかけ算で立式した理由を説明する力	比例数直線で、「割合の見方」でわり算やかけ算で立式した理由を説明する力	比例数直線や線分図等で、「割合の見方」で小数倍などの立式した理由を説明する力 図を用いて、基準量・比較量・割合の関係を説明する力	比例数直線・線分図等で、「割合の見方」を用いて立式した理由を説明する力		
めざす説明の姿(3年生以上はわり算)	<p>たしざん</p> <p>あめが6つあって、ガムの数あめより3つ多いので、6+3をして答えは9です。(求大)</p> <p>たしざん</p> <p>まえは6人、わたしを入れて6人で、わたしのうしろにいる人は3人なので、6+3で9人です。(順序数を含む加法)</p> <p>ひきざん</p> <p>あめとガムを1つずつ比ます。すると3つちがいます。だから、9-6=3で、あめが3つ多いです。(求差)</p>	<p>かけ算(1)</p> <p>3cmが1つ分で、その2つ分だから3×2です。</p> <p>1つ分を意識</p>	<p>わり算</p> <p>36mは4つ分で、その1つ分にあたる(もとにする)大きさを求めるので36÷4です。</p> <p>「1つ分」=「もとにする大きさ」を求める(等分除)</p>	<p>小数÷整数</p> <p>7.3mを5としたとき、1にあたる数を求めるので7.3÷5です。</p> <p>「もと=1つ分」から「割合の見方」へ</p>	<p>整数÷小数</p> <p>4mを0.8としたとき、1にあたる数を求めるので4÷0.8です。</p> <p>「割合の見方」を小数で(基準量)</p>	<p>割合</p> <p>60㎡を20(0.2)としたとき、100(1)にあたる数を求めるので60÷0.2です。</p> <p>基準量を求める(第3用法)</p>	<p>速さ</p> <p>170kmを2.5としたとき、1にあたる数を求めるので170÷2.5です。</p> <p>速さを求める(基準量)</p>	<p>分数÷分数</p> <p>2/5㎡を3/4としたとき、1にあたる数を求めるので2/5÷3/4です。</p> <p>基準量を求める</p>
	<p>かけ算(1)</p> <p>3が1倍で、4倍はその4つ分だから3×4です。</p> <p>「倍」を意識</p>	<p>わり算、テープ作り</p> <p>1つ分にあたる(もとにする)大きさが9cmで、いくつ分かを求めるので36÷9です。</p> <p>「もとにする大きさ」の「いくつ分」かを求める(包含除)</p>	<p>小数÷整数、倍の計算</p> <p>2mを1としたとき、13.5mにあたる数を求めるので13.5÷2です。</p> <p>「いくつ分」から「割合の見方」へ</p>	<p>整数÷小数</p> <p>2.4Lを1としたとき、8.4Lにあたる数を求めるので8.4÷2.4です。</p> <p>「割合の見方」を小数で(倍、割合)</p>	<p>割合</p> <p>300㎡を100(1)としたとき、60㎡にあたる数を求めるので60÷300です。</p> <p>割合を求める(第1用法)</p>	<p>速さ</p> <p>68kmを1としたとき、170kmにあたる数を求めるので170÷68です。</p> <p>時間を求める(倍、割合)</p>	<p>分数÷分数</p> <p>3/5㎡を1としたとき、1 4/5㎡にあたる数を求めるので1 4/5÷3/5です。</p> <p>倍、割合を求める</p>	

学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生		
	<p>ひきざん</p> <p>左ひくは、わたしを入れて6人で、全員で9人から、わたしの右ひくは9-6で、3人です。 (順序数を含む減法)</p> <p>ひきざん</p> <p>あめは9つで、ガムはあめより3つ少ないので、9-3をして答えは6つです。(求小)</p> <p>ひきざん</p> <p>1人が1つずつおかわるので、5人おかわります。だから、おかわらない人は、7-5で2人です。(異種のものの数量を含む減法)</p> <p>ひきざん</p> <p>あめを3つもらったら全部で5つになったので、はじめの数は5-3をして2こです。(増加前推論, 2年)</p> <p>参考: みんなと学ぶ小学校算数(学校図書) 新しい算数(東京書籍)</p>	<p>かけ算(1)</p> <p>3cmが1つ分で、その2つ分だから3×2です。</p> <p>1つ分を意識</p>	<p>かけ算の筆算</p> <p>長いなわの長さは、短いなわの長さをもとにすると3つ分だから、140×3です。</p> <p>「1つ分」=「もとにする大きさ」を使って求める</p>	<p>倍の計算</p> <p>180cmを1としたとき、3にあたる長さを求めるので、180×3です。</p> <p>「割合の見方」へ</p>	<p>分数×整数</p> <p>2/5を1としたとき、2にあたる大きさを求めるので、2/5×2です。</p> <p>分数×整数(比較量)</p>	<p>割合</p> <p>300㎡を100(1)としたとき、20(0.2)にあたる数を求めるので300×0.2です。</p> <p>比較量を求める(第2用法)</p>	<p>速さ</p> <p>68kmを1としたとき、2.5にあたる大きさを求めるので68×2.5です。</p> <p>道のりを求める(比較量)</p>	<p>分数×分数</p> <p>3/5 dLを1としたとき、5/2にあたる大きさを求めるので3/5×5/2です。</p> <p>比較量を求める</p>
	<p>かけ算(1)</p> <p>3が1倍で、4倍はその4つ分だから3×4で12です。</p> <p>「倍」を意識</p>	<p>かけ算の筆算</p> <p>1つ分の値段をもとにすると全部の代金は3倍だから、20×3です。</p> <p>「1倍」=「もとにする大きさ」を使って求める</p>	<p>小数×整数</p> <p>0.3Lを1としたとき、6にあたる大きさを求めているので、0.3×6です。</p> <p>「割合の見方」へ</p>	<p>整数×帯小数</p> <p>80を1としたとき、2.3にあたる大きさを求めるので、80×2.3です。</p> <p>帯小数倍へ(比較量)(2.3)</p>	<p>割合</p> <p>24を100(1)としたとき、125(1.25)にあたる大きさを求めるので、24×1.25です。</p> <p>百分率へ(比較量)(1.25)</p>	<p>速さのまとめ</p> <p>0.34kmを1としたとき、5にあたる大きさを求めるので、0.34×5です。</p> <p>道のりを求める(比較量)</p>	<p>整数×分数</p> <p>3kmを1としたとき、4/3にあたる大きさを求めるので、3×4/3をしてです。</p> <p>分数倍へ</p>	
	<p>かけ算(1)</p> <p>3が1倍で、4倍はその4つ分だから3×4で12です。</p> <p>「倍」を意識</p>	<p>□を使った式</p> <p>1本分の値段を□とすると、□がもとのので、全部の代金はその10倍だから、□×10=800です。</p> <p>「1倍」=「もとにする大きさ」を使って求める</p>	<p>整数×帯小数</p> <p>20mを1としたとき、2.5にあたる大きさを求めるので20×2.5です。</p> <p>帯小数倍から導入(2.5, 1.5)</p>	<p>整数×純小数</p> <p>80を1としたとき、0.8にあたる大きさを求めるので80×0.8です。</p> <p>純小数倍へ(比較量)(0.8)</p>	<p>割合</p> <p>24㎡を100(1)としたとき、25(0.25)にあたる数を求めるので24×0.25です。</p> <p>百分率へ(比較量)(0.25)</p>	<p>速さのまとめ</p> <p>60kmを1としたとき、1/3にあたる大きさを求めるので、60×1/3です。</p> <p>道のりを求める(比較量)</p>	<p>比とその利用</p> <p>砂糖と小麦粉の重さの比は5:7。砂糖の重さは、小麦粉の重さを1としたときの5/7にあたります。だから、140×5/7です。</p> <p>「割合の見方」で</p>	

自分に身に付いてきた「コンピテンシー」(資質や能力)を振り返ろう。()学期 年 組 番 名前()

	活動内容		活動内容
①		⑨	
②		⑩	
③		⑪	
④		⑫	
⑤		⑬	
⑥		⑭	
⑦		⑮	
⑧		⑯	

あてはまるところだけ印を付けましょう。よくできた◎ できた○ あまり△ ※全部に○, △, ×を付けなくていいです。

コンピテンシー		活動番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
スキル																		
いよく 意欲・態度	たいど																	
かちかん 価値観	りんりかん 倫理観																	
ち 知	しき 識																	

付けたい力, なりたい姿(すがた)

	がんばったこと, 成長してきていることなど	もっと~してみたいこと, 次の目標など
①		
②		
③		
④		

⑤		
⑥		
⑦		
⑧		
⑨		
⑩		
⑪		
⑫		
⑬		
⑭		
⑮		
⑯		

III 実践のまとめ

身の守り方を読み取って紹介しよう!

国語

第1学年

尾道市立土堂小学校

指導者 灰垣 亜希子

単元名

「事柄の順序に気を付けて動物を紹介しよう」

1年 どうぶつのみのもりかたをしよう

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力

1 単元でめざす資質・能力

【思考力・表現力】

- 事柄の順序に気を付けながら、挿絵や叙述から内容を正しく読み取り、表現している。

2 課題発見・解決学習の構想とポイント

本学級の児童は、国語が好きと答える児童は29人中23人おり、積極的に発言したり、自分の意見を友達に伝えたりする様子が見られる。しかし、本文の叙述や挿絵を根拠として自分の意見をもつのではなく、自由な想像からでしか意見をもてない児童が多い。また、自分の考えが言葉にできず、発言することができない児童もいる。

そこで、動物の身の守り方の紹介カードを作成するという単元のゴールを設定し、名前、体、問い、身の守り方を表す大事な言葉を見付けさせるため、教師の後に続いて読んだり、一斉読み、一人読みをしたりと音読を繰り返し行っていく。また、言葉の意味をおさえながら学習を進め、児童が紹介カードを書くときの手掛かりになるように進めていった。

3 具体的な実践の場面

(1) 単元構成

動物の紹介カードを最終的に作成することを伝え、今からすぐ作成するのは難しいことを確認した後、紹介カードを作成するためには、動物の名前、体の特徴、身の守り方を教科書から読み取っていく必要があることに気付かせた。



それぞれの動物について、①名前②体③問い④身の守り方という順番で紹介されており、名前は黄、体は赤、問いは緑、身の守り方はピンクという色分けをして板書をしたり掲示物を作成することで、視覚的に事柄の順序を読み取ることができるようにした。その際、色の順番だけで理解するのではなく、事柄の内容を理解できるように1文ずつ何が書かれているのか、確認しながら進めていった。

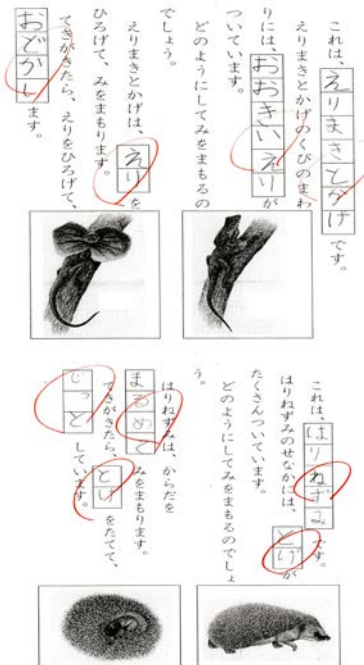
(2) スカンクの身の守り方を読み取る。(本時5/8)

ヤマアラシやアルマジロの時と異なり、「てきがきたら」と「てきがにげないと」の2段階で説明されていることに気付かせ、読み取っていった。しるをとばして身を守る所では、「とばす」ってどういうことだろう、と問い、始めは「ぴちやぴちや」と発言する児童やうまく言葉で表せない児童がいた。しかし、ペアになって1人が敵役、もう1人が身を守る動物役になったり、教師が敵役、児童が身を守る動物役になったりして動作化させることで、「とばす」という表現は、「ロケットのように発射する感じ」「シャーってちらす感じ」などと共通の理解をもつことができた。他にもさかだちをして驚かす場面の動作化を行い、身の守り方の理解をより深めることができた。



(3) 紹介カードを作成する。(7/8)

エリマキトカゲとハリネズミを扱って、動物の身の守り方の紹介カードを作成した。



エリマキトカゲでは、しっぽが長いことやつめが生えていること、えりがついていることなど様々な体の特徴を見付けることができ、紹介カードにはそれらの体の特徴を書くのではなく、身を守るために必要な体の特徴を全員が書くことができていた。しかし、エリマキトカゲの目線になって「大きなえり」と書くことができた児童は24人おり、児童目線のまま「小さいえり」と書いた児童は3人いたため、その動物の目線で書くという共通理解をもたせておくべきだった。

ハリネズミでは、プリントの挿絵からそれまでの学習で読み取ってきた「ヤマアラシの体にはかたいとげがはえている」という体の特徴や、「アルマジロは体をまるめて敵が来たらそのままじっとしている」という身の守り方を生かして、全員が正しく紹介カードを書くことができていた。

4 考察(成果や課題の要因、今後の単元の改善に向けて)

- 本文の内容を順序に気を付けて正しく読み取るために、音読を教師の後に続いて読んだり、一斉読みをしたり、と様々な方法で繰り返し行うことができた。

また、読み取っていく中で、動作化を取り入れることによって、より身の守り方の理解を深めることができた。

- 動作化をする際、「さかだちをしておどかさ」時の体の向きと、「しるをとばす」時の体の向きが反対になることに気付いている児童と、そうではない児童がいたため、動作化を正しくできていない部分があればその部分を訂正して、全体で確認するべきだった。

また、評価方法をワークシートにしていたため、実際の紹介カードを用いて授業を進めていく、という方法もあったと感じた。

音読を工夫して紙芝居を発表しよう!

算数

第2学年

尾道市立土堂小学校

指導者 岡 明美

単元名

「登場人物の気持ちを音読で伝えよう」 2年 場面ごとに読もう

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力

1 単元でめざす資質・能力

【思考力・表現力】

- 場面ごとに想像を広げて読むことを通して、叙述を手がかりに大まかな展開を捉えることのできる力や音読で登場人物の気持ちを表現する。

2 課題発見・解決学習の構想とポイント

本単元では、文学的文章読解の基本として、物語がいくつかの場面からできていることを知り、場面ごとに人物の様子や気持ちを押さえながら読む力を付けることをねらいとする。

単元の導入では、生活科の学校探検で仲良くなった1年生に紙芝居の発表をするという言語活動のゴールをみんなで話し合い、そのためにどのような学習をし、練習していけばよいかの学習計画を児童と一緒に考えた。気持ちのこもった音読をするためには、登場人物の行動や会話から気持ちをみんなで学習していけばよいということになり、5つの場面に分け、登場人物の気持ちを読み取っていった。

本時は、4場面の「幸せな気持ちでお手紙を待つ」という幸せな気持ちに焦点を当て、「幸せな気持ちはどんな気持ちか。」「幸せな気持ちはどのように読めば伝わるか。」を考えさせることにより、音読の工夫ができると考えた。

また、各場面で話し合った登場人物の気持ちや音読の工夫をもとに、グループで紙芝居の発表に向けて練習を行い、1年生に喜んでもらおうとした。

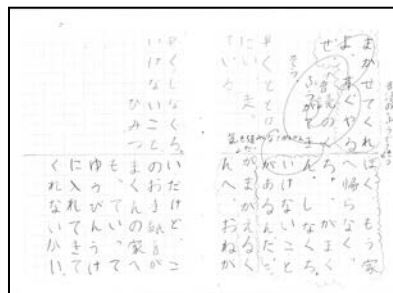
3 具体的な実践の場面

(1) 場面に分けて、登場人物がしたこと順序を捉える。

「お手紙」は、がまくんとかえるくんの二人の登場人物を中心に、5つの場面で構成されている。叙述の挿絵や会話をもとに5つの場面に分けることができ、大まかな展開や登場人物の気持ちの変化がとらえやすい。

第2次では、がまくんとかえるくんの行動や会話について、色分けをして線を引き、順序を考えてノートにまとめた。また、全体で確認するために、行動や会話を書いた短冊を並べ替えた。

気持ちを考えるときに、その表を使って考えると説明がしやすく、また気持ちの変化が分かりやすかった。



(2) 登場人物の気持ちを考えて、音読を工夫する。

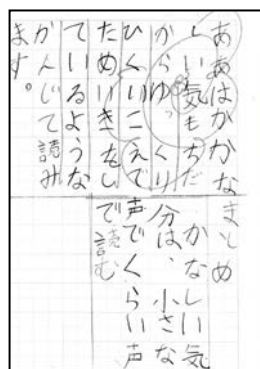
資料①【ペアでの交流】



資料②【全体思考】



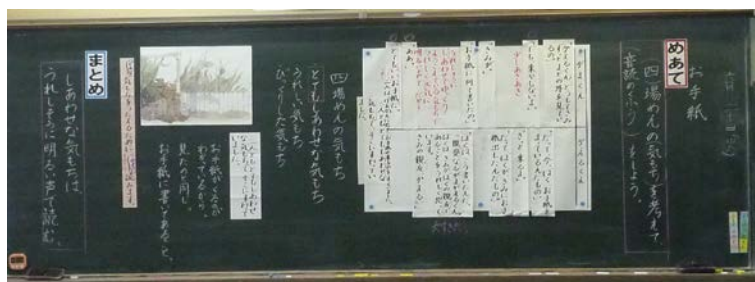
資料③【班で練習】



資料④【児童のノート】



資料⑤【本時の板書】



資料⑥【紙芝居の発表】



資料①は、個人で考えたことをペアで交流している場面である。個人思考したものを全体のものにする前に、ペアで交流をして自分の考えを相手に伝えるようにした。そのことにより、自分の考えが広がったり、全体の前で発表する自信を付けたりしているように思えた。資料②の全体思考では、いろいろな児童の考えが出てくるように、机間巡視をしながら、発表につながりそうな意見を把握するようにした。資料③の班での練習では、役割を決めて練習する中で、お互いにアドバイスしたり認め合ったりするようにした。資料④の児童のノートでは、登場人物の気持ちを伝えるために、気持ちが分かる部分を見つけ、その時の気持ちを想像し、どのように音読をしようとしているかが書かれている。資料⑥は、1年生に練習の成果を発表している様子である。1年生が一生懸命発表を聞いてくれて、終わったらよかったところを発表してもらったので、2年生は学習してきてよかったという成就感を味わうことができた。

4 考察(成果や課題の要因、今後の単元の改善に向けて)

- 昨年度、自分たちが1年生の時に2年生がしてくれたように、自分たちも1年生に紙芝居を読んでもあげたいという気持ちを持ち続けて学習することができた。また、単元を学習する前に、音読の工夫の仕方が分からないから工夫していないと答えていた児童が、1年生の前で意欲的に気持ちを込めて紙芝居の発表をすることができた。音読を工夫するためには、登場人物の気持ちに着目する必要があることに気付いていた。
- 登場人物の気持ちを考えて、このように読みたいという気持ちはあっても、それが表現の時に思っていたように実際にできていないことがあった。技能面を重視するよりも、このように読みたいという気持ちを評価するようにした。「お手紙」では音読の工夫ができ達成感を味わっていたが、それをさらに広げるところまでは至っていないので、次の教材や読書の時に生かしていけるようにしていきたい。

いつ・どこで・どのようにのぶよの心情が変化したのか読み取ろう！

国語

第4学年

尾道市立土堂小学校

指導者 島本 佳代子

単元名

「本紙独占スクープを取れ！「走れ」新聞を発行しよう」 4年 人物の変化をとらえよう

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力

1 単元でめざす資質・能力

【思考力・表現力】

- 自分の感情や想像を言葉にしたり、考えを集団で伝え合うことで自分の考えを広げ深めたりしている。

2 課題発見・解決学習の構想とポイント

単元の導入では、ある試合で活躍した選手を特集した新聞記事を3枚提示した。そこで、児童が新聞記者になって、のぶよを特集した「走れ」新聞を書くことを提案し、意欲付けを行う。3枚を比較し、新聞には何が書かれているのかを見付け、学習計画を立てさせた。また、新聞を完成させるためには、物語全体を読んだり、のぶよの心情の変化について、場面の移り変わりや叙述を基に想像して読まなければならないという課題意識をもたせたりした。出来上がった新聞は、昨年度の学習をもとにした感想をもらえるであろう5年生に発表し、さらに意欲を高めさせた。

本時では、「のぶよの思い出ランキングベスト1」の記事を書くことで、場面の移り変わりを関連付けた心情の変化の読み取りができると考えた。ランキングの基準は児童各々で違いがあるが、自分の考えを可視化することで、自分と友達の考えを比較したり関連付けたりしやすくなる。また、同じ順位でも理由が異なる等、自分と友達の意見の共通点や相違点をはっきりさせながら考えを深めさせた。

3 具体的な実践の場面

(1) 本時の「対話」の設定と手立て

本単元では、「対話」の対象として、①児童と児童②児童と教師③児童と教材文④以前の自分の考えと今の自分の考え⑤今の自分の考えと未来の自分の考えの5つを意識付けて取り組んだ。

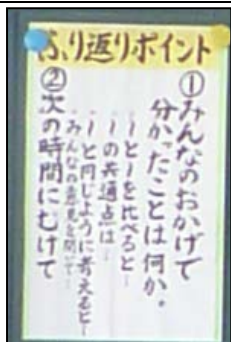
○「①児童同士」の対話の手立て

のぶよの思い出BEST1を選ぶ際、A：運動会に遅れて駆け付けたお母ちゃん B：特製のお弁当 C：割り箸の袋に名前入りの応援メッセージ D：お母ちゃん・けんじの声援 E「走れ！そのまんま、走れ！」で走った F：ラストが誇らしく聞こえた Gけんじと笑いながら走り続けた以上7つの選択肢を設けた。7つから選択し、その理由を話し合うことで、どの児童も自分の意見をもつことができていた。

話し合う際には、各グループに「話し合い虎の巻」を配布した。自分の意見を一方的に伝えるのではなく、まずは友達の意見を受け容れ、そこから自分の意見をつなげて話すことができるようにした。この手立てにより、自分と友達の意見を比べながら聞く必然性をもって話し合いに参加したり、同じ意見でも理由が違うことに気付いたりして意見が更新されていったりすることができた。



○「④以前の自分の考えと自分の考え」「⑤今と未来の自分の考え」の対話の手立て



資料①

授業の冒頭で「ふり返りのポイント」を提示した。(資料①) 冒頭で提示することで、ふり返りやすくなったり、メタ認知能力を高めたりすることにつながられた。

ふり返りの際、自分の考えが変わった児童も変わらなかった児童も、自分と友達の意見を比較したり、友達の意見のよさを実感したりすることができた。(資料②)



資料②

(2) 学びの「実行」「ふりかえり」

学習が進むにつれて新聞が完成していくことで、「早く完成させたい」「5年生に見てもらいたいな」と児童の意欲が高まっていった。「編集後記」の欄には、初読の感想では内容の上辺を読んだだけのものが多かったが、「人の応援が力になることが分かった」「来年の運動会は、のぶよは自信をもって走れると思う」等、自分なりの読後感を書いてまとめることができた。

4 考察(成果や課題の要因、今後の単元の改善に向けて)

○ 実際の新聞記事から、自分の新聞にどう生かすかを考えさせ、自分たちで学習計画を立てさせたことにより、主体的な学びを進めていくことができた。また、昨年度学習を終えた5年生から新聞を読んだ感想をもらったことで、さらに意欲を高めることができた。

● 中心人物のぶよに焦点を当てて心情の変化を読み取らせていったが、お母ちゃん・けんじとの関係性のとらえが十分でなかったために、細かな心情の変化が表れている叙述に着目させることができなかった。3人の登場人物の心情の変化をそれぞれおさえた上で、関係性をとらえさせる学習を二次の中に組み込むことが必要だった。

お気に入りの工夫して推薦!

国語

第5学年

尾道市立土堂小学校

指導者 上田 千紘

単元名

「物語のクライマックスを見つけて、推薦文を作ろう。」 5年 物語の山場をとらえよう

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力

1 単元でめざす資質・能力

【思考力・表現力】

- 叙述を基に根拠をもってクライマックスを見付け、話し合ったり推薦文に書き表したりしている。

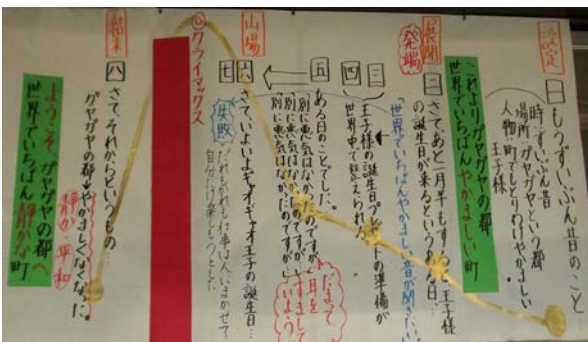
2 課題発見・解決学習の構想とポイント

本単元は、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、クライマックスを見付け、優れた叙述について自分の考えをまとめ、物語の推薦文を書くことをねらいとしている。

導入では、自分が新しい本を手にするとき、何をもとに選書するのかを交流させ、あらすじや本の帯の文章に引きつけられることを実感させる。そこで自分が推薦文を書いてみようという意欲付けを行う。その中で、本の内容を全て書くとおもしろくないということから、クライマックスを見付けることが必要であるという考えに行き着くようにする。また、クライマックスを見付けた後、推薦文を書く際にどこをぼかせるのかを各自で根拠をもって選ぶことができるように、内容を短い言葉でまとめておく。

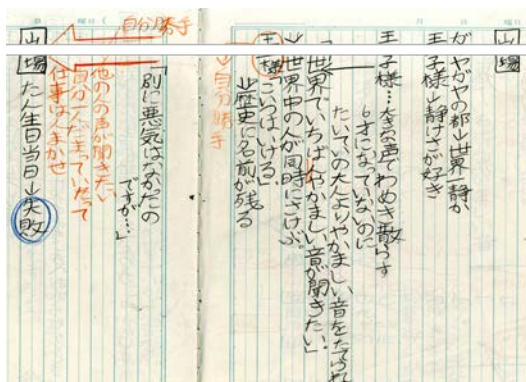
3 具体的な実践の場面

(1) 児童の思考の流れ

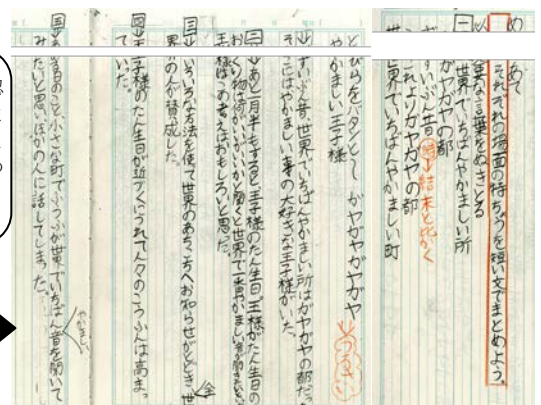
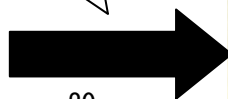


既習学習で場面の変わる箇所や山場を見付けることは比較的につづくことなくできた。文章構成を視覚的に捉えることができるように、構造図にまとめたり、人物関係図にまとめたりし、理解を深めた。

クライマックスを見付け、話し合う活動では、クライマックス候補が4つあり、話し合いをする中で、大きく分けて2つに絞られた。同じ箇所をクライマックスに選んでいても、選んだ根拠が違っていたり、基にした叙述が異なったりし、ペア、グループ、全体で話し合いを深めていった。



クライマックスの確認後、場面ごとに端的にまとめ、推薦文で書くところと書かないところの決定を行う。



聞き方の問題を解決して話し合う！

国語

第5学年

尾道市立土堂小学校

指導者 保森 智彦

単元名

「児童会に“あいさつ向上計画”を提案しよう。」（実生活の話題での話し合い）
5年 意見と理由を聞き取ろう

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力・自分への自信

1 単元でめざす資質・能力

【思考力・表現力】

- 複数の意見の共通点や相違点を考え、それらを基にして話し合い、提案内容を考えている。

【自分への自信】

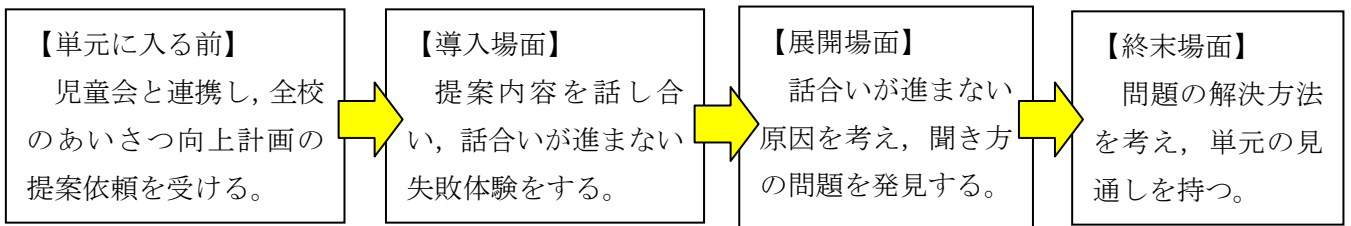
- 友達とのかかわりで自分が成長したことを自覚し、自信を高めている。

2 課題発見・解決学習の構想とポイント

本単元では、単元に入る前に児童会と連携して、学校のあいさつ向上計画を5年生から児童会に提案するという活動の目的をもたせるところからスタートする。そして、単元の導入では、児童会からの提案依頼を受け、5年生が学校のあいさつ向上計画を提案するために話し合い活動を行う。その中で、話し合いがうまく進まない状況を実感させることで、自分たちの話の聞き方にどんな問題があるのかという疑問をもたせる。そして、話し合いがうまく進まない原因を考えさせる中で、話の聞き方に問題があることに気付かせ、話し合いがもっと上手にできるようになるためにどのような話の聞き方をすればいいのかという問いをもたせる。単元では、この問題を国語の教科書を用いて解決し、再度、単元末に児童会への提案に向けた話し合いを実行し、話の聞き方や話し合いに関する自分の成長を実感する。

3 具体的な実践の場面

(1) 単元を学ぶ必然性をつくる課題発見の工夫（第1時）



五年生のみなさんへ
僕たち児童会では、全校のみんなが自分から進んであいさつをするように、あいさつ運動をしています。自分からあいさつしない人たちがいるので困っています。自分からあいさつしたいと思うのですが、児童会や六年生だけの力ではなかなか難しいです。
そこで、来年は学校のリーダーになる五年生のみなさんのお借りしたいと思えます。全校のみんなが自分から進んであいさつができるようになるためには、どんなことをしたらいいか、方法を考えてくれないか。
アを全校ですることではないので、ただ提案してください。ぜひ、学校のために、五年生の力を貸してください。よろしくお願ひします。
児童会より

単元前には、児童会と連携し、5年生が代表委員会を通じて全校のあいさつ向上計画の提案依頼を受けておく。第1時では、提案内容について話し合い、話し合いがうまく進まないという失敗体験をする。そこで、話し合いがうまく進まない原因を考え、自分たちの話の聞き方(スキル)の問題を発見する。そこで、問題の解決方法の一つとして国語の教科書を選び、単元の見通しをもつ。このことで、児童は教科書で聞き方を学習する意味を実感し、単元のゴールイメージを明確にして学習を進めることができた。

ブロックをうごかして、かんがえてみよう!

算数

第1学年

尾道市立土堂小学校

指導者 隆杉 佳代

単元名

「みんなでつくろう! けいさんデパート~のこりはいくつ? ちがいはいくつ?~」
1年 ひきざん(1)

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力 主体性・積極性

1 単元でめざす資質・能力

【思考力・表現力】

○ ブロック操作と図、式を関連付けて考え、問題の順番に筋道立てて説明している。

【主体性・積極性】

○ ひき算の本作りを通して、問題場面のイメージを深め、積極的にお話作り・問題作りに取り組んでいる。

2 課題発見・解決学習の構想とポイント

本単元では、減法の計算についてその意味を理解すること、計算の仕方を考えて説明できるようにすること、確実に計算できるようにすること、生活や学習の中で活用できるようになることをねらいとしている。

前単元の「たしざん(1)」で、「あわせて」と「ふえると」の問題を解き、それぞれの図を考えて説明することを通して、同じたし算でも図や問題場面が異なることを学習してきた。そして、児童が単元末で作成した「たし算の本」を計算デパートに掲示し、児童の意欲を高めることができた。

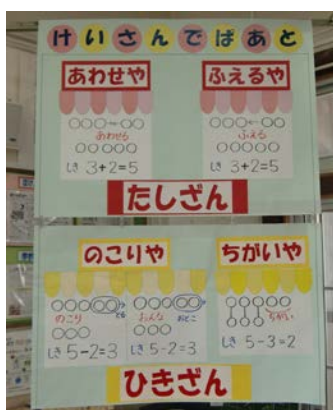
本単元でも、計算デパートの「たし算」の下の階に「ひき算」を作ることとし、どんなお店があるのか投げかけ、様々な問題に取り組んでいった。「のこりは」と「ちがいは」の問題を解き、たし算と同様、図や問題場面が違うが同じひき算で求めることができると学習を進めることができた。

計算デパートのお店を考えることで、加法には「合併」「増加」、減法には「求残」「求差」の問題場面があることを知り、問題場面のイメージを深めることができた。また、単元末に本を作って掲示することで、意欲的に問題作りにチャレンジすることができた。

3 具体的な実践の場面

(1) 主体的な算数的活動

計算デパート(資料①)のお店を児童と一緒に考えることを通して、加法・減法の問題場面の整理をすることができた。また、お店に置く本を作り、お互いに本を読み合うことで、積極的に問題作りやお話作りに取り組むことができた(資料②)。



資料①【計算デパート】



資料②【〇〇やの本】

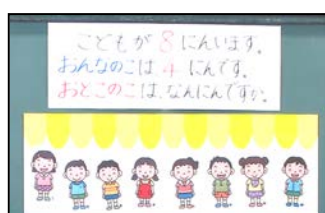
(2) 思考力・表現力をつける活動

①ブロック操作を繰り返し行い、図や式に表す

減法の学習でも、加法と同様に、具体的な問題場面（資料③）をまずブロックで操作し、問題場面のイメージを膨らませていった。似た問題を繰り返しブロック操作だけを行い、問題場面を把握した後、ブロックで操作したことを図に表していった（資料④）。複数のブロック操作の考えが出た場合は、問題場面にはどの操作方法が適しているのか、考えを交流していく。そして、図と式を結び付けながら説明（資料⑤）していくことで、減法の計算の意味を理解し、計算の仕方を考えていくことができた。



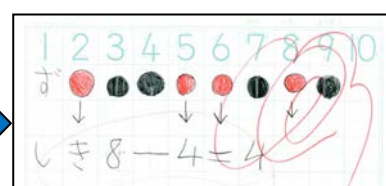
資料③【具体的な場面】



資料④【ブロックを図に表す】



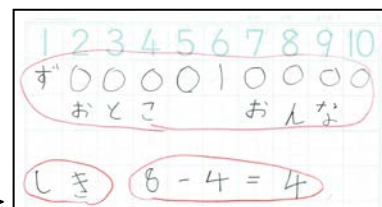
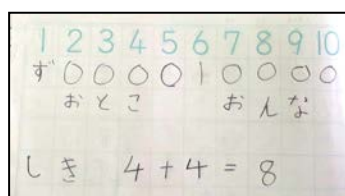
資料⑤【図を式に表す】



②対話・振り返りを取り入れ、自分の考えを深める

ブロック操作や図や式の説明など、自力解決の時間の後には、ペア対話を取り入れ、自分の考えを相手に伝える時間を毎時間設定していった。その後、全体で交流することで、自分の考えを整理したり、より考えを深めたりすることができるようにしていった。友達のとおりか、違うのかを尋ねることで、自分の友達の考えを比較しながら聞く児童が少しずつ増えてきている。

本時では、○図を友達に説明する中で、自分の考えた式が図に対応していないと気付き、式を自分で書き換え、答えを確かめて正しい式に気付く児童がいた。また、○図だけをかいていた児童が、友達の考えを聞き、より分かりやすい図になると○図に言葉を付け加えていた。



4 考察（成果や課題の要因、今後の単元の改善に向けて）

- 問題場面をイメージし、ブロック操作を繰り返し行い、図に表す活動を取り入れることで、文章にある言葉や数字のみで立式するのではなく、根拠を自分なりに明確にして立式することができるようになってきた。
- 単元を通して、「けいさんデパート」を作成することで、「○○や」の問題を作ろうと思考することで、問題場面をより具体的にイメージする児童が増えてきている。また、「たし算の本」や「ひき算の本」を掲示することで、友達の本を積極的に読み、加法や減法の問題場面に親しむことができるようになってきている。
- 本時で学習した図を描くことは、できるようになってきている。しかし、加法・減法を学習した後、図と式を求める単元末のプリントでは、合併・増加・求残・求補・求差の問題に適する図や式を求めることが難しい児童がいる。今後も、繰り返し図と式を関連付けて求めたり、説明したりする活動を取り入れ、習熟を図っていきたい。

「いくつ分」にこだわって長さを測ろう！

算数

第2学年

尾道市立土堂小学校

指導者 亀本 拓朗

単元名

「長さを正かくに、はかれるのかな？長さくらべをしよう！」 2年 長さ(1)

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力

課題発見・解決力

主体性・積極性

1 単元でめざす資質・能力

【思考力・表現力】

- 長さを測るために、「1つ分の何個分か」「〇こ分の1つ分は何か」を考え、「～の〇こ分」「〇cm」「〇mm」と長さを表している。

【課題発見・解決力】

- 自分と友達の考えの違いに気づき、その違いの差を埋めるために友達の意見などから情報を収集して、最終的な自分の考えている。

【主体性・積極性】

- 自分が学んだ長さの単位についての知識や長さの測定の仕方を利用して、量感を働かせて長さを予想したり身の回りの長さを測定したりすることに積極的に取り組んでいる。

2 課題発見・解決学習の構想とポイント

児童の実態として、量の加法性と保存性の認識が深まっていない児童が数名いたため、前学年の学習内容も踏まえて直接比較・間接比較・任意単位による比較の経験を十分に重ねられるように留意した。また、ものさしは直線を引くための道具であるという認識と、ものさしは長さを測るための道具であるという認識が児童の中で混在していると考えられた。そのため、単元の導入部では、「ものさしを使わずに長さを比べる方法はないだろうか」という課題提示を行い、任意単位を用いて長さ比べをする活動を行い、普遍単位の必要性を感じさせるようにした。

さらに、単元を通して、本単元の本質的な問いである「何のいくつ分か」と考える活動を単元の中で意図的に繰り返し経験させた。また、ものさしを使って決まった長さの線を引く活動を多く取り入れ、ものさしの使い方に習熟させると共に、量に対する感覚も養えるように留意した。

3 具体的な実践の場面

(1) 普遍単位のよさを実感する授業展開

単元の導入では、長さの測定方法として直接比較→間接比較→任意単位の順に取り上げ、前学年の学習内容を想起させたり、それぞれの測定方法の良さを感じさせたりした。

そして本時では、「見た目には同じだが長さが違う」ということを中心に活動を展開した。まずは、学習機の横の長さを測定する活動に取り組むことを確認した。活動の説明をした際には、これまで教室で使われていた学習機の大きさが教師用と児童用とで違うことを知り、少しばかり驚いていた。そして、長さの測定方法として様々な方法を想起させ任意単位による測定へと方向づけた。ここで問題になってくるのは、何を任意単位にするかということであった。教室には、積み木のようにして遊ぶための木の棒が大量に置いてあった。そのため、児童はそれを使い「木の棒の何個分か」で長さを表そうと考えた。しかし、実はこの木の棒、見た目には同じだが、それぞれの長さが8cm・9cm・10cmと違うため、「木の棒の何個分」で長さを表すと測定結果が違ってくる。ここで児童は木の

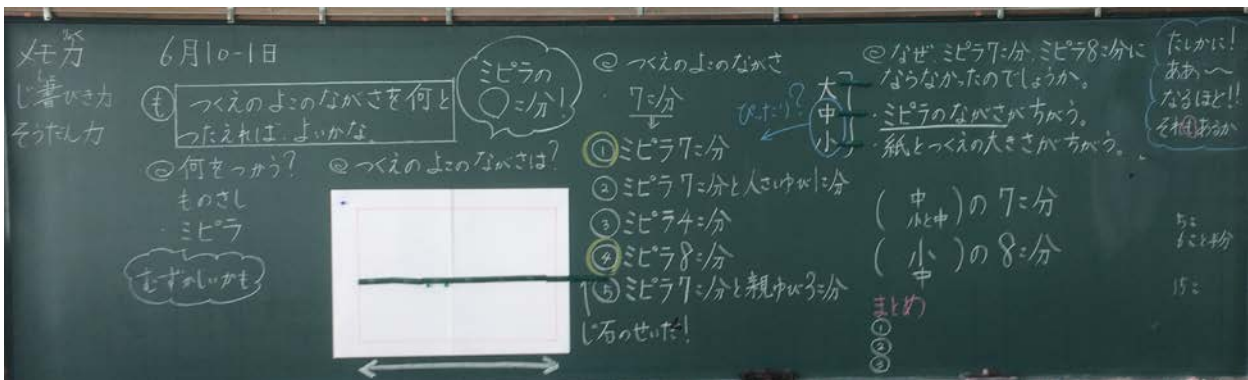
棒の長さが大中小の3種類あることに鋭く気付き、1つ分の長さを揃える必要性を感じていた。この場面は、単元の本質的な問いに直結する場面であったため、「8個分は何の8個分なのか」ということについて意図的に問い、再度任意単位による測定活動に取り組みさせた。

この一連の活動を通して、単位の大きさを揃える必要性を感じ取らせ、普遍単位の導入へと進んだ。

資料①【木の棒を使った任意単位による長さの測定活動】

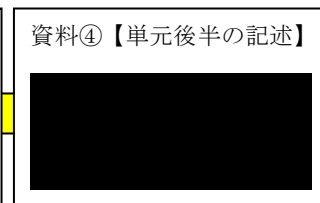
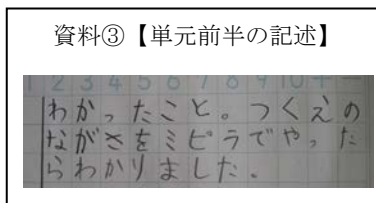


資料②【本時の板書】



(2) 児童の変容

単元前半（本時）において、資料③を見ると、本時の気付きについて「つくえのながさをミピラでやったらわかりました。」と、書かれていた。（ミピラとは、本時で測定に用いた木の棒のことである。）



単元後半において、資料④を見ると、単位の揃っていない長さの足し算の計算方法を考える際に「たんいをmmにして考えます。」と書かれていることがわかる。単元を通じて、「何のいくつ分か」と考える活動を単元の中で意図的に繰り返し経験させたことによって、単元後半になるにつれて、単位の揃える必要性を「たんい」「mm」という言葉によって適切に表現できるようになっていることがわかる。

4 考察（成果や課題の要因、今後の単元の改善に向けて）

- 単元構想の段階で、単元で理解すべき知識及び技能から、単元の本質的な問いを「～の〇こ分と考えること」と捉え、単元を通して「1つ分は何か」「〇個分は、何を1つ分になっているか」ということを意図的に問うていたり、定規の目盛りを「1cmの1個分、2個分、3個分、…」と指で数えていく活動を繰り返し行ったりすることで、普遍単位による測定においても「1cmの何個分」「1mmの何個分」という意識を児童にもたせることができた。
- 一方、例えば「1cmの何個分か」のように「いくつ分」にあたる量について考えることに比べて、「〇個分は、何を1つ分になっているか」というような「単位としているものは何か」ということについて考えることを児童は苦手にしてきた。視覚的に「1つ分」を見えやすくしたり、年間を通して様々な単元で「～の〇こ分」と問うていたりする必要があると感じた。

倍の計算にチャレンジしよう!

算数

第3学年

尾道市立土堂小学校

指導者 舛上 敏成

単元名

「倍の計算にチャレンジしよう！」

3年 テープ作り

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力 チャレンジ精神

1 単元でめざす資質・能力

【思考力・表現力】

- もとにする量・倍・倍に当たる量の関係を式に表したり、式と図を関係付けて考えている。

【チャレンジ精神】

- 既習のノートを見直して粘り強く考えたり、友達と話し合っ解決したりしている。

2 課題発見・解決学習の構想とポイント

本単元では、数量の関係を式に表したり式と図を関係付けて考えたりすることで、倍に関する計算の仕方を理解することをねらいとする。

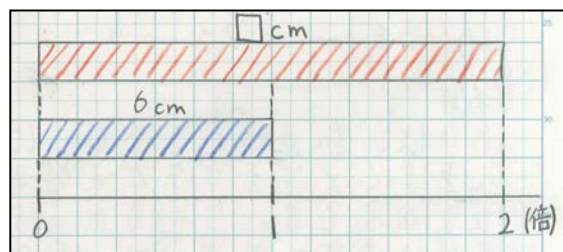
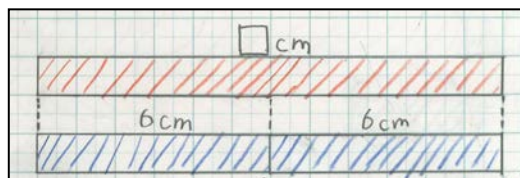
導入では、「倍に当たる長さ」を求めさせた。数量の関係を図に表すと、その関係がよく分かったり、自分の考えを分かりやすく説明できたりすることを実感できるようにした。

「何倍になるか」や「もとにする長さ」を求める学習では、数直線を使った図に表したり□を用いた乗法の式に表したりして考えさせた。図に表す場面では、問題場面に合う図について話し合わせることで、テープの長さや数直線の目盛りの大きさに着目させ、有用性を感じられるようにした。また、□を使った乗法の式と図を関連付けて説明させることで、倍や倍に関する計算の仕方を理解させた。

3 具体的な実践の場面

(1) 図に表すよさを実感させる単元の導入

「倍に当たる長さ」を求める場面では、乗法の式に表して求めることはできるが、その理由をうまく説明できない児童が多かった。そこで、テープ図を使って2本のテープの長さの関係を表し、その理由を考えさせた。テープ図だけでなく数直線も使った図に表すことで、関係が分かりやすくなることに気付かせた。図を指し示しながら説明することで、「もとにする長さ」と「倍に当たる長さ」の関係を明らかにすることができた。数量の関係を図に表すと、その関係がよく分かったり、自分の考えを分かりやすく説明できたりすることを実感できるようにした。



問題文

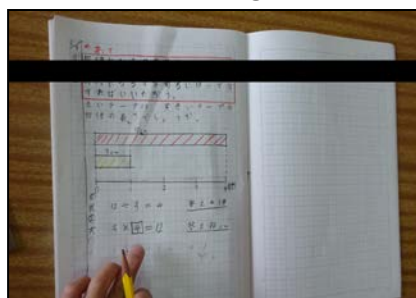
赤いテープは、青いテープの2倍の長さです。
青いテープ6 cmの2倍の長さを求めるので、
 $6 \times 2 = 12$
だから、赤いテープの長さは12 cmです。

(2) 問題場面と式、図を関連付けて考える学習展開

資料①



資料②



資料③



本単元の学習では、児童が数量の関係を数直線を使った図に表すことが初めてとなる。単元を通じて、問題場面を数直線を使った図に表して考えさせた（資料①・②）。そして、図に表された数量の関係を読み取って式に表したり、式が表していることが図と同じであることについて説明したりさせた（資料③）。それらの学習活動を通して、何倍になっているか図に表すには、数直線を使えば、もとにする長さの何倍かが簡単かつ明瞭に表せることに気付かせた。

また、自力解決をする前に問題場面に合った図について全員で話し合うことで、数量の関係を図に表すと、その関係がよく分かることを実感させた（資料④）。また、□を使った乗法の式と図を関連付けて説明させる場面では、図を示しながら話すことで、自分の考えを分かりやすく説明できることを実感できるようにした。

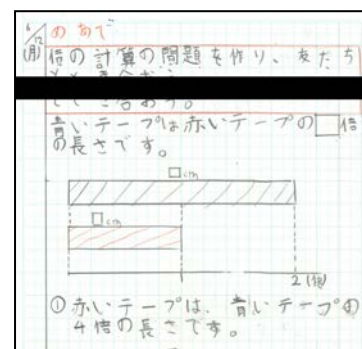
資料④



(3) 学習したことを活用した問題作り

単元末には、「もとにする量」や「倍（いくつ分）」、「倍に当たる量」のそれぞれを求める問題を児童自身に作らせ、友達と解き合う活動を設定した。いろいろな数量の関係を児童が考えて問題にし、それを数直線を使った図に表すことで、学習したことを活用する力を伸ばすことができた（資料⑤）。活動の中では、児童が既習のノートを見直して考えたり、友達に求め方を説明したりする姿が見られた。

資料⑤



4 考察（成果や課題の要因、今後の単元の改善に向けて）

- 単元の学習を通して、児童は問題場面を図に表すこと、それを基に考えを説明することに取り組んだ。数直線を使った図に表すと数量の関係がよく分かることや、それを使うと考えを分かりやすく説明できることを経験させた。問題場面を確かめ立式するため、考えを分かりやすく説明するためのツールとして、図が役立つことを実感させることができたことは実践の成果である。
- 「もとにする長さ」を求める学習では、図に表す過程でつまづきが見られた。ノートにかく時に「もとにする長さ」の長さをどのくらいにすればよいか分からない児童が数人いた。求め方を理解させるには、図に正しく表し、問題場面を確かめることは必須である。ノートに自力で図をかくために、どのような図になるか見通しをもたせておく必要があった。

図を使って説明マスターになろう!

算数

第4学年

尾道市立土堂小学校

指導者 菅方 賢司

単元名

「1けたでわるわり算をマスターしよう」 4年 1けたでわるわり算

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力 主体性・積極性

1 単元でめざす資質・能力

【思考力・表現力】

- 問題文と図から数量関係をとらえて、演算決定する根拠を考えている。

【主体性・積極性】

- 問題文と図から立式し、その根拠を積極的に説明したり、友達の考えを取り入れたりしている。

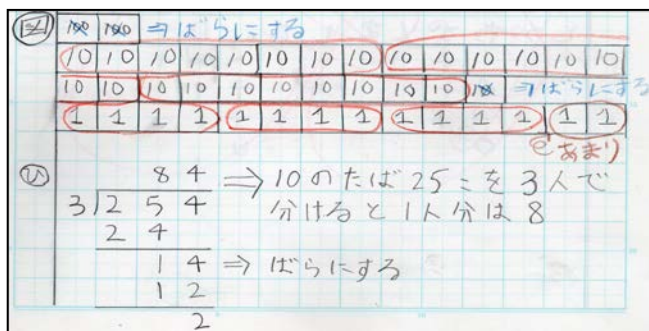
2 課題発見・解決学習の構想とポイント

本単元は、大きく分けて、「わり算の筆算」「何十、何百のわり算」「商が2けたのわり算」「(3けた)÷(1けた)の計算」「どんな式になるかな」の5つに分かれている。単元に入る前に事前にアンケートをとった結果、「とき方や考え方を図を使って考える事ができる」と答えた児童は74%であった。また、3年生で学習したわり算の問題を解いた時には、問題文から式を立てて答えを出すことは100%の児童ができたが、問題文に合う図をかいたり、問題文に合う数字や□(求める数)を図にかき込んだりすることに課題が見られた。このことから、図を使って問題を解くことに苦手意識を感じている児童が多く、特に数直線図に関する理解が不十分であった。このことを児童に伝え、今のクラスの実態を児童自身が把握し、「図を使って解き方を説明したり、式を立てたりできるようになろう」という大きな目標を設定した。

3 具体的な実践の場面

(1) 図に表すよさを実感する授業展開

毎時間の授業において、図をかいて問題を解き、ペア対話やグループ対話、全体対話を通して考えを深めていった。例えば、 $254 \div 3$ の計算をする場面においては、絵や図を使って考え(資料①)、それとつなげて筆算の解き方を筋道を立てて説明する活動を毎時間取り組んでいった。



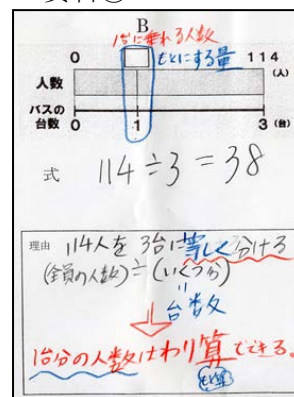
100の束は3人で分けられないので、「ばらにする」といった言葉を使って説明することができ、筆算の仕方の説明にも「ばらにする」という言葉を使いながら説明することができた。

また、「どんな式になるかな」では、与えられた問題場面と数直線図を見て、□を求めるための演算決定を考えていった（資料①）。児童は、既習事項を活用して、「1台分の人数のいくつ分を求める場合はかけ算になる」「114人を1台38人ずつ等しく分けるからわり算になる」など数直線図を手掛かりに演算決定を行っていった。演算決定の根拠が書けない時には、児童から対話を求める声が挙がり、ペア対話や全体対話を通して主体的に問題解決していくことができた。演算決定の根拠を説明していく中で、「もとにする数を求める時はわり算を使う」（資料②）「いくつ分を求めるときはわり算を使う」といった今後の学習にもつながる発言も見られた。

資料① 【本時の板書】



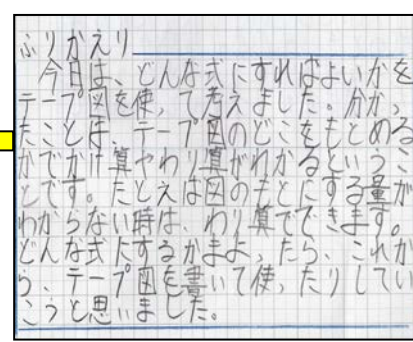
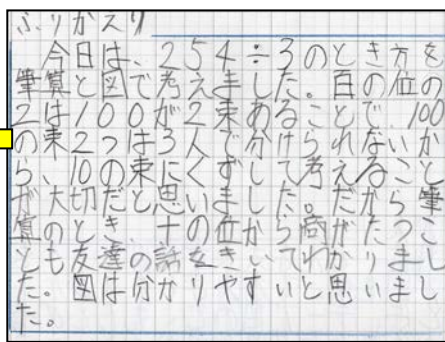
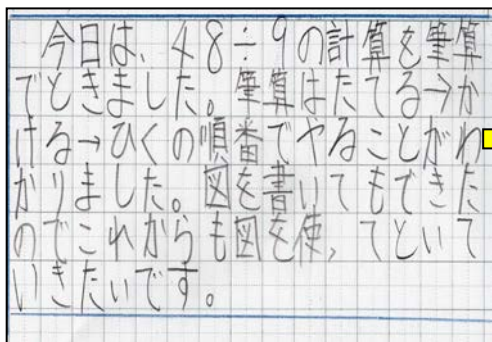
資料②



(2) 児童の変容

資料③を見ると、図の有効性は児童にとってまだ十分感じられていないことがわかる。資料④を見ると、(3位数) ÷ (1位数) の筆算の仕方を考えた際には、なぜ商が十の位から立つのかを図をかいたり、友だちの考えを聞いたりすることで理解できたという振り返りをしている。このことから、図で解くことの有用性を実感することができている。単元の終末では、演算決定をする際に、図を見ると演算決定が分かりやすくなるという振り返りや、今後、図をかいて問題を解くことに対する意欲的な振り返りを行うことができている。（資料⑤）

資料③【単元の始めの振り返り】 資料④【単元の中頃の振り返り】 資料⑤【単元末の振り返り】



4 考察（成果や課題の要因、今後の単元の改善に向けて）

- 単元を通して、わり算の問題を絵や図を使って解いていったことで、児童はわり算の筆算形式の中に絵や図で解いた計算式が使われていることに気付くことができた。「たてる→かける→ひく→おろす」の筆算形式を絵や図と関連させながら考えることで、筋道立てて説明したり対話をする必然性を作ったりすることができた。
- 問題に合う数直線図を選んだりかいたりする活動が不十分であった。5年生の割合などの単元を意識して、今後は問題に合う数直線図を自分で書き、その図をもとに演算決定させていく時間を他の単元でも行っていく必要がある。

ならず場面、1あたりを求める場面を図で考えよう！

算数

第5学年

尾道市立土堂小学校

指導者 谷川 友弥

単元名

「平均！このペースで大丈夫？～オリジナル問題を作ろう～」 5年 単位量あたりの大きさ

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力 主体性・積極性

1 単元でめざす資質・能力

【思考力・表現力】

- 自分の考えの根拠を図、表、言葉などを用いて明らかにし、相手に分かりやすく説明している。

【主体性・積極性】

- 身の回りの問題を数学的に捉えたり、自分事として捉えたりしようとしている。

2 課題発見・解決学習の構想とポイント

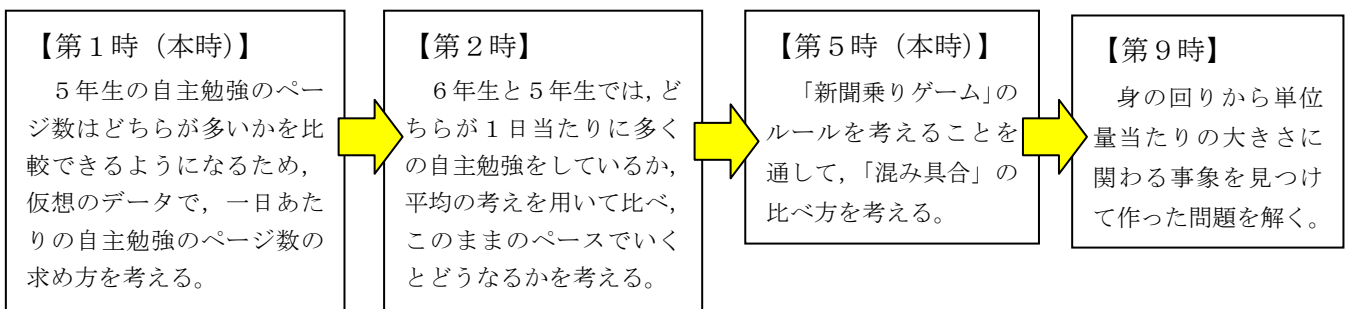
本単元では、測定した結果について、平均を用いて、それを妥当な数値として示すことができるようになることをねらいとしている。また本単元では、これまで学習してきた量の他に、異種の二つの量の割合としてとらえられる数量があることを理解できるようにすることをねらいとしている。

本単元の導入では、一週間の曜日ごとの6年生と5年生の自主勉強のページ数を提示し、その数値を比較することから学習をスタートした。その数値をいくつかの視点で比較するためにはどうすれば良いかを考えさせることで、平均の考え方や単位量あたりの大きさを日常生活の中に見出しながら学習を進めていった。

5時間目の授業では、立命館小学校との交流会で「新聞乗りゲーム」をする場合、どのようなルールにすれば良いかを考えさせることで、問題場면을数学的な視点で捉えていけるようにした。

3 具体的な実践の場面

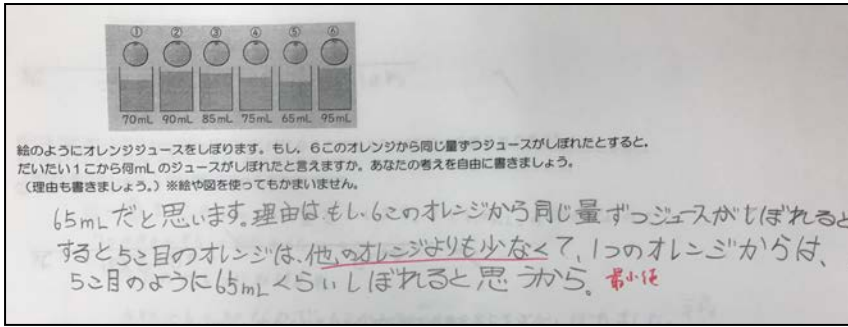
(1) 単元を学ぶ必然性をつくる単元の導入



「一週間の曜日ごとの6年生と5年生の自主勉強のページ数はどちらが多いか」という身近な話題を扱うことから学習をスタートし、「6年生と5年生では人数が違うから、必ずしも6年生のページ数が多いとは限らない」という問題に会うように仕組んだ。そして、「一日あたりのページ数」や「一人当たりのページ数」などを比べる必要が出てくるが、児童は、その求め方をはっきりとは見出せず、これからの学習で求め方を学ぼうという目的意識が芽生えた。

(2) 児童の変容

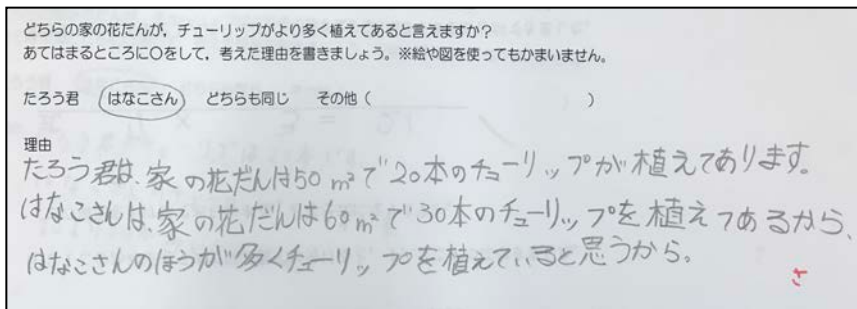
資料①【単元前のレディネステスト】



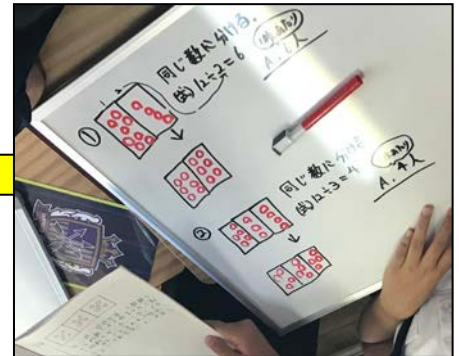
資料②【授業場面】



資料③【単元前のレディネステスト】



資料④【授業場面】



資料①では、児童がどのようにして平均を求めるかを事前に考えさせた。その結果、最小値に着目して、その数値になるのではないかと考えている。この結果を受けて、平均の学習をするにあたり、「平均＝合計÷個数」で求められるという機械的な指導にならないように、「ならず」こと概念をきちんと習得し、意味を理解できるように指導した。資料②は、授業の問題で提示された数値をグラフに表し、それを児童がならしている場面である。児童は「多いところから少ないところに分けてあげればよい。」ということを考えることができた。

資料③は、単位量あたりの大きさで比べる問題のレディネステストである。児童の回答の傾向として、感覚的にどちらが大きいかを捉えて答えている児童が多かった。そのため、単位量あたりの大きさで比べるということは難しかった。そこで、異なる2量の大きさを比べる際、図を用いて1あたりの大きさがいくらになるかを考えさせることに重点を置いて指導をした。資料④は、「新聞乗りゲーム」のルールを考える場面である。「1枚あたりに何人乗ることができるか」を図に表すことで、意味を理解することができた。

4 考察（成果や課題の要因、今後の単元の改善に向けて）

- 「平均は合計÷個数で求められる」ことや「単位量あたりの大きさを求めるためにはわり算をすれば良い」など、形式的な指導で終わることなく、その式の意味を考えることができた。また、「ならず」という概念形成には、図など視覚的に表すことがより効果的であり、学力の定着につながったと考える。また、児童の身近なことを問題に扱うことで、「明らかにしたい。」「はっきりさせたい。」という意欲を高めることにつながったと考える。
- 班活動を仕組む際には、何のためにその活動を行うのか目的を明確にする必要があり、班の中で教え合えば、分からなかった児童が必ずしも分かるようになるとは限らない。そのため、児童が何につまずき、どういった支援が必要になるのか、また、どんな誤答を取り上げるかをよく吟味する必要があった。

数直線図に表して比べてみよう!

算数

第6学年

尾道市立土堂小学校

指導者 才谷 瑛一

単元名

「記録比べ～どれだけ記録がのびたかな」 6年 分数のわり算

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力 主体性・積極性

1 単元でめざす資質・能力

【思考力・表現力】

- 「割合の見方」を用いて、身の回りの事象を捉え、見通しをもち筋道を立てて考えている。

【主体性・積極性】

- 問題の解決に向けて見通しをもち、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。

2 課題発見・解決学習の構想とポイント

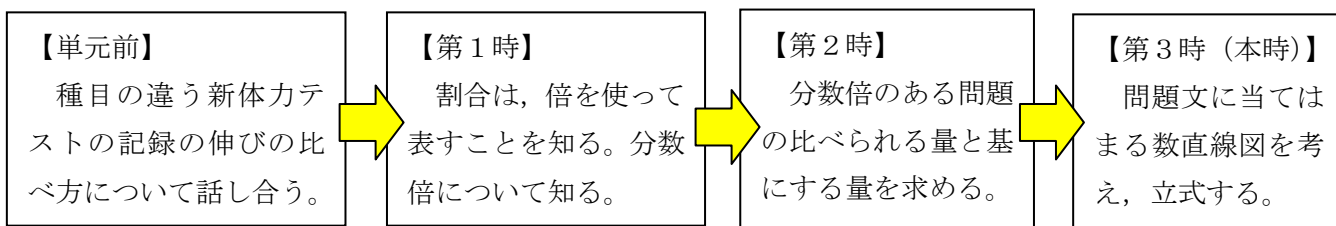
本単元では、それぞれが独立した同種の比的な2量の関係を割合として表したり、分数倍の表し方や、比べられる量やもとにする量の求め方を理解したりすることをねらいとする。

導入では、新体力テストの記録を扱う。5年生のときと比べてどの種目が一番よく伸びたかという話題で話し合い、5年のときの記録を基準量、6年のときの記録を比較量にしたときの割合で比べればよいことに気付かせる。

3時間の授業では、問題文に出合い、Xを使って文脈通りの式を考えたり、数直線図や4マス関係表に表したりして、分数倍を使った問題のイメージを膨らませていく。

3 具体的な実践の場面

(1) 単元を学ぶ必然性をつくる単元の導入



新体力テスト! どの記録が伸びたかな?
種目のちがう記録ののびは比べよう

種目	男子			女子		
	5年	6年	6年 全国	5年	6年	6年 全国
握力	19	22	20	19	23	19
上体	20	21	21	22	23	20
長座	38	41	35	45	51	40
反復	50	50	46	51	47	43
シットル	51	54	64	49	52	50
50m	9.7	8.9	8.8	9.5	9.0	9.2
立ち幅	153	167	166	150	155	156
ボール	22	25	27	13	17	16

単元前には、5年と6年の新体力テストの記録の伸びについて話し合った。男子は、「立ち幅跳びが伸びた」女子は、「長座体前屈が伸びた」と予想していた。そのままの数値の差では比べられないことから、比べる方法について話し合った。「6年生の記録を5年生の記録で割ったら比べられそうだと気付いた。その後、単元の学習に入った。

単元後に、再度、記録の伸びについて話し合った。実際に分数倍にして表してみると、男子は握力、女子はボール投げが伸びていたことが分かった。

四角形を使って、マイタウン!!

算数

たんぼぼ学級

尾道市立土堂小学校

指導者 黒飛 美穂

単元名

「『たんぼぼタウン』をつくろう」 4年 いろいろな四角形

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力

1 単元でめざす資質・能力

【思考力・表現力】

- 四角形を組み合わせて身の回りのものを表している。
- 算数用語を用いて自分の考えを明確にして説明している。

2 課題発見・解決学習の構想とポイント

本児童は、反復練習して暗記したことを問われると自信を持って発表することができる。しかし、分からないと感じると間違えているかもしれないという不安感が強くなり、自分の考えを発表することができなくなることに課題が見られた。

そこで、本単元を構想する際に留意したことが2点ある。

1点目は、児童の創造性を刺激するであろう「たんぼぼタウン」を作るという活動を仕組んだことである。まず、自立活動と連動させ、既習の図形である円や三角形、長方形や正方形を使っていろいろなものの形を作成させる。その後、学習した図形である台形、平行四辺形、ひし形を操作する活動を楽しみながら、これまで漠然と捉えていた図形を「平行」「垂直」という視点から図形の性質をとらえさせた。

2点目は、図形を使って「たんぼぼタウン」という町を制作することが単元のゴールではなく、すみれ学級の友達に作品を紹介するという場を設定したことである。本児童は、在籍が1名ということで普段の学習では、他の児童の感想を聞いたり、相手の反応を見たりすることができない。そこで、すみれ学級の友達に作品を披露するという目的意識を持たせ、単元の最後まで意欲的に学習が進められるようにした。

3 具体的な実践の場面

(1) 単元の導入

単元の1時間目では、見かけたことのあるものの絵を数枚提示し、いろいろな図形を使って「たんぼぼタウン」をつくることを単元の目標にして示した。どんな形が使われているか考えさせると「学校は、長方形と」「正方形」「三角形」という意見が出た。身の回りのものの形は、いろいろな図形で表現できることに気付くことができた。

(2) 図形の性質を意識した分類

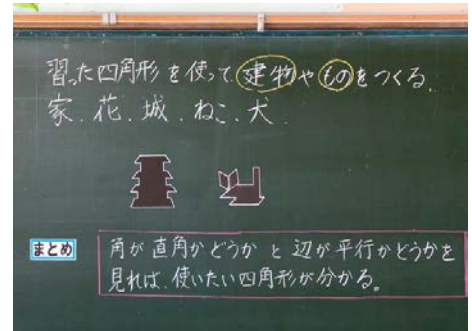
図形を分類する学習活動の中に学習した図形（長方形・正方形・台形・平行四辺形・ひし形）の中に入れておいた。すると、どこ



かに分類できると思い込んでしまった児童は、全て仕分けた。どこかに間違えてしまった四角形が混ざってしまっていることを伝えると、図形の性質を意識して再度見直し、正しく分類することができた。

(3) 四角形を使ってものの形を表現

自分で想像力を働かせ、四角形を組み合わせてできる形は「花」であった。そのほかの意見が出なかったため、いくつか単語をあげてみたが、組み合わせた図形が思い浮かばなかった。そこで、組み合わせた図形をシルエットのみ見せ、何を表しているのか質問してみると「分かった。猫だ!」「寺だ!」「家だ!」など何を表現しているものか答えることができた。手本のシルエットにマッチングさせながら、自分にもできると考え、意欲的に図形を選択して組み合わせることができた。複合図形によっては、使っている図形に悩む場面もあったが、補助線を引くことで判断することができた。



(4) 教科の主な観点別評価の結果

【数学的な考え方】について

四角形について違いに気付き、分類した図形ごとの特徴を見出している。

- 長方形や正方形，台形や平行四辺形，ひし形の違いを「垂直」「平行」を意識して，分類することができた。

(5) 資質・能力の評価の結果

【思考力・表現力】について

四角形を組み合わせて身の回りのものを表している。
算数用語を用いて自分の考えを明確にして説明している。

- シルエットを見せることで四角形の組み合わせ方を想像することができ，身の回りのものの形を表すことができた。
- すみれ学級の友達に自分の作成した「たんぼぼタウン」を紹介するという設定に対して意欲的に取組み，「何を」「どんな図形を」「いくつ使って」作ったのか自信を持って説明することができた。

4 考察（成果や課題の要因，今後の単元の改善に向けて）

- 自立活動との合科的な指導を行ったことで，意欲的に図形の学習を進めることができ，スモールステップで図形の性質について捉えさせることができた。
- 身の回りのものを既習の図形だけを使って表現する自力解決の場面が一番難しかった。ヒントとして黒いシルエットだけを見せると何を表した図形なのか即答できた。このことから，ものの形を具体的にイメージしにくい傾向があると考えられる。今回は，自己選択できるように選択肢を用意していたが，今後も実態を十分把握し，具体的に児童が悩む場面を想定した手立てを考えておく必要がある。

図形が敷き詰められる条件を考えよう!

算数

さくら学級

尾道市立土堂小学校

指導者 渡邊 翠大

単元名

「劇的ビフォーアフター～ステンドグラスを作っちゃおう～」 5年 図形の角

本単元で育成する資質・能力

チャレンジ精神

1 単元でめざす資質・能力

【チャレンジ精神】

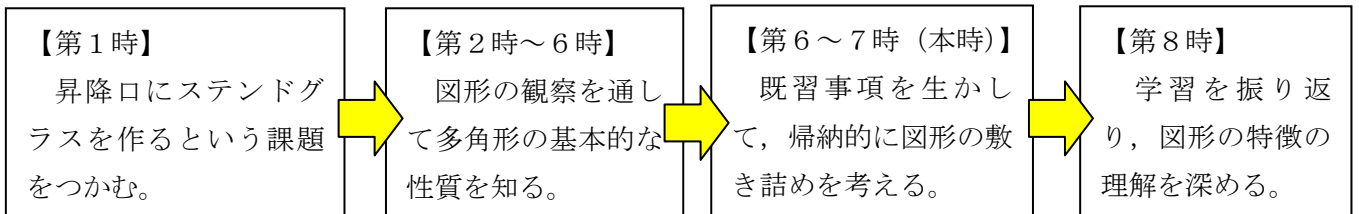
- 試行錯誤しながら図形を操作し、最後まであきらめず課題に取り組もうとしている。

2 課題発見・解決学習の構想とポイント

本単元では、課題の設定場面において図形を敷き詰め、ステンドグラスを作るという課題を児童に意識させる。情報の収集、整理の場面では多角形の観察活動を通して、内角の和や敷き詰めを考えさせる。まとめ・創造・表現の場面では、児童がこれまでに習ったことを生かして、図形の敷き詰めを行う。その際に、児童に敷き詰めができる条件の仮説を立てさせ、事例を検証させる。この活動を取り入れることにより児童が帰納的に考えられるようにする。

3 具体的な実践の場面

(1) 単元を学ぶ必然性をつくる単元の導入



第1時で、児童が低学年昇降口に飾りがなく寂しいと感じた。そこで教室掲示にも使っている「ステンドグラスを作って飾る」という課題を設定した。ステンドグラスは形が敷き詰められていること、隙間があってはならないことを抑え、敷き詰めるための条件に付いて考えるという見通しをもたせた。

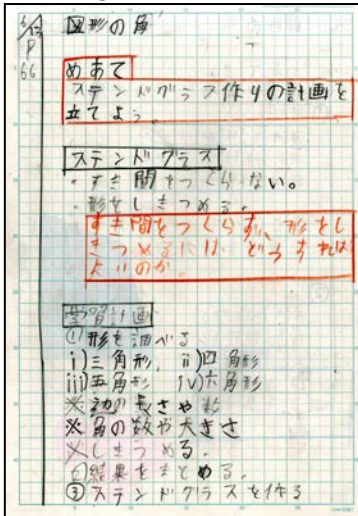
学習を展開する際に、図形の性質を調べることを確認した。多角形の内角の和を、三角形の内角の和をもとにして考えさせ、図形の性質を考えさせた。

まとめ・創造・振り返りの場面の本時では、既習事項を振り返りながら図形の敷き詰めの条件を考えることができた。

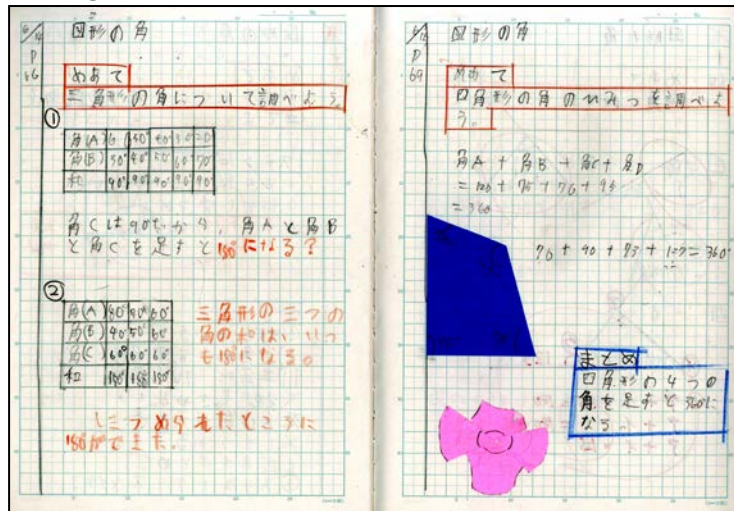
やったあ！低学年玄関が華やかになったよ。

(2) 児童の変容

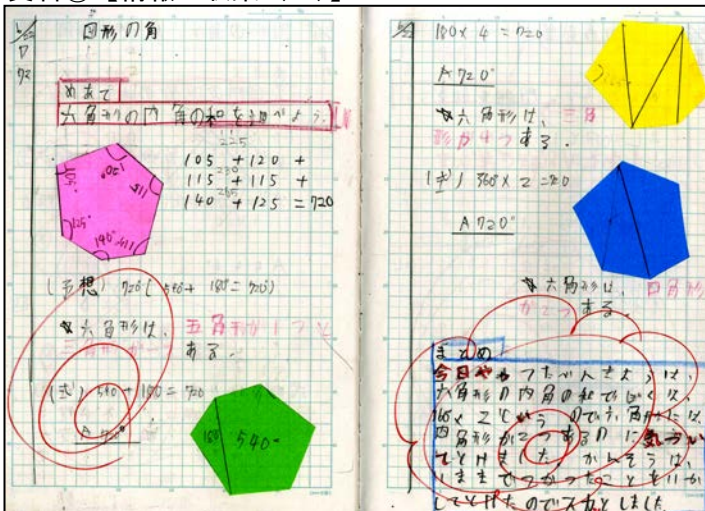
資料①【課題把握】



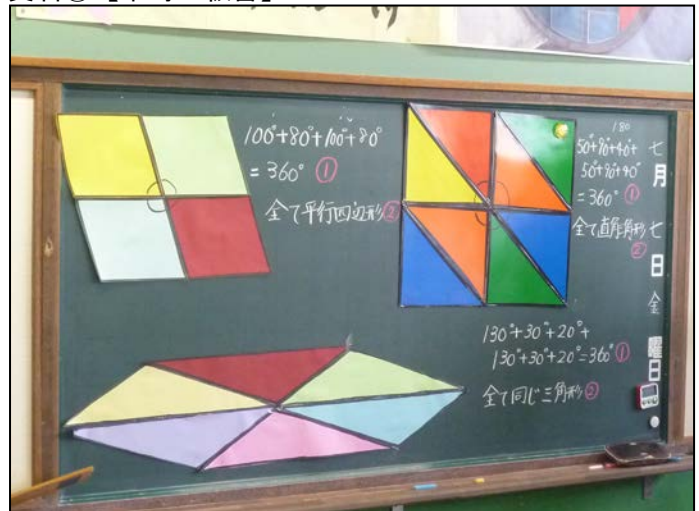
資料②【情報の収集(1)】



資料③【情報の収集(2)】



資料④【本時の板書】



資料①で児童に課題を把握させるとともに条件を提示した。資料②において三角形の内角の和を用いることで多角形の内角の和がわかることを児童が実感している。既習内容を生かすことで毎時間の課題を解けることに児童自身が気持ちよさを感じていることが分かる。資料③の本時では、図形を敷き詰めるには、① 360° をつくること②同じ形を敷き詰めることを条件として気付かせた。3つの図形を扱い、帰納的に考えさせた。これまでわからないことがあると活動に参加するのが難しくなる本児であったが、単元を通して、既習事項を生かして学習を展開することを学び、最後まで意欲的に活動できた。

4 考察(成果や課題の要因, 今後の単元の改善に向けて)

- 毎時間多角形の内角の和を確認したり、多角形を三角形いくつか考えさせたりすることにより、児童の図形の見方が深まった。
- 仮説を立てさせ、帰納的に思考させることで、児童の思考の仕方の幅が広がった。
- 児童が問題解決の過程を振り返る場面の設定が十分ではなかった。毎時間で分かったことや自分の変容を細かく振り返らせ、次時の学習に生かせるように振り返りの内容を工夫していきたい。

ブロック操作は 楽しいよ!

算数

第1学年

尾道市立土堂小学校

指導者 内海 京子

単元名

「ひきざんマスターになろう」 1年 ひきざん(1)

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力

1 単元でめざす資質・能力

【思考力・表現力】

- 問題場面を正確に捉え、ブロック操作をしながら計算の仕方を考え、自分の考えを分かりやすく伝えている。

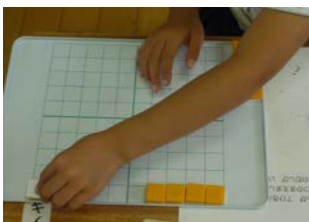
2 課題発見・解決学習の構想とポイント

本学級の児童は、学習への意欲は大変高いが、文章の読み取りを苦手としている。また、自分の思いを持つことや相手に伝えることにも抵抗感が大きい。計算問題では、自信をもって取り組むことができるが、文章題には、難色を示している。そのため、国語での音読や絵本の読み聞かせを学習の中で特に重点をおいて取り組ませてきた。その結果、入学2ヶ月後には、絵本を見て話の筋が大体つかめるようになり、自分から本を取るまでになった。

本単元では、半具体物を操作し解決方法を多様に考え、自分の考えを説明する活動を通して、思考力や表現力の育成をすることをねらいとしている。苦手とする「考えること」に重点をおいた授業を、算数の授業の中でも積極的に取り入れ、それを発表するスタイルを習慣化して、本児童の課題である読解力を育成し、思考力・表現力を育んでいきたい。

楽しく課題発見するために、日常化している音読を文章問題を読む際にも活用し、問題文を音読させる。また、課題解決に当たっては、足し算の学習でブロック操作をすることで楽しく学習できることを実感しているので、その思いを引き算の学習場面にもつなげていく。また、参観者がいなくても、黒板を使って思考の過程(ブロック操作, アレイ図, 立式)を表現させ、発表をすることを定例化していき、表現力を育成していく。

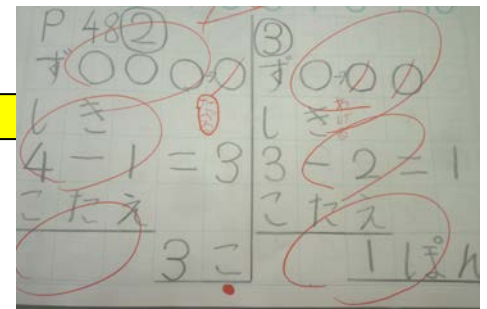
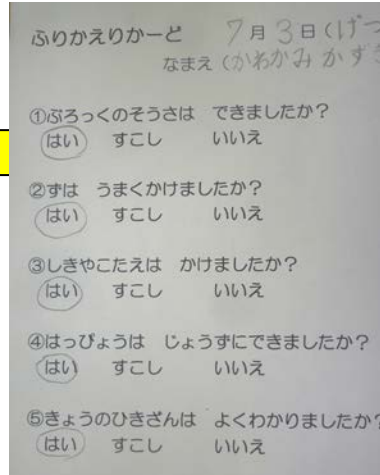
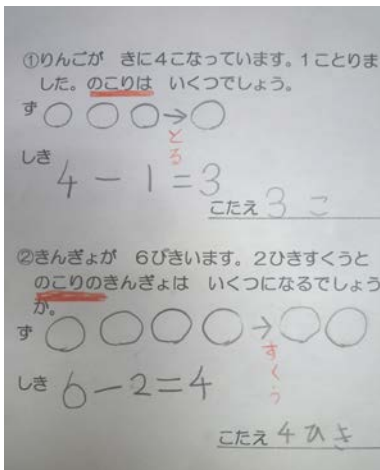
3 具体的な実践の場面



資料①【本時の学習プリント】

資料②【本時の振り返りシート】

資料③【適用題のノート】



資料④【本時の板書】



4 考察（成果や課題の要因、今後の単元の改善に向けて）

- まず、音読、ブロック操作、アレイ図、立式、次に、黒板に個人の思考活動を板書、説明という一連のスタイルを、足し算の学習から進めてきたので、引き算になっても、文章問題への抵抗感は少なく、自信を持って学習に取り組むことができた。また、始めのうちは、自在に動かせなかったブロック操作が、回数を重ねることで上手に操作できるようになり、楽しみながら、考えることもできるようになってきた。板書の説明も、普段は相手のいない仮想の場の説明であったが、通所をしていた養育施設の先生の学校訪問で算数の授業を参観していただき、その場で披露した説明を高く評価していただき大きな自信になった。本時の授業では、20数名の先生方の前での説明となったが、堂々と説明・発表することができた。
- 適用題の取り組みの際、文章題を読むこと以外は、どの活動も教師の確認を得なければ次へ進めないという形になってしまい、本児の精神面での不安定さが出てしまった。同じような問題ならば対応できるが、序数詞が気になってしまうと、とたんに自信がなくなり、少し深めた問題になると、不安感が顔を出してしまった。「分からないこともよい勉強になる」ということを、日頃から認識させていく必要がある。

IV 基礎・基本定着のための取組

モジュール授業

1 モジュール授業の原理

モジュール授業では、児童に「基礎的・基本的な知識・技能」を習得させるための「読み・書き・計算」を中心とした徹底反復学習を行っている。高速で音読したり単純な計算を繰り返したりする徹底反復学習を行うことにより、脳の活性化が図られる。その結果、児童の学習能力が高まると考える。そのため、児童が集中して徹底反復学習に取り組むことができるように「スピード・テンポ・タイミング・個へのアプローチ」をキーワードとして指導の工夫を行っている。スピード感を保ちつつ、テンポ・タイミング良く教材を提示するツールとして、情報機器を活用している。

2 モジュール授業の目標と内容

モジュール授業は、国語科・算数科・その他の教科等の内容を、それぞれ 15 分間のユニットとして指導している。主な指導内容として、次に示すものがあげられる。

国語科	<p>(音読) 名文やリズムのある作品を音読することで、基礎となる音読する力や読解を助ける力を身に付けさせる。</p> <p>(辞書引き) 語彙能力の向上を図るために、辞書引き月間(7月)を設定して、集中して辞書引きに取り組んでいる。発達段階を考慮し、低学年ではルビ入りの国語辞典を使用している。</p> <p>(漢字の前倒し学習) 漢字習得率の向上を図るため、年度初めに新出漢字を前倒しして指導し、その後、漢字の反復学習を実施する。</p> <p>(聞き取り) 文学的文章や説明的文章等を聞き取り、正しく聞き取る力やメモを取り、聞き取ったことをまとめる力を身に付けさせる。</p>	<p>(フラッシュ)</p> <p>各教科・各学年に応じた内容を練習し、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせる。また、当該学年だけでなく、前学年までの内容を繰り返し練習したり、確認したりすることで定着率を高める。</p> <p>【国語科】 文法、ローマ字、言語事項など</p> <p>【算数科】 計算、図形など</p> <p>【社会科】 地図記号、都道府県、歴史、世界の国々など</p> <p>【理科】 実験器具、理科用語など</p>
算数科	<p>(ます計算) ます計算に取り組むことで、算数科の基礎となる計算力の向上を図る。</p> <p>(そろばん) 低学年において、数感覚を養ったり、数と計算の意味について理解させたりするために、そろばんを指導している。</p>	
その他の教科	<p>(カルタ) 都道府県や歴史など各学年に応じた内容を練習し、教科における基礎的・基本的な知識を身に付けさせる。</p>	

3 モジュール授業の系統性

年度初めに各学年の音読・算数・その他の分野におけるめざす姿や数値を設定した。目標を意識しながら、児童の実態に合わせて指導を進めていくことができる考える。

	低学年	中学年	高学年
音読	<ul style="list-style-type: none"> 正しい姿勢，口形 はっきりと，正しく読む 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい口形 内容を考えて読む (強弱・抑揚・間 等) 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい口形，伝わる声 内容を考えて読む (強弱・抑揚・間 等)
算数 計算	<ul style="list-style-type: none"> そろばんに慣れ親しむ 	<ul style="list-style-type: none"> 単位換算 ・数量関係 量のイメージ 	<ul style="list-style-type: none"> 単位換算 ・算数用語の定義 数量関係 ・量のイメージ
その他	<ul style="list-style-type: none"> 集中して，より速く，正確に解ける 自分の目標をもって取り組む。→タイム・解いた問題数を記録していく 		
英語活動	<ul style="list-style-type: none"> 英語に慣れ親しむ 	<ul style="list-style-type: none"> 社会・理科の重要用語の徹底 英語に慣れ親しむ 	<ul style="list-style-type: none"> 社会・理科の重要用語の徹底

【1年】

10ます足し算	10ます引き算	50ます足し算	100ます足し算
10秒	10秒	1分	3分

【2年】

100ます足し算	100ます引き算	10ますかけ算	100ますかけ算
2分	2分30秒	15秒	2分

【3年】

100ますかけ算	A型50問わり算	A型100問わり算	B型50問わり算	B型100問わり算
2分	1分30分	3分	3分	5分

【4年】

A型50問 わり算	A型100問 わり算	B型50問 わり算	B型100問 わり算	C型100問 わり算
2分	3分	3分	4分30秒	5分

【5年】

C型100問わり算
4分

【6年】

C型100問わり算
3分

4 モジュール授業を共有，発展させるために

児童の実態に応じたモジュール教材の改善・開発を行った。作成した教材を一つのフォルダに集めて共有化し，どの学年の指導者も，当該学年だけでなくその他の学年の内容を確認したり，活用したりできるようにしている。そうすることで，新出した内容だけでなく，既習事項の内容を確認することができたり，計画的・系統的に進めたりすることができる考える。

例【6年】

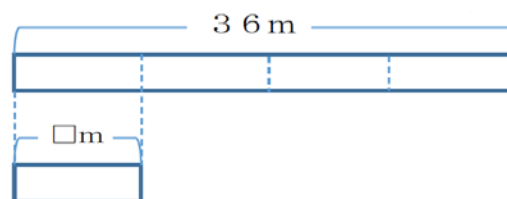
	国語的内容	算数的内容	社会・理科
4月	【漢字】 ・全漢字 ・リズム漢字 【音読】 ・雨ニモマケズ ・平家物語 ・論語 ・春暁 【フラッシュ】 ・慣用句・敬語	【プリント】 ・100問わり算 ・通分, 約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・対称, 倍数, 約数	(社)【フラッシュ】 ・歴史(人物, 事件) ・世界遺産 【歴史カルタ】 (理)【フラッシュ】 ・道具 ・実験用語 ・体のつくり
5月	【フラッシュ】 ・慣用句, 敬語, 熟語の構成 【音読】 ・雨ニモマケズ ・平家物語 ・論語 ・春暁 【聞き取り】 ・説明文	【プリント】 ・100問わり算 ・通分, 約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・文字と式 ・逆数 ・単位換算	(社)【フラッシュ】 ・歴史(人物, 事件) ・世界遺産 【歴史カルタ】 (理)【フラッシュ】 ・道具 ・実験用語 ・体のつくり
6月	【フラッシュ】 ・慣用句, 敬語, 熟語の構成 【音読】 ・雨ニモマケズ ・平家物語 ・論語 ・春暁 【聞き取り】 ・説明文	【プリント】 ・100問わり算 ・通分, 約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・割合 ・文字と式 ・逆数	(社)【フラッシュ】 ・歴史(人物, 事件) ・世界遺産 【歴史カルタ】 (理)【フラッシュ】 ・道具 ・実験用語 ・体のつくり
7月	【フラッシュ】 ・慣用句, 敬語, 熟語の構成 【音読】 ・雨ニモマケズ ・平家物語 ・論語 ・春暁 【聞き取り】 ・説明文	【プリント】 ・100問わり算 ・通分, 約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・割合 ・図形の面積 ・逆数	(社)【フラッシュ】 ・歴史(人物, 事件) ・世界遺産 【歴史カルタ】 (理)【フラッシュ】 ・道具 ・実験用語 ・体のつくり
9月	【フラッシュ】 ・和語, 漢語, 外来語の由来 【音読】 ・平家物語 ・論語 ・春暁 ・徒然草 ・孫子 【聞き取り】 ・説明文	【プリント】 ・100問わり算 ・通分, 約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・速さ ・体積 ・比	(社)【フラッシュ】 ・歴史(戦争～戦後) ・日本国憲法 【歴史カルタ】 (理)【フラッシュ】 ・道具 ・実験用語 ・体のつくり
10月	【フラッシュ】 ・和語, 漢語, 外来語の由来 【音読】 ・平家物語 ・論語 ・春暁 ・徒然草 ・孫子 【聞き取り】 ・説明文	【プリント】 ・100問わり算 ・通分, 約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・比 ・体積 ・単位換算	(社)【フラッシュ】 ・歴史(戦争～戦後) ・日本国憲法 【歴史カルタ】 (理)【フラッシュ】 ・道具 ・実験用語 ・体のつくり
11月	【フラッシュ】 ・和語, 漢語, 外来語の由来 【音読】 ・平家物語 ・論語 ・春暁 ・徒然草 ・孫子 【聞き取り】 ・説明文	【プリント】 ・100問わり算 ・通分, 約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・比例, 反比例 ・比 ・単位換算	(社)【フラッシュ】 ・歴史(戦争～戦後) ・日本国憲法 ・権利と義務 ・国会, 内閣, 裁判所の働き 【歴史カルタ】 (理)【フラッシュ】 ・道具 ・実験用語 ・体のつくり
12月	【フラッシュ】 ・和語, 漢語, 外来語の由来 【音読】 ・平家物語 ・論語 ・春暁 ・徒然草 ・孫子 【聞き取り】 ・説明文	【プリント】 ・100問わり算 ・通分, 約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・比例, 反比例 ・文字と式 ・速さ	(社)【フラッシュ】 ・歴史(戦争～戦後) ・日本国憲法 ・権利と義務 ・国会, 内閣, 裁判所の働き 【歴史カルタ】 (理)【フラッシュ】 ・道具 ・実験用語 ・体のつくり
1月	【フラッシュ】 ・和語, 漢語, 外来語の由来 ・数え方 【音読】 ・名言(聖徳太子, クラーク) 【聞き取り】 ・説明文	【プリント】 ・100問わり算 ・通分, 約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・単位換算 ・文字と式	(社)【フラッシュ】 ・地理(中1教材) ・歴史(縄文～平成) (理)【フラッシュ】 ・電気とわたしたちの暮らし
2月	【フラッシュ】 ・和語, 漢語, 外来語の由来 ・数え方 【音読】 ・名言(聖徳太子, クラーク) 【聞き取り】 ・説明文	【プリント】 ・100問わり算 ・通分, 約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・単位換算 ・比 ・割合 ・図形	(社)【フラッシュ】 ・地理(中1教材) ・歴史(縄文～平成) (理)【フラッシュ】 ・電気とわたしたちの暮らし
3月	【フラッシュ】 ・和語, 漢語, 外来語の由来 ・数え方 【音読】 ・名言(聖徳太子, クラーク) 【聞き取り】 ・説明文	【プリント】 ・100問わり算 ・通分 ・約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・単位換算 ・比 ・割合	(社)【フラッシュ】 ・地理(中1教材) ・歴史(縄文～平成) (理)【フラッシュ】 ・電気とわたしたちの暮らし

5 割合に関するフラッシュ教材例

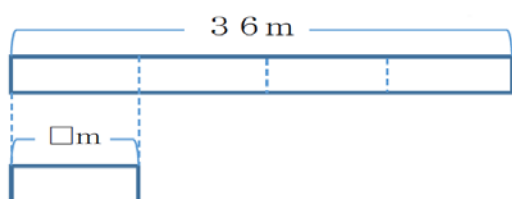
① 基準量を求める

4年生

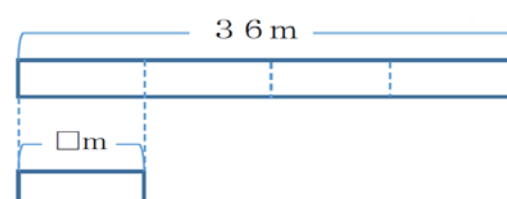
36mのロープがあります。4つに等しく分けると、1つ分の長さは何mでしょうか。



式の理由を説明しましょう。



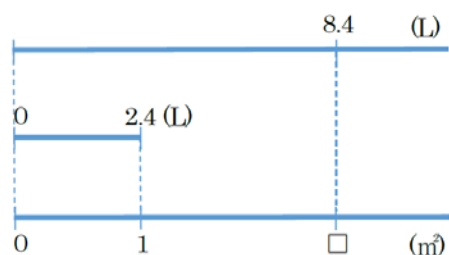
36mは 分で、その 分にあたる(もとにする)大きさを求めるので $36 \div 4$ です。



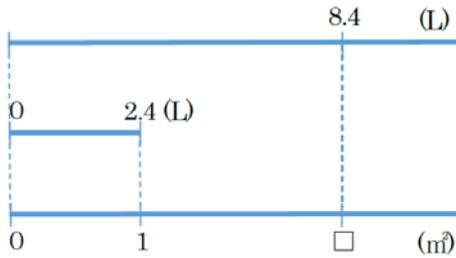
② 割合を求める

5年生

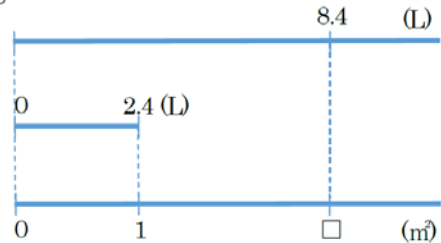
1㎡に2.4Lの水をまきます。8.4Lの水では、何㎡にまくことができますか。



式の理由を説明しましょう。



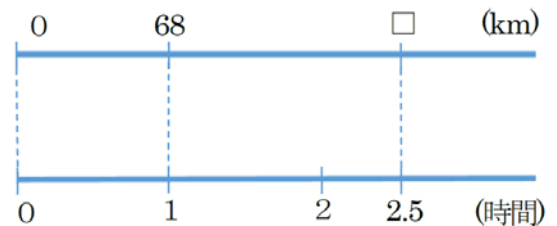
2.4L を ■ としたとき, ■ にあたる数を求めるので $8.4 \div 2.4$ です。



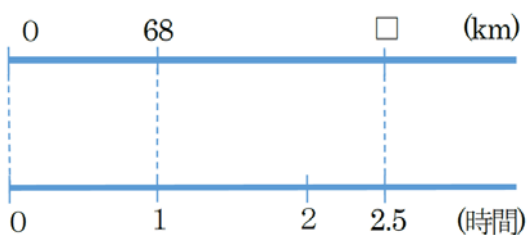
③ 比較量を求める

6年生

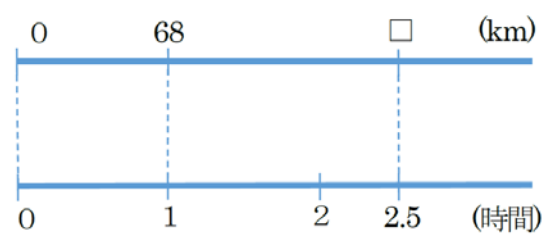
時速68kmの車があります。
2.5時間走ると, 何km走るでしょうか。



式の理由を説明しましょう。



68を ■ としたとき, ■ にあたる数を求めるので, 68×2.5 です。

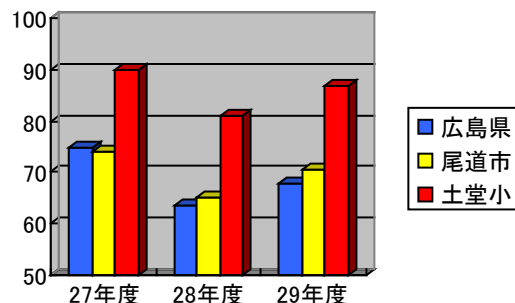


V 研究の結果と考察（中間）

1 広島県「基礎・基本」定着状況調査（通過率） —第5学年—

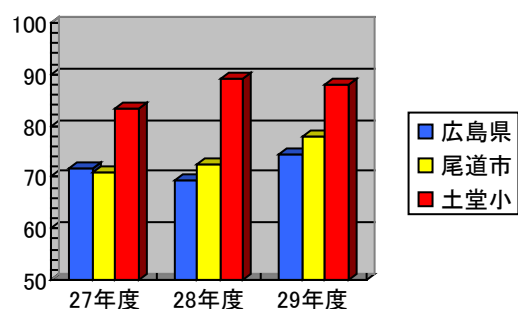
国語 教科全体の通過率（％）

	27年度	28年度	29年度
広島県	74.7	63.7	68.0
尾道市	73.9	65.1	70.5
土堂小	89.8	81.1	86.7
県との差	+15.1	+17.4	+18.7



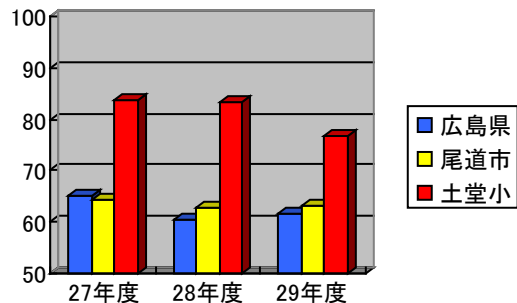
算数 教科全体の通過率（％）

	27年度	28年度	29年度
広島県	71.6	69.4	74.3
尾道市	70.8	72.3	77.9
土堂小	83.5	89.0	88.1
県との差	+11.9	+19.6	+13.8



理科 教科全体の通過率（％）

	27年度	28年度	29年度
広島県	65.3	60.6	61.7
尾道市	64.5	62.9	63.2
土堂小	83.8	83.3	76.8
県との差	+18.5	+22.7	+15.1



「基礎・基本」定着状況調査について

全ての教科において県平均+13を達成することができた。3教科ともに広島県の通過率よりも高く、基礎的・基本的な学習内容は定着していると捉えている。

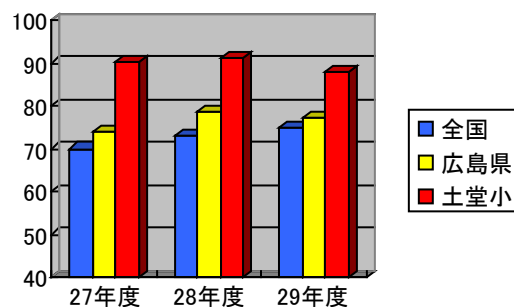
教科	課題	今後の取組
国語	<ul style="list-style-type: none"> 場面や情景の移り変わりとともに変化する登場人物の気持ちについて叙述を関連付けて読むことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を速く読むことができるようにする。 問題や設問の文章は丁寧に粘り強く読む。 理由を述べる時、「から。」「ため。」を使うなど、文章表現の書き方の練習をする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 2つのグラフの数値の増え方を読み取ることに課題がみられる。 グラフから読み取ったことを根拠に、示された事柄が正しくない理由を言葉や数を用いて説明することに課題がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中でメモリの幅が違うグラフを読み比べる経験をさせる。 ただ数値をよみとるだけでなく、増え方と減り方について、どれくらい増えたか、減ったかを読み取らせていく。

理科	<ul style="list-style-type: none"> • 空気でっぼうの前玉が飛ぶ理由を確かめるために、どんな実験や実験道具が必要か選択することに課題がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 実験を行う際に実験を1つだけ行うのではなく、いくつか行い、その結果から分かることを考察して、ノートに記述する。
----	--	---

2 全国学力・学習状況調査(平均正答率) —第6学年—

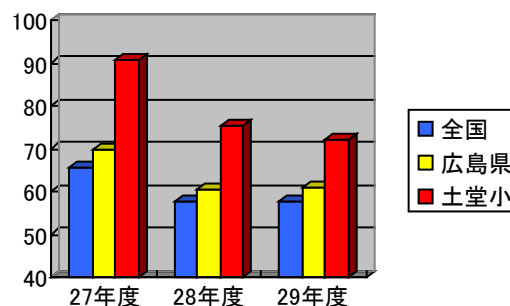
国語Aの平均正答率 (%)

	27年度	28年度	29年度
全国	70.0	72.9	74.8
広島県	73.8	78.4	77.0
土堂小	90.1	91.1	88.0
全国との差	+20.1	+18.2	+13.2



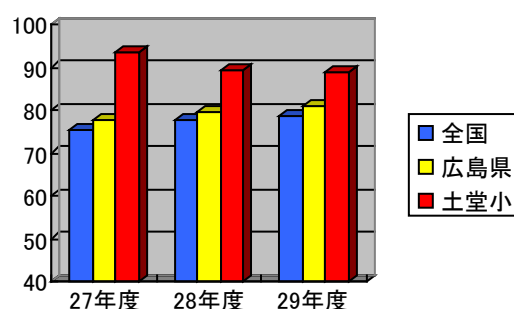
国語Bの平均正答率 (%)

	27年度	28年度	29年度
全国	65.4	57.8	57.5
広島県	69.7	60.5	61.0
土堂小	90.6	74.5	72.0
全国との差	+25.2	+16.7	+14.5



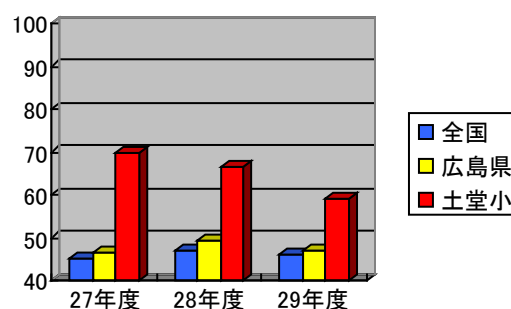
算数Aの平均正答率 (%)

	27年度	28年度	29年度
全国	75.2	77.6	78.6
広島県	77.7	79.7	81.0
土堂小	93.6	89.5	89.0
全国との差	+18.4	+11.9	+10.4



算数Bの平均正答率 (%)

	27年度	28年度	29年度
全国	45.0	47.2	45.9
広島県	46.7	49.5	47.0
土堂小	69.6	66.4	59.0
全国との差	+24.6	+19.2	+13.1



全国学力・学習状況調査について		
全国平均＋10を概ね達成することができた。主として「知識」に関する問題、主として「活用」に関する問題、全てにおいて全国の平均正答率よりも高く、「知識」「活用」ともに定着が図られていると捉える。		
教科	課題	今後の取組
国語B	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉えることに課題がみられる。 目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書くことが不十分だった。 	<ul style="list-style-type: none"> 条件下にあった文章を書く練習をする。例えば○段落に必要な言葉(キーワード)を入れて文を書くことや字数制限など条件に基づいて日記や文を書く練習をする。
算数B	<ul style="list-style-type: none"> 仮の平均を用いた考えを活用し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述することが不十分であった。 もとにする数は分かっているが、問題に合ったグラフを選んだり、比べられる量を求めてそれを説明したりすることができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数の問題であっても問題文の文章量が多いので、速く正確に読み取ることができるようにする。 説明を言葉で話すだけでなく、ノート等に考えを書かせる。また、長い文章題にも取り組ませる。 割合の学習では、しっかりノートに考え方を書かせる。また目的に合ったグラフの描き方を考えさせる。

3 質問紙調査

(13)～(27)は、平成28年度「基礎・基本」定着状況調査 児童質問紙調査票から「学びの变革」パイロット校事業の検証に用いる質問事項(13)～(27)を抜粋したものである。9割以上の項目

No	質問項目	県5年	本校6年	本校5年	本校4年	本校3年	本校2年	本校平均	県との差	本校平均と
13	授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう」、「やってみよう」と思います。	81.2	93.1	96.2	90.6	94.5	93.6	93.6	+12.4	
14	授業では、解決しようとする課題について、「たぶんこうではないか」、「こうすればできるのではないか」と予想しています。	85.1	93.1	98.1	90.6	91.8	89.4	92.6	+7.5	
15	授業では、課題を解決するために、進んで、資料を集めたり取材をしたりしています。	51.8	82.8	78.8	83.7	83.7	85.1	82.8	+31.0	
16	授業では、課題を解決するための情報を集める前に、どのような方法だと必要な情報を集めることができるのかを考えています。	59.9	82.8	88.5	86.0	89.1	80.9	85.4	+25.5	
17	授業では、調べたことなどを、図、グラフ、表などにまとめています。	73.7	89.7	94.2	83.7	94.5	95.7	91.5	+17.8	
18	授業では、情報を、比べたり(比較)、仲間分けしたり(分類)、関係を見つめたり(関係付け)して、何が分かるのかを考えています。	75.5	89.7	86.5	86.0	97.2	95.7	91	+15.5	
19	授業では、自分の考えを積極的に伝えています。	65.8	65.5	76.5	88.3	78.3	89.4	79.6	+13.8	
20	授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫しています。	67.9	79.3	80.8	76.7	89.1	91.5	83.4	+15.5	
21	授業では、考えたり提案したりしたことについて、実際に取り組んでいます。	72.5	100	88.5	88.3	89.1	95.7	92.3	+19.8	
22	学習の振り返りをするときには、「どこまで分かったか」、「学習の方法がうまくいったことや失敗したことなどの理由」を感じています。	71.4	89.7	86.5	88.3	94.5	87.2	89.2	+17.8	
23	学習の振り返りをするときには、「もっと考えてみたいこと」、「もっと調べてみたいこと」、「もっと工夫してみたいこと」などを考えています。	75.4	89.7	84.6	90.6	86.4	91.5	88.5	+13.1	
24	ふだんの生活や学習の中で、これまでに学習した内容や学習の進め方を使っています。	81.3	86.2	94.2	83.7	89.1	91.5	88.9	+7.6	
25	授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。	79.9	93.1	88.5	93.0	91.8	95.7	92.4	+12.5	
26	授業では、実際にものを使ってやってみたり、地域や自然の中で学習したりするなどの体験活動をしています。	70.2	96.6	88.5	79.0	100	87.2	90.2	+20.0	
27	「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。	69.6	86.2	88.5	76.7	97.2		87.1	+17.5	
	平均	72.0	87.8	87.9	85.6	91.0	90.7	88.6	+16.6	

(28)～(35)は、本校で育てたい資質・能力（建設的批判能力、責任感、チャレンジ精神、感性、自分への自信、尾道市民としてのアイデンティティ）の達成指標を図るため、本校独自で設定した質問事項である。

No	質問項目	本校 6 年	本校 5 年	本校 4 年	本校 3 年	本校 2 年	本校 平均
28	自分の考えが正しいか、しっかり確かめるようにしています。(建設的批判能力)	93.1	96.2	93.0	97.2	97.9	95.4
29	自分とちがう考えも大切にして、自分の考えを書いたり、話したりしています。(建設的批判能力)	86.2	92.3	81.3	97.2	95.7	90.5
30	自分の仕事や役割を、責任をもって最後までしています。(責任感)	89.7	96.2	88.3	91.8	97.9	92.7
31	できないと思うことでもチャレンジしています。(チャレンジ精神)	96.6	92.3	86.0	89.1	95.7	91.9
32	日ごろから心が動かされたり感動したりします。(感性)	72.4	78.8	79.0	70.2	95.7	79.2
33	自分はやればできると思います。(自分への自信)	72.4	88.5	88.3	86.4	97.9	86.7
34	尾道のよさを知っています。(尾道市民としてのアイデンティティ)	89.7	88.5	100	94.5	91.5	92.8
35	尾道の人の願いを知っています。(尾道市民としてのアイデンティティ)	69.0	76.9	81.3	81.0	83.0	78.2

VI 研究のまとめ（中間）

1 成果

成果① 児童の資質・能力を高める課題発見・解決学習のための授業づくり

今年度も、昨年度の反省を踏まえ、実践した開発単元の見直しを図り、これまで開発した単元を改善する形で授業実践を行った。総合的な学習の時間のみならず、教科においても育成したい資質・能力や「課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・創造・表現、実行、振り返り」の探究のプロセスを明確にした単元開発を行い、導入の工夫によって児童の学習意欲を高めながら、授業を行うことができた。学力テストの結果や質問紙調査の結果からみても高い成果を挙げていると考える。

成果② 児童の資質・能力育成のための系統表の作成

本校で設定した資質・能力のうち、とりわけ「思考力・表現力」と「主体性・積極性」の系統表を作成した。国語科では、「読むこと」、算数科では、「割合」に関する系統表を低中高に分けて作成した。系統表を作成したことにより、目指す児童の姿が明確になり、系統的に指導を行うことができた。

成果③ 児童の確かな学力の定着につながった学習習慣の確立

学ぶ習慣づくりのために、モジュール授業、家庭学習、その他様々な取組を行った。モジュール授業の取組においては、今年度で15年目を迎えた。音読や聞き取り、まず計算など、学習の基礎・基本の定着を図り、インプットしたことをアウトプットする習慣を身に付けさせるために、全学年、全職員で継続して取り組んできたことが、児童の確かな力へとつながっている。今年度は、算数科「割合」の単元のモジュール教材を3年生以上の学年で開発することができた。また、モジュール授業に関わる研修や開発、実施等の工夫が充実したことも成果の大きな要因である。

2 課題と今後に向けて

課題と今後に向けて① 目指す児童の姿の明確化

単元開発や改善を図ってきたが、今後の課題となったのは、目指す児童の姿をより明確にしていくことである。国語部会では、付けたい力を明確にしてその育成につながる単元を貫く言語活動を設定すること、算数部会では、よりよく問題を解く児童の姿を明確にして、単元を構成していくことである。また特別支援教育部会では、児童の実態を的確に把握することが課題として挙げられた。児童の深い学びのために教材研究や理論研修を行ってきたが、児童の実態、そして目指す児童の姿を明確にして取り組んでいきたい。

課題と今後に向けて② 資質・能力の系統表と検証

今年度は、「読むこと」のための系統表、「割合」のための系統表、「主体性・積極性」の系統表を作成したが、作成した系統表の検証が十分であるとは言えない。また、主体性・積極性のある児童の行動やノートの記録を残し、変容を調査していきたい。系統表の改善を加えながら、より実用性の高い系統表を作成していきたい。

Ⅶ 日 程

8:40 9:10 9:40 9:50 10:35 10:50 11:10 12:00 13:00 14:30 14:45 15:00 16:20 16:30

受付	公開授業 モジュール授業	移動	公開授業 総合的な学習の時間 特別支援教育 国語科・算数科	移動	児童発表	開会行事 実践報告	昼食・休憩	分科会	移動	講評	講演	閉会行事
----	-----------------	----	--	----	------	--------------	-------	-----	----	----	----	------

公開授業Ⅰ (モジュール授業) (9:10~9:40)

内 容	公開学年	授業者	会 場
<p style="text-align: center;">モジュール授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読, 暗唱, 漢字, 聞き取り ・ます計算, そろばん ・歴史 <p style="text-align: right;">など</p>	1年1組	隆杉 佳代	1年1組 教室
	1年2組	灰垣亜希子	1年2組 教室
	2年1組	岡 明美	2年1組 教室
	2年2組	亀本 拓朗	2年2組 教室
	3年1組	舛上 敏成	3年1組 教室
	4年1組	島本佳代子	4年1組 教室
	4年2組	菅方 賢司	4年2組 教室
	5年1組	谷川 友弥	5年1組 教室
	5年2組	上田 千紘	5年2組 教室
	6年1組	才谷 瑛一	6年1組 教室
	特別支援学級(知的)	黒飛 美穂	たんぼぼ 学級教室
	特別支援学級(情緒)	渡邊 翠大	さくら 学級教室
特別支援学級(聴覚)	内海 京子	すみれ 学級教室	

公開授業Ⅱ (国語科・算数科・総合的な学習の時間・特別支援教育)

(9:50~10:35)

公開学年	教科領域名	単元・題材名	授業者	会場
1年1組	算数科	たすのかな ひくのかな ずをかいてかんがえよう!	隆杉 佳代	1年1組 教室
1年2組	国語科	スイミー みんなの力でんきの本に!~おはなしのすきなところをしようかいしよう~	灰垣亜希子	1年2組 教室
2年1組	国語科	かさこじぞう 昔話のおもしろさ発見!伝えたいな	岡 明美	2年1組 教室
2年2組	算数科	かけ算(3) 1つ分は何かな?いくつ分あるかな?	亀本 拓朗	2年2組 教室
3年1組	算数科	分数 分けた大きさを表そう	舛上 敏成	3年1組 教室
4年1組	国語科	ごんぎつね 行列のできる土堂小図書館への道!~悲しみの中の“魅力”とは?~	島本佳代子	4年1組 教室
4年2組	総合的な 学習の時間	尾道の小路復活大作戦!	菅方 賢司 保森 智彦	4年2組 教室
5年1組	算数科	割合とグラフ 広島県内の空き家率って何%?	谷川 友弥	5年1組 教室
5年2組	国語科	大造じいさんとがん 「ビブリオバトル!作品の魅力を伝え合おう」	上田 千紘	5年2組 教室
6年1組	算数科	速さ 速さの考えを使って到着時刻を調べよう	才谷 瑛一	6年1組 教室
特別支援学級 (知的)	算数科	面積(4年) いろいろな形の面積を比べてみよう!	黒飛 美稲	たんぽぽ 学級教室
特別支援学級 (情緒)	算数科	割合とグラフ(5年) さくらCaféを開こう!割引価格を考えよう	渡邊 翠大	さくら 学級教室
特別支援学級 (難聴)	算数科	ひき算(2)(1年) 三角形(3年)	内海 京子	すみれ 学級教室

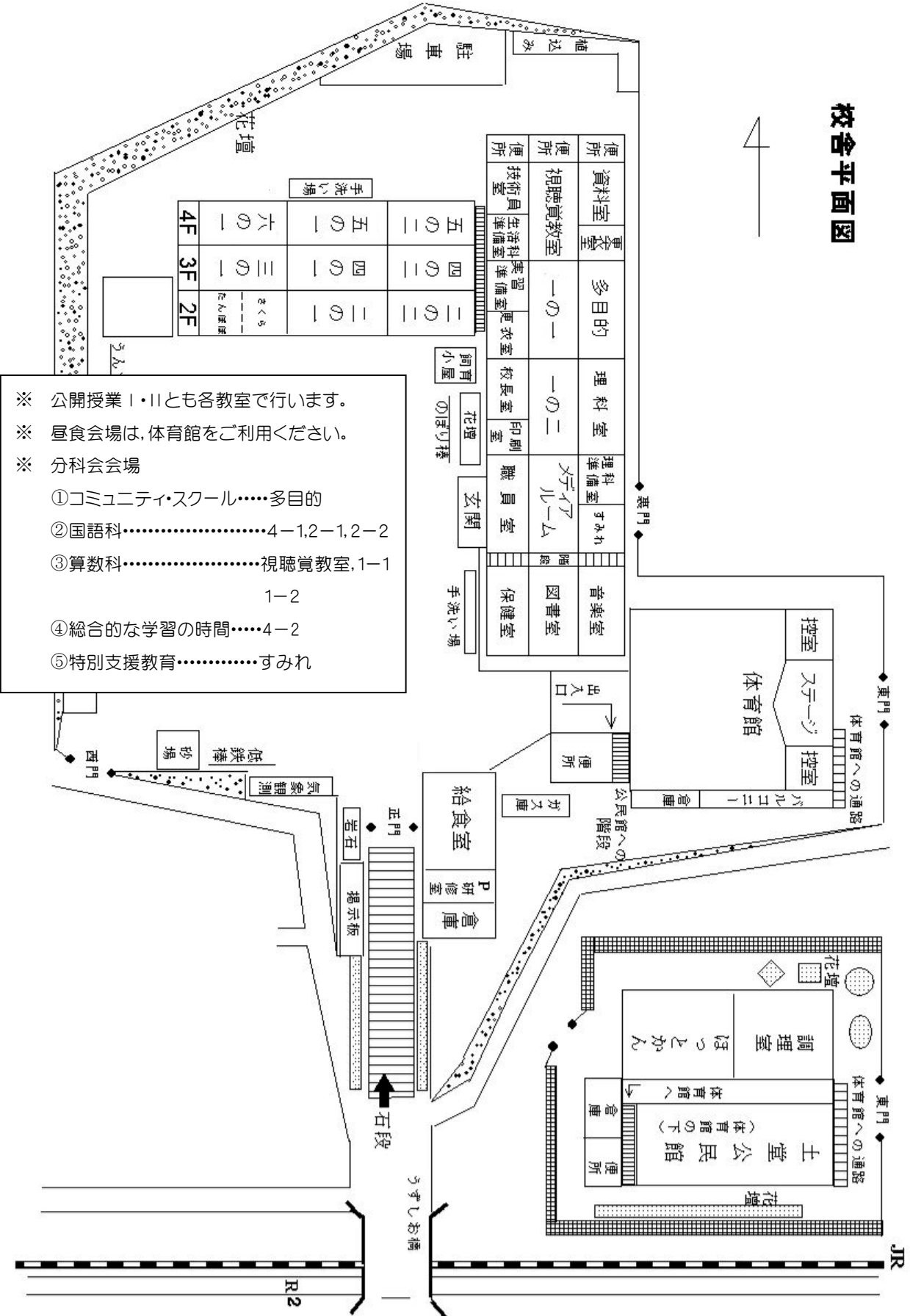
児童発表

(10:50~11:10)

○土堂っ子太鼓(6年生児童)

地域に伝わるベッチャー太鼓をアレンジし、全校児童が継承し、今年度で26周年を迎えました。

校舎平面図



- ※ 公開授業 1・11とも各教室で行います。
- ※ 昼食会場は、体育館をご利用ください。
- ※ 分科会会場
 - ①コミュニティ・スクール……多目的
 - ②国語科……………4-1,2-1,2-2
 - ③算数科……………視聴覚教室, 1-1
1-2
 - ④総合的な学習の時間……4-2
 - ⑤特別支援教育…………すみれ

VIII 全体会

開会行事

(11:10～11:30)

主催者挨拶

尾道市教育委員会 教育長 佐藤 昌弘

尾道市立土堂小学校 校長 佐々木 智彦

来賓祝辞

広島県東部教育事務所 所長 立花 正行

尾道市立土堂小学校 研究主任 才谷 瑛一

分科会

(13:00～14:30)

分科会名 (会場)	協議テーマ	指導・助言者
コミュニティ・スクール (多目的)	ミッションステートメントの具現化をめざして	比治山大学・比治山短期大学副学長 広島大学名誉教授 林 武広 先生
国語科 (2年1組) (2年2組) (4年1組)	主体的な学びのための国語科授業	福岡教育大学 国語教育講座 教授 河野 智文 先生 広島県東部教育事務所 指導主事 西谷由季子 先生 尾道市教育委員会 指導主事 大矢 純一 先生
算数科 (視聴覚室) (1年1組) (1年2組)	主体的な学びのための算数科授業	福岡教育大学 数学教育講座 准教授 岩田 耕司 先生 広島県東部教育事務所 指導主事 神鳥 裕史 先生
総合的な 学習の時間 (4年2組)	主体的な学びのための総合的な学習の時間	広島県東部教育事務所 指導主事 平田 恭子 先生 尾道市教育委員会 指導主事 山口 晴子 先生
特別支援教育 (すみれ学級)	主体的な学びのための特別支援教育	広島県立尾道特別支援学校 教育相談主任・地域支援部長 佐藤 喜昭 先生 教育相談主任 井桁 陽介 先生

講評

(14:45～14:55)

広島県東部教育事務所 指導主事 西谷 由季子 様



「次期学習指導要領『算数科』のポイント

～『割合』の学習指導を見据えて～

文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部
教科調査官 笠井 健一 先生

MEMO

閉会行事

(16:20~16:30)

閉会挨拶

尾道市立土堂小学校 教頭 植木 雅子

公開授業Ⅰ

学年	内容 (教科)	指導者	教室				
1年1組	音読, フラッシュ, 聞き取り (国語科) 計算・時計フラッシュ, ます計算 (算数科)	隆杉 佳代	1年1組				
<table border="1"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>国語科</p> <p>【ねらい】 正しい姿勢・口形で音読したり, 大事なことを意識して聞き取ったりする態度を育てる。 【児童の実態】 元気よく音読することはできるが, 大事なことを落とさず聞くことが難しい児童がいる。</p> <p>1 音読 ・お口の体操 ・五十音 ・早口言葉 ・あるけあるけ</p> <p>2 フラッシュ ・カタカナ ・日付と数え方</p> <p>3 聞き取り ・説明的文章</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p style="text-align: center;">留意点</p> <p>○拍を取り, テンポよく進められるようにする。 ○タイミングよく児童を評価し, 児童の意欲を高めるようにする。 ○形態を工夫し, 集中して音読やフラッシュに取り組ませる。 ○大事なことは何かを確かめ, 聞き取りの力を高める。</p> </td> </tr> </table>		<p>国語科</p> <p>【ねらい】 正しい姿勢・口形で音読したり, 大事なことを意識して聞き取ったりする態度を育てる。 【児童の実態】 元気よく音読することはできるが, 大事なことを落とさず聞くことが難しい児童がいる。</p> <p>1 音読 ・お口の体操 ・五十音 ・早口言葉 ・あるけあるけ</p> <p>2 フラッシュ ・カタカナ ・日付と数え方</p> <p>3 聞き取り ・説明的文章</p>	<p style="text-align: center;">留意点</p> <p>○拍を取り, テンポよく進められるようにする。 ○タイミングよく児童を評価し, 児童の意欲を高めるようにする。 ○形態を工夫し, 集中して音読やフラッシュに取り組ませる。 ○大事なことは何かを確かめ, 聞き取りの力を高める。</p>	<table border="1"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>算数科</p> <p>【ねらい】 最後まで集中して, 計算やフラッシュに取り組もうとする態度を育てる。 【児童の実態】 10までの足し算・引き算の計算はできるが, 繰り上がり・繰り下がり計算の定着は, 個人差が大きい。</p> <p>1 計算フラッシュ ・時計 ・足し算 ・引き算</p> <p>2 ます計算 ・10ます ・30ます</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p style="text-align: center;">留意点</p> <p>○テンポよくフラッシュを提示し, 集中して取り組めるようにする。 ○フラッシュを答える形態を工夫したり, 出題方法を変えたりして, 集中力を高める。 ○ます計算では, 目標時間を設定することや, 自己の目標を決めることで, 意欲的に取り組めるようにする。</p> </td> </tr> </table>		<p>算数科</p> <p>【ねらい】 最後まで集中して, 計算やフラッシュに取り組もうとする態度を育てる。 【児童の実態】 10までの足し算・引き算の計算はできるが, 繰り上がり・繰り下がり計算の定着は, 個人差が大きい。</p> <p>1 計算フラッシュ ・時計 ・足し算 ・引き算</p> <p>2 ます計算 ・10ます ・30ます</p>	<p style="text-align: center;">留意点</p> <p>○テンポよくフラッシュを提示し, 集中して取り組めるようにする。 ○フラッシュを答える形態を工夫したり, 出題方法を変えたりして, 集中力を高める。 ○ます計算では, 目標時間を設定することや, 自己の目標を決めることで, 意欲的に取り組めるようにする。</p>
<p>国語科</p> <p>【ねらい】 正しい姿勢・口形で音読したり, 大事なことを意識して聞き取ったりする態度を育てる。 【児童の実態】 元気よく音読することはできるが, 大事なことを落とさず聞くことが難しい児童がいる。</p> <p>1 音読 ・お口の体操 ・五十音 ・早口言葉 ・あるけあるけ</p> <p>2 フラッシュ ・カタカナ ・日付と数え方</p> <p>3 聞き取り ・説明的文章</p>	<p style="text-align: center;">留意点</p> <p>○拍を取り, テンポよく進められるようにする。 ○タイミングよく児童を評価し, 児童の意欲を高めるようにする。 ○形態を工夫し, 集中して音読やフラッシュに取り組ませる。 ○大事なことは何かを確かめ, 聞き取りの力を高める。</p>						
<p>算数科</p> <p>【ねらい】 最後まで集中して, 計算やフラッシュに取り組もうとする態度を育てる。 【児童の実態】 10までの足し算・引き算の計算はできるが, 繰り上がり・繰り下がり計算の定着は, 個人差が大きい。</p> <p>1 計算フラッシュ ・時計 ・足し算 ・引き算</p> <p>2 ます計算 ・10ます ・30ます</p>	<p style="text-align: center;">留意点</p> <p>○テンポよくフラッシュを提示し, 集中して取り組めるようにする。 ○フラッシュを答える形態を工夫したり, 出題方法を変えたりして, 集中力を高める。 ○ます計算では, 目標時間を設定することや, 自己の目標を決めることで, 意欲的に取り組めるようにする。</p>						

学年	内容 (教科)	指導者	教室				
1年2組	音読, フラッシュ, 聞き取り (国語科) 計算・時計フラッシュ, ます計算 (算数科)	灰垣 亜希子	1年2組				
<table border="1"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>算数科</p> <p>【ねらい】 最後まで集中して, 正確に計算やフラッシュに取り組もうとする態度を育てる。 【児童の実態】 10までの足し算・引き算の計算は正確にできるが計算のスピードは個人差がとても大きい。</p> <p>1 計算フラッシュ ・時計 ・足し算 ・引き算</p> <p>2 ます計算 ・10ます ・30ます</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p style="text-align: center;">留意点</p> <p>○テンポよくフラッシュを提示し, 集中して取り組めるようにする。 ○フラッシュを答える形態を工夫したり, 出題方法を変えたりして, 集中力を高める。 ○ます計算では, 各自で目標時間を設定することで, 意欲的に取り組めるようにする。</p> </td> </tr> </table>		<p>算数科</p> <p>【ねらい】 最後まで集中して, 正確に計算やフラッシュに取り組もうとする態度を育てる。 【児童の実態】 10までの足し算・引き算の計算は正確にできるが計算のスピードは個人差がとても大きい。</p> <p>1 計算フラッシュ ・時計 ・足し算 ・引き算</p> <p>2 ます計算 ・10ます ・30ます</p>	<p style="text-align: center;">留意点</p> <p>○テンポよくフラッシュを提示し, 集中して取り組めるようにする。 ○フラッシュを答える形態を工夫したり, 出題方法を変えたりして, 集中力を高める。 ○ます計算では, 各自で目標時間を設定することで, 意欲的に取り組めるようにする。</p>	<table border="1"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>国語科</p> <p>【ねらい】 正しい姿勢・口形で音読したり, キーワードを意識して聞き取ったりする態度を育てる。 【児童の実態】 テンポよく楽しんで音読することはできるが, 正しい姿勢や集中は持続しにくい。</p> <p>1 音読 ・お口の体操 ・五十音 ・早口言葉 ・あるけあるけ</p> <p>2 フラッシュ ・カタカナ ・日付と数え方</p> <p>3 聞き取り ・説明的文章</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p style="text-align: center;">留意点</p> <p>○カスタネットで拍を取り, テンポを保って進められるようにする。 ○集中してリズムよく音読・フラッシュの問題ができるようにさせるために, 全体・グループ・個人など形態を工夫する。 ○2回行う説明の中で, キーワードは何かを確かめることで, 聞き取りの視点をもたせる。</p> </td> </tr> </table>		<p>国語科</p> <p>【ねらい】 正しい姿勢・口形で音読したり, キーワードを意識して聞き取ったりする態度を育てる。 【児童の実態】 テンポよく楽しんで音読することはできるが, 正しい姿勢や集中は持続しにくい。</p> <p>1 音読 ・お口の体操 ・五十音 ・早口言葉 ・あるけあるけ</p> <p>2 フラッシュ ・カタカナ ・日付と数え方</p> <p>3 聞き取り ・説明的文章</p>	<p style="text-align: center;">留意点</p> <p>○カスタネットで拍を取り, テンポを保って進められるようにする。 ○集中してリズムよく音読・フラッシュの問題ができるようにさせるために, 全体・グループ・個人など形態を工夫する。 ○2回行う説明の中で, キーワードは何かを確かめることで, 聞き取りの視点をもたせる。</p>
<p>算数科</p> <p>【ねらい】 最後まで集中して, 正確に計算やフラッシュに取り組もうとする態度を育てる。 【児童の実態】 10までの足し算・引き算の計算は正確にできるが計算のスピードは個人差がとても大きい。</p> <p>1 計算フラッシュ ・時計 ・足し算 ・引き算</p> <p>2 ます計算 ・10ます ・30ます</p>	<p style="text-align: center;">留意点</p> <p>○テンポよくフラッシュを提示し, 集中して取り組めるようにする。 ○フラッシュを答える形態を工夫したり, 出題方法を変えたりして, 集中力を高める。 ○ます計算では, 各自で目標時間を設定することで, 意欲的に取り組めるようにする。</p>						
<p>国語科</p> <p>【ねらい】 正しい姿勢・口形で音読したり, キーワードを意識して聞き取ったりする態度を育てる。 【児童の実態】 テンポよく楽しんで音読することはできるが, 正しい姿勢や集中は持続しにくい。</p> <p>1 音読 ・お口の体操 ・五十音 ・早口言葉 ・あるけあるけ</p> <p>2 フラッシュ ・カタカナ ・日付と数え方</p> <p>3 聞き取り ・説明的文章</p>	<p style="text-align: center;">留意点</p> <p>○カスタネットで拍を取り, テンポを保って進められるようにする。 ○集中してリズムよく音読・フラッシュの問題ができるようにさせるために, 全体・グループ・個人など形態を工夫する。 ○2回行う説明の中で, キーワードは何かを確かめることで, 聞き取りの視点をもたせる。</p>						

学年	内容 (教科)	指導者	教室										
2年1組	まず計算, 時刻・掛け算フラッシュ (算数科) 聞き取り, 反対の意味の言葉フラッシュ (国語科)	岡 明美	2年1組										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>算数科</th> <th>国語科</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <p>【ねらい】 集中して計算に取り組み, 時刻や掛け算の既習事項の定着を図る。</p> <p>【児童の実態】 既習事項をフラッシュで答える際に, つまづく児童がいる。</p> </td> <td> <p>【ねらい】 説明的文章から大事なことを落とさないように集中して聞く態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 メモを取って話を聞こうとしているが, 話のあらましや要点を落とすことがある。</p> </td> </tr> <tr> <td> <p>1 まず計算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掛け算 <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時刻 ・掛け算 </td> <td> <p>1 聞き取り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明的文章 <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反対の意味の言葉 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">留意点</td> <td style="text-align: center;">留意点</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の目標の時間や問題数を意識して取り組ませる。 ○途切れることなく集中して取り組めるように, テンポよく問題を提示する。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○話のあらましをつかめるよう, 2回文章を聞かせる。1回目には, メモを取らずに聞かせる。 ○フラッシュでは, 正しくはっきりと言わせる。 </td> </tr> </tbody> </table>		算数科	国語科	<p>【ねらい】 集中して計算に取り組み, 時刻や掛け算の既習事項の定着を図る。</p> <p>【児童の実態】 既習事項をフラッシュで答える際に, つまづく児童がいる。</p>	<p>【ねらい】 説明的文章から大事なことを落とさないように集中して聞く態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 メモを取って話を聞こうとしているが, 話のあらましや要点を落とすことがある。</p>	<p>1 まず計算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掛け算 <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時刻 ・掛け算 	<p>1 聞き取り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明的文章 <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反対の意味の言葉 	留意点	留意点	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の目標の時間や問題数を意識して取り組ませる。 ○途切れることなく集中して取り組めるように, テンポよく問題を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話のあらましをつかめるよう, 2回文章を聞かせる。1回目には, メモを取らずに聞かせる。 ○フラッシュでは, 正しくはっきりと言わせる。 		
算数科	国語科												
<p>【ねらい】 集中して計算に取り組み, 時刻や掛け算の既習事項の定着を図る。</p> <p>【児童の実態】 既習事項をフラッシュで答える際に, つまづく児童がいる。</p>	<p>【ねらい】 説明的文章から大事なことを落とさないように集中して聞く態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 メモを取って話を聞こうとしているが, 話のあらましや要点を落とすことがある。</p>												
<p>1 まず計算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掛け算 <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時刻 ・掛け算 	<p>1 聞き取り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明的文章 <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反対の意味の言葉 												
留意点	留意点												
<ul style="list-style-type: none"> ○自分の目標の時間や問題数を意識して取り組ませる。 ○途切れることなく集中して取り組めるように, テンポよく問題を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話のあらましをつかめるよう, 2回文章を聞かせる。1回目には, メモを取らずに聞かせる。 ○フラッシュでは, 正しくはっきりと言わせる。 												

学年	内容 (教科)	指導者	教室										
2年2組	音読, 主語と述語フラッシュ (国語科) フラッシュ, キーワードゲーム, チャンツ (英語活動)	亀本 拓朗	2年2組										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>国語科</th> <th>英語活動</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <p>【ねらい】 口形や発音, 姿勢に気を付けて集中して取り組む態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 大きな声で読むことができるが, 正しくはっきりと発音することに課題がある。</p> </td> <td> <p>【ねらい】 最後まで集中して取り組むとともに, 動物の名前を覚えることができる。</p> <p>【児童の実態】 絵カードを見れば動物の名前を言うことができる児童が多いが, 全員ではない。</p> </td> </tr> <tr> <td> <p>1 音読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五十音 ・早口言葉 ・竹 ・俳句 <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主語と述語 </td> <td> <p>1 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物の名前 <p>2 キーワードゲーム</p> <p>3 チャンツ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「Bingo」 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">留意点</td> <td style="text-align: center;">留意点</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○リズムよく集中して音読するために, 全体・グループ・個人など形態を工夫する。 ○全員が集中して取り組むことができるよう, テンポ良くフラッシュを提示する。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○テンポ良くフラッシュを提示し, 肯定的な評価言を明るく簡潔に言う。 ○classroom English を用いて活動を進めることで, 英語の発音に慣れさせる。 </td> </tr> </tbody> </table>		国語科	英語活動	<p>【ねらい】 口形や発音, 姿勢に気を付けて集中して取り組む態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 大きな声で読むことができるが, 正しくはっきりと発音することに課題がある。</p>	<p>【ねらい】 最後まで集中して取り組むとともに, 動物の名前を覚えることができる。</p> <p>【児童の実態】 絵カードを見れば動物の名前を言うことができる児童が多いが, 全員ではない。</p>	<p>1 音読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五十音 ・早口言葉 ・竹 ・俳句 <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主語と述語 	<p>1 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物の名前 <p>2 キーワードゲーム</p> <p>3 チャンツ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「Bingo」 	留意点	留意点	<ul style="list-style-type: none"> ○リズムよく集中して音読するために, 全体・グループ・個人など形態を工夫する。 ○全員が集中して取り組むことができるよう, テンポ良くフラッシュを提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○テンポ良くフラッシュを提示し, 肯定的な評価言を明るく簡潔に言う。 ○classroom English を用いて活動を進めることで, 英語の発音に慣れさせる。 		
国語科	英語活動												
<p>【ねらい】 口形や発音, 姿勢に気を付けて集中して取り組む態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 大きな声で読むことができるが, 正しくはっきりと発音することに課題がある。</p>	<p>【ねらい】 最後まで集中して取り組むとともに, 動物の名前を覚えることができる。</p> <p>【児童の実態】 絵カードを見れば動物の名前を言うことができる児童が多いが, 全員ではない。</p>												
<p>1 音読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五十音 ・早口言葉 ・竹 ・俳句 <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主語と述語 	<p>1 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物の名前 <p>2 キーワードゲーム</p> <p>3 チャンツ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「Bingo」 												
留意点	留意点												
<ul style="list-style-type: none"> ○リズムよく集中して音読するために, 全体・グループ・個人など形態を工夫する。 ○全員が集中して取り組むことができるよう, テンポ良くフラッシュを提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○テンポ良くフラッシュを提示し, 肯定的な評価言を明るく簡潔に言う。 ○classroom English を用いて活動を進めることで, 英語の発音に慣れさせる。 												

学年	内容 (教科)	指導者	教室
3年1組	音読, フラッシュ (国語科) Songs, Keyword game (英語活動)	舛上 敏成	3年1組
国語科	<p>【ねらい】 口形や発音, 姿勢に気を付け, 集中して取り組もうとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 意欲的に音読したり解答したりする児童が多い。はっきり発音することや最後まで集中することに課題がある児童がいる。</p>	英語活動	<p>【ねらい】 英語の音声に親しむとともに, 英語の歌やゲームなどの活動を楽しもうとする。</p> <p>【児童の実態】 活動では, 大きな声で発音したり歌ったりする姿が見られ, 意欲的である。英語の指示や声掛けの意味が分からず, 戸惑うことがある。</p>
<p>1 音読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お口の体そう ・五十音 ・尋故隠君 ・静夜の思い ・我が輩は猫である <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・送り仮名 ・ことわざ 	留意点	<p>1 Songs</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「Head Shoulders Knees & Toes」 ・「ABC song」 ・「Seven steps」 <p>2 Keyword game</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「Animals」 	留意点
	<p>○全体・ペア・列などのように, 読む形態を変えることで, テンポ良く集中して取り組ませる。</p> <p>○フラッシュでは, テンポよく問題を提示し, 答えさせる。</p>		<p>○歌では, 動作を付けながら楽しんで歌えるようにする。</p> <p>○発音の難しい単語は繰り返し言わせる。音の大小・高低を付けて発音させる。</p>

学年	内容 (教科)	指導者	教室
4年1組	音読, 部首・音読み・訓読みフラッシュ (国語科) Chants(country), Conversation exercise, Exercise to write words (英語活動)	島本 佳代子	4年1組
国語科	<p>【ねらい】 伝わる声を意識してテンポよく音読し, 集中して学習しようとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 大きな声で音読することはできるが, 全体でそろえて読んだり, 音読みと訓読みを分けたりすることに課題がある。</p>	英語活動	<p>【ねらい】 正しい発音や表記を身に付け, 友達に自分の行きたい国を英語で伝えようとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 覚えた英単語を使って楽しんで会話することができるが, 大文字と小文字を混同したりローマ字表記になったりする児童がいる。</p>
<p>1 音読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五十音 ・外郎売り ・草枕 <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接続語 ・音読み・訓読み 	留意点	<p>1 Chants(country)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・New Zealand ・China ・Turkey etc <p>2 Conversation exercise</p> <p>3 Exercise to write words</p>	留意点
	<p>○集中して音読するため, 集団, グループ, 個と音読形態を工夫する。</p> <p>○音読み・訓読みの違いを明確にしてからフラッシュを始める。</p>		<p>○ Big voice, Big smile, Don't speak Japanese. の3つを確認し, 意欲を高める。</p> <p>○Chants は, 聞き慣れた単語から順に提示する。</p> <p>○書き取りが終わった児童は, 裏面に練習させる。</p>

学年	内容 (教科)	指導者	教室
4年2組	フラッシュ, わり算プリント (算数科) 音読, 聞き取り (国語科)	菅方 賢司	4年2組
算数科 【ねらい】 正確に概数に表したり,割合につながる立式の根拠を説明したりする力を育てる。 素早く正確に計算する力を育てる。 【児童の実態】 ～の位までの概数や上から○けたの概数にすること,立式の根拠を説明することに課題がある。		国語科 【ねらい】 はっきりと大きな声で音読したり,工夫してメモを取ったりする態度を育てる。 【児童の実態】 聞き取りの時に,重要な箇所に線や記号を付けたり,箇条書きにしたりするなど学習したことを活かすことができていない実態がある。	
1 フラッシュ ・がい数 ・割合につながる問題 2 プリント ・1桁, 2桁で割る 割り算		留意点 ○四捨五入する位を見つけさせる。 ○立式の根拠を全員や一人ずつ発言させる。 ○前回の記録を確認させ,目標を決める。	
		1 音読 ・五十音 ・落葉松 ・外郎売り 2 聞き取り ・説明的文章	
		留意点 ○集中して音読するため,集団,グループ,個と音読形態を工夫する。 ○工夫してメモをとるように掲示物を参考にメモの取り方を工夫させる。	

学年	内容 (教科)	指導者	教室
5年1組	100問割り算, フラッシュ (算数科) 地理フラッシュ, 都道府県カルタ (社会科)	谷川 友弥	5年1組
算数科 【ねらい】 主体的に学習に参加し,集中して計算に取り組もうとする態度を育てる。 【児童の実態】 自己の目標を決めて意欲的に取り組む児童が多い。倍数の理解や立式した理由を説明することには差がある。		社会科 【ねらい】 主体的に日本の地名や農業・水産業に関する用語の意味を理解しようとする態度を育てる。 【児童の実態】 都道府県名や場所については定着してきているが,山脈・川などの名称や農業・水産業についての知識が十分定着していない。	
1 100問割り算 2 フラッシュ ・倍数 ・割合		留意点 ○自己の目標を決めて,意欲的に問題に取り組ませる。 ○形態を変えてフラッシュを言わせる。 ○あいまいな問題は繰り返し行い,定着を図る。	
		1 フラッシュ ・日本地図 (地名) ・農業, 水産業 2 都道府県カルタ	
		留意点 ○フラッシュは,テンポよく提示し,しっかり声を出させる。 ○都道府県カルタは,地方を指定し,ペアで取り組ませる。	

学年	内容 (教科)	指導者	教室
5年2組	音読, 聞き取り (国語科) 100問割り算, フラッシュ (算数科)	上田 千紘	5年2組
<p>国語科</p> <p>【ねらい】 詩や古文に応じた読み方を工夫して、音読したり、正確に文章を聞き取ったりする態度を育てる。 【児童の実態】 詩や古文をリズムよく音読することができる。正しく聞き取ることはまだ十分でない。</p> <p>1 音読 ・五十音 ・方丈記 ・伊勢物語 ・平家物語</p> <p>2 聞き取り ・説明的文章</p> <p style="text-align: center;">留意点</p> <p>○読み方の形態を変え、テンポよく音読させる。 ○説明的文章を正確に聞き取り、時間を制限して要約させる。</p>		<p>算数科</p> <p>【ねらい】 主体的に学習に参加し、集中して計算に取り組もうとする態度を育てる。 【児童の実態】 自己の目標を決めて意欲的に取り組む児童が多い。倍数や小数・分数の大小関係の理解には差がある。</p> <p>1 100問割り算</p> <p>2 フラッシュ ・倍数 ・小数大小関係 ・分数大小関係</p> <p style="text-align: center;">留意点</p> <p>○自己の目標を決めて、意欲的に問題に取り組ませる。 ○形態を変えてフラッシュを言わせる。 ○あいまいな問題は繰り返し行い、定着を図る。</p>	

学年	内容 (教科)	指導者	教室
6年1組	音読, 対義語・接尾語フラッシュ, 聞き取り (国語科) 歴史・政治フラッシュ, プリント (社会科)	才谷 瑛一	6年1組
<p>国語科</p> <p>【ねらい】 工夫して音読し、語彙力を高め、意欲的に文章を聞き自分の考えをもとうとする態度を育てる。 【児童の実態】 意欲的に音読をするが、文章を聞き取ったり自分の考えをもったりすることに課題がある。</p> <p>1 音読 ・論語 ・孫子</p> <p>2 フラッシュ ・対義語 ・接尾語</p> <p>3 聞き取り ・説明的文章</p> <p style="text-align: center;">留意点</p> <p>○読みの形態や古典の読み方を工夫して音読させる。 ○集中して取り組ませるために、個人やグループで言わせる。 ○尾括型で、字数制限を設けて自分の意見を書かせる。</p>		<p>社会科</p> <p>【ねらい】 主体的に歴史的な出来事や人物の働きを理解しようとする態度を育てる。 【児童の実態】 進んで歴史人物を覚えているが、歴史人物の業績や歴史的な出来事の知識の定着に課題がある。</p> <p>1 フラッシュ ・日本国憲法 ・世界遺産 ・歴史 ・政治</p> <p>2 プリント ・歴史</p> <p style="text-align: center;">留意点</p> <p>○フラッシュは、テンポよく提示し、しっかり声を出させる。 ○フラッシュで学習したことを、プリントで定着させる。</p>	

学年	内容 (教科)	指導者	教室
たんぼぼ (5年)	計算フラッシュ, 計算プリント, 数の聞き取り (算数科) 音読, フラッシュ, 1文聞き取り (国語科)	黒飛 美穂	たんぼぼ
算数科	<p>【ねらい】 主体的に学習に参加し, 集中して計算に取り組もうとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 計算問題は意欲的に取り組めるが, 緊張感から数の合成をまちがえることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 計算フラッシュ <ul style="list-style-type: none"> ・10の合成 2 計算プリント <ul style="list-style-type: none"> ・足し算 ・引き算 ・掛け算九九 3 数の聞き取り <ul style="list-style-type: none"> ・大きな数 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p style="text-align: center;">留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○テンポ良く答えさせる。 ○目標時間を設定させ, 意欲的に問題を解けるようにする。 </div>	国語科	<p>【ねらい】 リズムよく, 積極的に音読したり, 大事なことを落とさずに聞いたりする。</p> <p>【児童の実態】 音読はリズムよく, 大きな声で発声することができる。しかし, 聞き取りは苦手である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 音読 <ul style="list-style-type: none"> ・五十音 ・雨ニモマケズ ・坊っちゃん 2 フラッシュ <ul style="list-style-type: none"> ・漢字 ・ことわざ 3. 1文聞き取り <ul style="list-style-type: none"> ・主語, 述語 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p style="text-align: center;">留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リズム良く読ませる。 ○はっきり読ませる。 ○主語と述語を意識して聞き取らせる。 </div>

学年	内容 (教科)	指導者	教室
さくら (6年)	計算・割合フラッシュ, プリント (算数科) 音読, 接尾語・対義語フラッシュ, 聞き取り (国語科)	渡邊 翠大	さくら
算数科	<p>【ねらい】 主体的に学習に参加し, 集中して計算に取り組もうとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 100問割り算に意欲的に取り組める。自力で5分間に50問程度解くことができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 フラッシュ <ul style="list-style-type: none"> ・掛け算九九 ・割合 2 プリント <ul style="list-style-type: none"> ・掛け算100ます計算 ・100問割り算 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p style="text-align: center;">留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○テンポ良く答えさせる。 ○商の見通しをもたせて, 児童がたくさん問題を解けるようにする。 </div>	国語科	<p>【ねらい】 リズムよく, 積極的に音読したり, 大事なことを落とさずに聞いたりする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 リズムに乗って素早く音読することができるが, 話の要点を捉えることは苦手である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 音読 <ul style="list-style-type: none"> ・五十音 ・徒然草 ・論語 ・孫子 2 フラッシュ <ul style="list-style-type: none"> ・接尾語 ・対義語 3. 聞き取り <ul style="list-style-type: none"> ・文学的文章 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p style="text-align: center;">留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リズム良く読ませる。 ○はっきり発声させる。 ○何に注意して聞くのかを伝える。 </div>

学年	内容 (教科)	指導者	教室
1年・3年 (すみれ)	音読, フラッシュ, 聞き取り (国語科) 計算・時計フラッシュ, ます計算 (算数科)	内海 京子	すみれ教室
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p>国語科</p> <p>【ねらい】 正しい姿勢・口形で音読したり, 大事なことを意識して聞き取ったりする態度を育てる。 【児童の実態】 3年児童は9月に転校してきたので, モジュールの練習は始めてである。そのため, 1年生の内容を練習している。</p> </div> <div style="width: 48%;"> <p>算数科</p> <p>【ねらい】 最後まで集中して, 計算やフラッシュに取り組もうとする態度を育てる。 【児童の実態】 10までの足し算・引き算の計算はできるが, 繰り上がり・繰り下がりの計算の定着は, 個人差が大きい。3年生はまだ自信がないので, 声が小さい。</p> </div> </div>			
<div style="display: flex;"> <div style="width: 48%;"> <p>1 音読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お口の体操 ・五十音 ・早口言葉 ・あるけあるけ <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カタカナ ・日付と教え方 <p>3 聞き取り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明的文章 </div> <div style="width: 48%; border-left: 1px solid black; padding-left: 10px;"> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○拍を取り, テンポよく進められるようにする。 ○タイミングよく児童を評価し, 児童の意欲を高めるようにする。 ○形態を工夫し, 集中して音読やフラッシュに取り組ませる。 ○大事なことは何かを確かめ, 聞き取りの力を高める。 </div> </div>		<div style="display: flex;"> <div style="width: 48%;"> <p>1 計算フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時計 ・足し算 ・引き算 ・何円あるかな <p>2 ます計算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10 ます (10秒ずつ) ・30 ます (30秒) </div> <div style="width: 48%; border-left: 1px solid black; padding-left: 10px;"> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○テンポよくフラッシュを提示し, 集中して取り組めるようにする。 ○フラッシュを答える形態を工夫したり, 出題方法を変えたりして, 集中力を高める。 ○ます計算では, 目標時間を設定することや, 自己の目標を決めることで, 意欲的に取り組めるようにする。 </div> </div>	

公開授業Ⅱ

みんなの力でにんきの本に！～おはなしのすきなところをしようかいしよう～ 1年「スイミー」

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力

1 単元について

- 本単元は、次期小学校学習指導要領第1学年及び第2学年の内容「C 読むこと」に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

- (1) エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。
オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。

(1) 単元観

本単元では、登場人物の行動や会話文、挿絵に着目して想像を広げながら楽しんで読むことをねらいとする。その際、学習指導要領「C 読むこと」の言語活動例「イ 読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。」を参考に、いつもお世話になっている6年生に1年生の時に好きだった本のアンケートを取ると、レオ＝レオニ作品を挙げた児童が3%だったことから、こんなに面白い本なのになぜ読んでいないのだろうと思いのズレを感じさせる。そこから、どうしたらレオ＝レオニ作品を6年生にも読んでもらえるだろうかという課題を設定する。課題解決のために、学校で取り組んでいる「読書郵便」と絡めながら、登場人物の行動を中心に想像したことやお話の好きなところを書く「紹介カード」を作成することを通して、登場人物の行動や場面の様子を表す語句や会話文、挿絵に着目させる。

本教材は、スイミーが知恵と勇気を発揮し、仲間と力を合わせて平和な暮らしを取り戻す物語である。また、反復や倒置などの表現の工夫が凝らされたリズム感のある文章であり、多彩な比喩表現が用いられ、想像を膨らませながら読むことができる。そして、レオ＝レオニ作品は、登場人物が特徴的であり、その行動や場面の移り変わりが挿絵とともに分かりやすいので、場面を選んで紹介する活動に適していると考えた。

(2) 児童観

学力調査等の実態

国語科に関するアンケートを実施したところ、読書が好きと答えた児童は79%で、「本を読むとワクワクしたりドキドキしたりするから」と本を読むことに喜びを感じている児童が多い。しかし「どんな話か分からない」「長いお話が多い」と読書に抵抗を感じている児童もいる。1学期の「おおきなかぶ」のテストでは、話のおおまかな内容を捉えることができている児童が93%であり、かぶが抜けた時のおじいさんの気持ちを想像して書くことができている児童が86%であった。しかし、「うれしい」や「よかった」という抽象的な言葉でしか書くことができなかった児童は52%であり、登場人物の気持ちを上手く言葉で表せない児童や、抽象的な言葉でしか表せない児童の姿が見られる。

課題発見・解決学習の実態

本学級の児童は、1学期に「おおきなかぶ」の学習を通して、「どのように音読をしたら音読発表会が成功するだろう」という課題を設定し、動作化を取り入れ、登場人物の気持ちを想像しながら読む学習を行った。おじいさんの気持ちになって読み取ったり、おじいさんの発言を挿絵などから想像したりしながら気持ちを考える児童の姿が見られた。しかし、気持ちを考えることはできても、その根拠となる文章を挙げられない児童もいる。

(3) 指導観

レオ＝レオニ作品を並べたコーナーを教室に設置し、作品に親しめる環境をつくり、そのおもしろさを日々味わわせておくところから本単元を始める。
本文に書かれていることを音声化し理解を深めるために、家庭学習や毎時間開始時には音読を繰り返し取り組ませる。
心情を読み取る際には、ただ「楽しい」「こわい」という抽象的な言葉だけで心情を読み取っていくことがないように、毎回の授業の児童の発言などから「きもちをあらわすことば」の掲示を作成する。そこから心情にぴったり合う言葉を選択したり、紹介カードを書くには登場人物と自分を比べたり重ねたりするとよいことを確かめ、児童が自分の言葉で具体的に気持ちを表現できるようにしていきたい。

アンケートにレオ＝レオニ作品が挙げられなかったことを児童に知らせ、どうしたら6年生がレオ＝レオニ作品を読んでもらえるだろうかという課題を発見させる。そのためには、レオ＝レオニ作品の紹介カードを書き、その本の面白いところ、好きなところを伝えるとよいことに気付かせる。物語の中で好きなところを選ぶために、本単元では、登場人物の行動や会話を捉え、自分がおもしろいと感じた言葉や表現に着目して、スイミーの心情を読む学習を展開していく。好きなところを選ぶ際には、なぜそこが好きなのかという理由をはっきりと言えるように、スイミーのしたこと、言ったこと、見た物などを整理してスイミーの気持ちを想像し、読み進めていく。その際、ペアで意見を交換させ、自分の考えを声に出して伝えることで考えを整理させ、全体交流に繋げられるようにする。

(4) 単元の目標

- 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する。 (知識及び技能)
- 物語の好きなどところを見付けるため、登場人物の行動や会話、挿絵に着目して、想像を広げて読むことができる。 (思考力・判断力・表現力等)
- 物語の好きなどところを見付けて、紹介しようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)

2 単元の評価規準

観点	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	○ 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。	○ 物語の好きなどところを見付けるため、登場人物の行動や会話、挿絵に着目して、想像を広げて読んでいる。	○ 物語の好きなどところを見付けて、紹介しようとしている。

3 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本単元において、物語の好きなどところを見付けて、「スイミー」や他のレオ＝レオニ作品についての紹介カードを作成することを通して、登場人物の行動や会話、挿絵に着目して、想像を広げて読んだり、自分の思いや考えを言葉にしたりする思考力・表現力（スキル）を育むことができると考える。

4 指導計画（全13時間）

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準（方法）
○	レオ＝レオニ作品を並べたコーナーを教室に設置し、作品に親しめる環境をつくり、朝読書の時間や休憩時間に、レオ＝レオニ作品を読んだり、読み聞かせを聞いたりして、そのおもしろさを日々味わわせる。		
一	課題の設定 ペアの6年生が、1年生の時にどんな本を読んでいたのかというアンケートから、レオ＝レオニ作品を読んでいないことを知り、課題を設定する。(1)	どうしてこんなに面白いのにレオ＝レオニ作品を読んでいないのだろう。 面白いところとか好きなところを紹介したら読んでくれるかな。	アンケートの結果から課題を知り、レオ＝レオニ作品の紹介カードを書こうという意欲をもっている。【態度】(行動観察)
	【本質的な問い】 どうしたら、6年生にレオ＝レオニ作品を読んでもらえるだろうか。		
	情報の収集 題名読みをして、内容を想像する。範読を聞いて話の大体を捉える。(1)	面白い話だった。 スイミーは小さくてかわいいな。	物語を読むことに興味をもち、楽しんで取り組もうとしている。【態度】(行動観察, 発言) 題名から、どんな内容なのか想像を広げ考えている。【思・判・表】(ワークシート, 発言)
二	整理・分析 物語の好きなどところを見付けるために、叙述や挿絵に即して、想像を広げながら読む。(6) <ul style="list-style-type: none"> ・ きょうだいたちと楽しく暮らす場面 ・ きょうだいたちが食べられる場面 ・ 独りぼっちで泳ぐ場面 ・ 素晴らしいものに出会う場面 ・ 魚のきょうだいたちと出会う場面 (本時7/13) ・ 大きな魚を追い出す場面 	スイミーは独りぼっちで寂しかったんだね。 小さな魚のきょうだいたちと出会えて嬉しかったんじゃないかな。 スイミーは素晴らしいものを仲間にも見せたいんだね。 みんなで大きな魚を追い出していたのがすごいな。	語のまとまりや、繰り返しの表現に気を付けながら音読している。【知・技】(行動観察) 登場人物の行動や会話、挿絵から場面の様子や登場人物について、想像しながら読んでいる。【思・判・表】(ワークシート, 発言) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付いている。【知・技】(ワークシート)
	まとめ・創造・表現 物語の好きなどところを見付け、ワークシートに好きなどところとその理由を書き、レオ＝レオニ作品の紹介カードを書く練習をする。(1)	自分はスイミーみたいに大きな魚を追い出す勇氣はないけれど、スイミーは追い出したからすごいと思う。	

三	情報の収集 整理・分析	<p>「アレクサンダとぜんまいねずみ」のアレクサンダが紫色の石を見つけてウイリーをネズミに変えてあげるところを紹介カードに書こう。</p> <p>ウイリーをネズミに変えてあげて、二人が仲良く踊るところが好きです。</p> <p>この紹介カードを見て、「アレクサンダとぜんまいねずみ」の本を読んではほしいな。</p>	<p>物語を読むことに興味をもち、楽しんで取り組もうとしている。</p> <p>【態度】(行動観察, 発言)</p> <p>登場人物の行動や会話、挿絵から場面の様子や登場人物について、想像しながら読んでいる。</p> <p>【思・判・表】(ワークシート, 発言)</p>
	まとめ・創造・表現 実行 ふりかえり	<p>自分が選んだ本の紹介カードを作成する。</p> <p>ペアの6年生に読書郵便として紹介カードを届け、読んだ感想を返事として受け取る。</p> <p>(2)</p>	

5 本時の展開 (7/13)

(1) 本時の目標

登場人物の行動や会話、挿絵から、場面の様子や登場人物の気持ちを考えることを通して、第5場面の好きなところを見付けることができる。【思・判・表】

(2) 観点別評価規準

スイミーと小さな魚の気持ちを、会話や行動から読み取っている。【思・判・表】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
1 本時のめあてを確認する。	<p>○ 第5場面までのスイミーの行動や気持ちをそれぞれの場面ごとでまとめて掲示し、視覚的に前時までの復習ができるようにする。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">5ばめんの すきなところを みつけよう。</p>	
2 本時の見通しをもち、教材文を音読する。	<p>○ 第5場面を一回目は全員で音読、二回目、三回目はペアで一人ずつ音読を繰り返し行うことで、スイミーや小さな魚の兄弟たちの様子や気持ちを想像して読めるようにする。</p>	
3 スイミーや小さな魚の行動や気持ちを読み取る。	<p>◆ ワークシートと板書を揃えて書くことで、第5場面の流れが視覚的に分かるようにする。</p> <p>○ 「いわかぜ」や「そっくり」という語句の意味を確認し、挿絵からも第5場面の様子を想像できるようにする。</p> <p>○ スイミーや小さな魚の気持ちを読み取るために、スイミーが何と言ったか会話文に付け加えさせる。</p> <p>○ 気持ちを考える際、「たのしい」「かわいい」という抽象的な表現のみにならないように、「きもちをあらわすことば」を活用しながら考えていく。</p> <p>○ ペアでスイミーと兄弟たちの様子や気持ちなどの意見を交換させ、自分の考えを声に出して伝えることで考えを整理させ、全体交流につなげられるようにする。</p> <p>○ スイミーがなぜ「出てこいよ」と兄弟たちに呼びかけているのかを考えさせることで、前場面に出てきた素晴らしい物や面白い物をみんなに見せたいというスイミーの気持ちが読み取れるようにする。</p>	<p>スイミーと小さな魚の気持ちを、会話や行動から読み取っている。</p> <p>【思・判・表】(ワークシート, 発言)</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>一人で寂しかったけど、仲間を見つけて嬉しいな。 一緒に遊びたいなあ。</p> </div>

<p>4 スイミーが懸命に考えている様子を読み取る。</p> <p>5 第5場面の好きなどころを書く。</p> <p>6 振り返りをする。</p>	<p>○ 兄弟たちが岩陰から出てこない理由、そしてその理由に対してスイミーはどう思ったのかを考えさせることで、「外に出るのは怖い気持ちも分かるけど、出てこないと素晴らしい物に出会えないのに」というスイミーの葛藤する様子を読み取れるようにする。</p> <p>○ 「いろいろかんがえた」の文では、どれぐらい考えたのか、「うんとかんがえた」の文では、どのように考えたのかを区別して考えられるように、動作化を取り入れながら読み取らせる。</p> <p>○ 自分の経験を踏まえながら第5場面の好きなどころを書く。</p> <p>○ 登場人物の気持ちを考えることができたか、友達に自分の意見を話すことができたか、友達の発表を聞くことができたかどうかを評価し、感想を書く。</p> <p>○ 第5場面を音読することで本時の振り返りをする。</p>	<p>外に出てきたら素晴らしい物があるから一緒に見に行こうよ。 でも、またまぐろがいるかもしれないから出たくないよ。 怖い気持ちは分かるけど、外に出たらおもしろいものがたくさんあるよ。</p> <p>たくさん考えたと思うよ。 黒い大きい魚に勝たないといけないからいっぱい考えたと思うよ。 どうしたら兄弟たちが外に出てきてくれるのか考えたと思うよ。</p> <p>スイミーが小さな魚の兄弟に「出てこいよ」と誘ったところが好きです。自分だったら誘う勇気がないけど、スイミーは勇気を出していたのすごいいと思ったからです。</p>
---	---	---

スイミーがたくさん考えるところが好きです。兄弟たちが外に出てくれるようにいっぱい考えてあげるスイミーは優しいと思ったからです。

昔話のおもしろさ発見！伝えたいな 2年「かさこじぞう」

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力

1 単元について

- 本単元は、次期小学校学習指導要領第1学年及び第2学年の内容「C 読むこと」に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

- (1) エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。
カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。

(1) 単元観

本単元では、「誰が(何が)」「どうなった」のか、展開のおもしろさを考えながら読むことを学習し、いろいろな昔話を読み、自分が見つけた昔話のおもしろさをまとめて伝えることをねらいとする。本単元では、「かさこじぞう」をきっかけにいろいろな昔話を読み、好きなお話を選んで、カードに書いて紹介する言語活動を設定した。自分が好きな昔話を選んでおもしろさを書いて紹介するために、物語の展開や変化によるおもしろさ、人物の人物のおもしろさ、昔話の語り口や表現のおもしろさを読み取っていく力が必要となる。また、いくつかの昔話を読み、友達に紹介する本を選ぶことを通して、主体的に読書の幅を広げていくことができると考える。

本教材「かさこじぞう」は、時と場所によって場面が分けられ、じいさまの行動を中心に読むことができる物語である。始めは、貧乏でお正月に餅の用意もできないじいさまとばあさまが、じぞうさまにかさをかぶせるという優しさによって贈り物を授かり、よい正月を迎えることができたという話である。また、昔話特有の言葉や表現による語り口も楽しめる。昔話の典型にも近く、他の昔話を読む活動にも展開しやすい教材であるといえる。

そこで、本単元の学習では、図書室であまり読まれていない昔話の本を、全校児童が昔話はおもしろそうだから読んでみたいと思えるように工夫して紹介カードを児童に考えさせながら作り、主体的に学ばせたい。

(2) 児童観

学力調査等の実態

1学期には、「お手紙」の学習を通して、場面ごとに人物の様子や気持ちを押さえながら読む学習を行った結果、児童は、叙述を頼りに場面ごとの人物の様子や気持ちを音読に生かすことができた。アンケートで読書が好きと答えた児童は95%で、昔話が好きと答えた児童は86%だった。図書室での本の貸し出しの様子を見ても、昔話を手に取る児童は少ない。「発想がおもしろい」、「昔の人の生活がわかる」「おにが負ける」といったおもしろさを感じている児童もいれば、「こわい話がある」「わらえない」「おじいさんおばあさんが出てくるところ」等、おもしろさを感じていない児童がいる。昔話のおもしろさを紹介する経験は少なく、おもしろさを捉えさせる必要があると感じる。

課題発見・解決学習の実態

本学級の児童は、「国語科の時間が好き」と肯定的に答えている。お話を讀んだり、いろいろなことが分かったりすることを好きな理由に挙げている。1学期には、1年生に紙芝居で教材文「お手紙」を伝えようという課題のもと、登場人物の気持ちを考え音読を工夫する学習を行った。登場人物の気持ちを音読で表現する方法を考え、紙芝居に生かしながら練習に意欲的に取り組んだ。実際に1年生の前で紙芝居を発表し、1年生が喜んでくれたことに自信を持った児童も多い。しかし、音読など練習したことを発表することはできても、自分の考えを発表するのが苦手な児童がいる。

(3) 指導観

「かさこじぞう」のおもしろさを紹介する活動を通して、だれが出てきて、どうなったからおもしろいという、物語の展開を読み取る力を育成する。おもしろさの視点は、読み取りを進めていく中で、「話の展開」「人物の人物」「昔話特有の言い方や言葉」ということに注目すればよいことに気付かせていきたい。また、「かさこじぞう」だけでなく、他の昔話でもおもしろさを見つけ、主体的に紹介できるようにする。おもしろさを自分の解釈や理由を加えて友達に紹介する活動を通して、読書の楽しさを実感させ、本単元で育成しようとする資質・能力を育てていきたい。また、昔話のおもしろさをペアやグループで伝え合うなど、友達と主体的に対話をし、感じ方を比較しながら、個々の思考を深めていきたい。

全校児童の図書の本の貸し出しの様子を児童に知らせ、昔話を読んでいる児童が少ないことから、もっと昔話のおもしろさを伝えてみんなに読んでもらおうという課題を発見させたい。そのために何ができるかを考え、昔話のコーナーを作って、昔話のおもしろさを紹介カードに書いて伝えればよいことに気付かせたい。場面ごとに場面の様子を読み取らせたり、昔話のおもしろさを見付ける視点をみんなで考えたりすることにより、主体的に並行読書に取り組めるようにする。1学期には、「お手紙」の紙芝居を1年生に発表する経験をしており、学習したことを他の学年に伝える楽しさを知っているのので、「全校児童に昔話のおもしろさを伝えたい」とそれぞれが児童が見通しを持って、主体的に学習活動に参加することができると思う。

(4) 単元の目標

- 昔話を読み、昔話特有の言い方や言葉に親しむ。 (知識及び技能)
○ 昔話を読んで、昔話のおもしろさを見つけ、カードに書いて伝え合うことができる。 (思考力、判断力、表現力等)
○ 昔話のおもしろさを見つけ、友達に紹介しようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)

2 単元の評価規準

観点	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	○ 昔話を読み, 昔話特有の言い方や言葉の面白さを見付けている。	○ 昔話を読んで, 昔話のおもしろさを見付け, カードに書いて伝えている。	○ 昔話を進んで読み, おもしろさを見付け, 友達に紹介しようとしている。

3 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本単元において, 昔話のおもしろさを伝えるという目的を設定し, 教材文について話し合い, 場面ごとに想像を広げて読むことを通して, 叙述を手がかりに大まかな展開を捉え, 人物の人柄や行動, 昔話特有の語り口や表現のおもしろさを見付け伝えるための思考力・表現力(スキル)を育成することができると考える。

4 指導計画(全14時間)

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)
0	学年の本棚に昔話のコーナーを作っておき, 昔話の学習の意欲を高める。		
一	課題の設定 全文を読み, 昔話のおもしろさを伝える紹介カードを書くという見通しをもたせる。 (1)	全校のみんなに昔話をもっと読んでもらいたいな。昔話の面白さが見つけられるように学習しよう。 【本質的な問い】 昔話のおもしろさはどういうところだろう。	「かさこじぞう」の読み聞かせを聞き, 昔話への興味や関心を持ち, 昔話のおもしろさを伝える紹介カードを書こうとしている。【態度】(行動観察)
二	情報の収集 整理・分析 挿絵を並び替え, 5つの場面を確かめる。(1) 全文を読み, 初発で感じたおもしろさを話し合う。(2) 第一場面の人物の気持ちや行動について話し合い, おもしろさを読み取る。(1) 第二場面の人物の気持ちや行動について話し合い, おもしろさを読み取る。(1) 第三場面の人物の気持ちや行動について話し合い, おもしろさを読み取る。(1) 第四場面の人物の気持ちや行動について話し合い, おもしろさを読み取る。(1) 第五場面の人物の気持ちや行動について話し合い, おもしろさを読み取る。(1, 本時9/14)	いろいろな昔話を読んで, 全校に紹介したい昔話を見付ける。(並行読書) 挿絵や「時」「場所」を手掛かりに, 5つの場面に分けることができそう。お手紙も5つの場面で登場人物の気持ちを考えながら読んだ。 みんなの発表を聞いていたら, 「かさこじぞう」はおもしろいところがたくさんありそうだな。 何もないのに, すげでかさをこさえて, 売りに行こうとするところがおもしろいな。「ござらっしゃる」という言い方がおもしろいな。 かがさが売れなくて, ばあさまががっかりするじゃろうというところは, おじいさんが優しい人だとわかるな。 売り物のかさを吹雪の中のおじぞうさまにかぶせてあげるなんて優しいな。しかも, 一つかさが足りないのよ, 自分がかぶっていた手ぬぐいまでかぶせているよ。 かさをかぶせてきたおじいさんに, いやな顔ひとつしないおばあさんも優しいな。二人でもちつきのまねごとをするのがおもしろいよ。 優しい二人におじぞうさまが正月のものをたくさんもってきてくれたところがおもしろいね。	挿絵を並び替え, 場面分けをしている。【態度】(ノート) 昔話のおもしろさは, 仲間わけができそうだと気付く。【知・技】(ノート, 発言) じいさまとばあさまの暮らしぶりや二人の気持ちを読み取り, 話の展開, 人物の人柄, 言い方のおもしろさを見付けることができる。【思・判・表】(ノート・発言) にぎわう大年の市の様子やかさを売るじいさまの気持ちを読み取り, 話の展開, 人物の人柄, 言い方のおもしろさを見付けることができる。【思・判・表】(ノート・発言) じいさまのじぞうさまに対する言動や家に向かうじいさまの気持ちを読み取り, 話の展開, 人物の人柄, 言い方のおもしろさを見付けることができる。【思・判・表】(ノート・発言) 家の中のじいさまとばあさまの様子や気持ちを読み取り, 話の展開, 人物の人柄, 言い方のおもしろさを見付けることができる。【思・判・表】(ノート・発言) 真夜中の出来事の様子とそのときのじいさまとばあさまの気持ちを読み取り, 話の展開, 人物の人柄, 言い方のおもしろさを見付けることができる。【思・判・表】(ノート・発言)
三	まとめ・創造・表現 人物の行動や変化を中心に, 「かさこじぞう」のとおきのおもしろさを紹介カードに書く。(2) 実行 ふりかえり 自分が読んだ昔話のおもしろいところを紹介カードに書く。昔話コーナーを作り, 振り返りを行う。(3)	昔話のおもしろさは, 「話の展開」「人物の人柄」「言い方」に分けることができそうだな。 自分のお気に入りの昔話はどんなところがおもしろいかな。おもしろいところを全校児童に伝わるように書いて伝えるよ。	「かさこじぞう」を読んで, 自分が感じたおもしろさとその理由をカードに書いている。【思・判・表】(ノート・発言) 「かさこじぞう」と同じように, 昔話のおもしろさを見つけ, みんなが読んでみたくなるような紹介カードを工夫して作る。【思・判・表】【態度】(行動観察)

5 本時の展開 (9/14)

(1) 本時の目標

じぞうさまがやってきたときのじいさまとばあさまの様子や気持ちを読み取り、おもしろさを見つけることができる。【思・判・表】

(2) 観点別評価規準

昔話を読んで、昔話のおもしろさを見つけている。【思・判・表】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
1 本時のめあてを確認する。	○ 5場面を音読し、めあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">5場面のおもしろいところを見つけて伝えよう。</div>	
2 5場面の登場人物の行動や様子、気持ちを大まかに確認する。	○ 登場人物の行動や様子を、短冊を使って順番に並べ、その時の気持ちを想像させ、読みを深める。 「どうしてじぞうさまは、お正月の品物をおじいさんとおばあさんのところに届けたのだと思いますか。」と問い、じいさまとばあさまの優しい行動や言動、そのことに対して起きた出来事を全体で確認する。	自分も寒いのに、売り物のかさをじぞうさまにかぶせたから、じぞうさまがやさしいじいさまに感謝して、買えなかった正月のものをとどけてくれたんじゃないかな。
3 昔話のおもしろさの視点をもとに、おもしろいところを見つける。	○ 今までの学習の流れを思い出しながら、5場面のおもしろさを自分の解釈を加えながら見付ける。 ◆ 5場面の面白さを自分なりに見付けることができない児童がいたら、前の場面で見付けたおもしろさを参考に視点を与える。	自分と同じところをおもしろいと思っている人もいるけど、ちがうところを見付けている人もいるんだな。
4 5場面のおもしろさについて話し合う。	○ ペアの人と自分の考えを比べながら、5場面の面白さを話し合いによって深める。 ○ ペアで出し合ったことを全体で発表し、「話の展開」「人物の人柄」「言い方や言葉」など分類しながら、板書する。 <話がどうなっていくか。> ・ かさと手ぬぐいをかぶせたじぞうさまが、そりを引いてお正月に必要なものを持ってきてくれた。 ・ 優しくするといいことがあるんだな。 ・ おじぞうさまが、おじいさんだけでなく、おばあさんもさがしているところがいいな。 <人物の人柄がら> ・ 真夜中に聞こえてきたその音を、長者どんのわかいしゅと思っているところが、よくばっていないな。 <言い方や言葉> ・ じよいやさ、じよいやさとそりを引く掛け声。 ・ ずっさん、ずっさんとおろした音がおもしろいな。 ・ よいお正月をむかえることができましたとという終わり方がおもしろいな。	○ 「かさこじぞう」を読んで、自分が感じた大きくかわったところや人物、言い方や言葉のおもしろさを見つけている。【思・判・表】(ノート、発言) 昔話のおもしろさは「話の展開」「人物の人柄」「昔話の言い方や言葉」で見つけることができそうだな。自分が読んだ本でも見つけてみよう。
5 まとめと振り返りをする。	○ 児童の言葉を使って、話の展開の最後のおもしろさについてまとめをする。 ○ 自分がこれまで読んできた昔話にも本時で見付けたようなおもしろさがないか振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">かさこじぞうは最後に優しくした人が幸せになるところがおもしろい。</div>	花さかじいさんもいいことをしてしあわせになっていたな。 授業の始めは、5場面のおもしろいところを見つけることができなかったけれど、友達と話をしていると面白いところがたくさん見つかったよ。

行列のできる土堂小図書館への道！～悲しみの中の“魅力”とは？～

4年「こんぎつね」

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力

1 単元について

- 本単元は、次期小学校学習指導要領第3学年及び第4学年の内容「C 読むこと」に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

- (1) イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。
- エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること。

(1) 単元観

本単元は、司書の先生からの依頼を解決するために、悲しい結末の本の魅力を書いたリーフレットを作成する活動を通して、場面の移り変わりに気を付けて、人物同士の関係性や心情の変化を想像して読む力を身に付けることをねらいとしている。本教材は、中心人物であるごんと兵十との関係の変容を描いた物語である。5場面まではごんの視点で書かれているため、ごんに同化しながら読み進めることができ、心情の変化をつかみやすい教材である。ほんのいたずらで兵十のうなぎを逃がしてしまったことがきっかけとなり、ひたむきに償いをするごんの行動を読み取りながら、ごんの心情の変化を想像する力を付けることができると考える。視点が変わる6場面では、ごんが兵十に撃たれてしまうという結末に、「通じ合えない悲しさ」「せつかく通じ合えたのにこんな最期になってしまふ辛さ」等の読後感を味わわせることができる。また、ごんの心情と情景描写や色彩語とのつながり等、様々な表現に触れ、物語を味わう力を付けるのにも適した教材である。

そして、本単元を設定することで、中学年の「読むこと」の目標に迫りながら、高学年の内容「C読むこと」(1)「イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。」「エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること」を見通した指導を行うことができると考え、本単元を設定した。

(2) 児童観

学力調査等の実態

本学級の児童は、22名全員が読書を好きと答えている。人気が高いのは、胸が高鳴ったり希望を抱いたりするような冒険物や探偵物である。1学期単元テストにおいて、登場人物の心情の変化の理由を問う設問の正答率は81%だった。人物同士の関係性を捉えたり、行動や会話、情景の叙述から心情を想像したりすることに課題があると考えられる。

課題発見・解決学習の実態

平成29年度「基礎・基本」定着状況調査の児童生徒質問紙の内容を実施したところ、課題について意欲的に取組もうとする児童は95%で、主体的に学ぶ姿勢の素地はできていると考える。しかし、課題に取り組む際に既習内容を生かすことができている児童は教師評価で45%である。また、「学習の振り返りをする時には、『どこまで分かったか』、『学習の方法でうまくいったことや失敗したことの理由』を考えています。」の質問に、よく当てはまると答えた児童は40%であった。これらのことから、物語を味わうための必要な読みの力の意識化とメタ認知能力の育成が必要である。

(3) 指導観

読書が好きという思いは継続しつつ、悲しみや切なさを読後感にもつ作品を肯定的に評価できるような姿を目指したい。そのために、登場人物の心情の変化について、ごんと兵十の関係性を折れ線グラフで表したり、行動や会話、情景に着目して考えさせたりして、読む力を付けていきたい。

課題発見の場として、まず過去3年間で小学生が1ヶ月に読む冊数が年々減少している(学研教育総合研究所より)という調査結果と、児童自身の読書生活の振り返りを基に、読書量に関心をもたせる。そこへ、学校図書館司書からの「悲しい話は読みたくないという児童が多くて困っている」という依頼を重ねて提示し、言語活動と関連させる。そして、課題解決に向けて既習内容の何が使えるのか、新たにどんなことを考えなければならないのか見通しをもたせ、学習計画を立てる。読み取りの場面では、友達の考えの、特に相違点に関心をもち、自分の考えを見直そうとする対話を目指す。初発で感じた、ごんの死をもってしか通じ合えなかったごんと兵十の境涯に、言葉にならない切なさや悲しみを、「なぜこんな悲しい結末になってしまうのか。」という思いを原動力にして学習を進める。また、振り返りの視点を教室掲示しておくことで、他教科の学習でもメタ認知能力の手立てとして活用できると考える。

(4) 単元の目標

- 情景描写、色彩語等の表現方法を理解する。(知識及び技能)
- 中心となる人物と他の人物との関わりをとらえ、それぞれの気持ちの変化を想像して読むことができる。(思考力、判断力、表現力等)
- 本の魅力を見付け、課題解決のためにリーフレットを作成しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

2 単元の評価規準

観点	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	○情景描写, 色彩語等の表現方法を理解している。	○中心となる人物と他の人物との関わりをとらえ, それぞれの気持ちの変化を想像して読んでいる。	○本の魅力を見付け, 課題解決のためにリーフレットを作成しようとしている。

3 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本単元では, 初読で感じた「なぜこんな悲しい結末になってしまうのか。」という思いをもとに学習を進める。登場人物の心情の変化について, 情景や行動の叙述に着目して読むことで, これまで少し遠ざけてきた悲しい結末の本の魅力を感じ, 読みの力を身に付けることができる。これらのことを通して, 思考力・表現力(スキル)を育成することができると思う。

4 指導計画 (全13時間)

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)
0	図書の時間に, 司書の先生から「悲しい話や辛い話は読みたいくないという児童が多い」という話を聞く。		
一	<p>課題の設定</p> <p>司書の先生の話と, 小学生が1ヶ月に読む冊数の推移(学研教育総合研究所による), 自分たちの読書実態を関連付けて, 単元の学習課題を設定し, 学習の見通しをもつ。(1)</p>	<p>1ヶ月に本を読まない小学生が増えているんだな。僕もあまり読んでいないな。司書の先生がおっしゃる通り, 文学作品の悲しい話はあまり人気がないな。</p>	<p>読書に関する調査結果と自分たちの実態の共通点を見出し, 課題解決に向けて取り組もうとしている。</p> <p>【態度】(ノート, 行動観察)</p>
	<p>【本質的な問い】行列ができる図書室にするためには, どうすれば良いのだろう。 →悲しい結末の本の魅力を見付けてリーフレットにまとめて, 図書室で紹介しよう。</p>		
	<p>教材文を読み, 初発の感想と結末について自分の考えをもつ。(1) 関連作品と教材文を読み比べ, 共通点を見付ける。(1)</p>	<p>どれも, 最後が悲しい話だな。どうしてこんな悲しい結末になってしまうのだろう。</p>	<p>結末について, 自分の感想をもっている。</p> <p>【思・判・表】(ノート) 結末や中心人物の人物像について, 比較して読んでいる。</p> <p>【思・判・表】(ノート, 行動観察)</p>
二	<p>情報の収集 整理・分析</p> <p>物語の設定を捉える。(1) ごんと兵十の人物像を捉える。(1) 対比や色彩語に着目させ, 場面の様子やごんの心情を捉える。(1) 情景の変化から, 人物の心情の変化を考える。(1) ごんと兵十の位置関係に着目してごんの心情を捉える。(1) 視点の転換から兵十の心情の変化を考える。(1) 悲しい結末になった理由を, 他教材の結末と比較して考える。(1, 本時10/13)</p>	<p>ごんは独りぼっちで寂しいから, いたずらをしていたんだな。 色にも, 意味が込められているんだな。 景色でごんの気持ちが分かったり, 色に意味が込められたりしているんだな。 視点が変わることで, 兵十の気持ちも分かって, より悲しい気持ちになるな。 じんと同じようにごんも死んでしまったけれど, 兵十に思いが伝わって嬉しかったんだな。</p>	<p>既習内容を生かして物語の設定を読み取っている。【思・判・表】(ノート, 行動観察) 叙述から, ごんと兵十の境遇や行動を読み取っている。 【思・判・表】(ノート, 行動観察) 色彩語の意味を理解している。 【知・技】(ノート) 情景描写からごんの心情が読み取れることを理解している。 【知・技】(ノート) ごんと兵十の位置関係に着目して, ごんの心情を読み取っている。 【思・判・表】(ノート, 行動観察) ごんから兵十に視点が変わったことに気づき, その効果を理解している。 【知・技】(ノート) 「サーカスのライオン」の結末と比較し, 悲しみの中の良さを見付けている。 【思・判・表】(ノート)</p>
三	<p>まとめ・創造・表現</p> <p>自分の選んだ本の紹介リーフレットを書く。(2) 付いた力と学び方を振り返る。(1)</p>	<p>「きつねのおきゃくさま」のきつねも, 自分を慕ってくれた動物たちのためにおおかみと戦ったことに満足していたんだろうな。</p>	<p>自分の選んだ本の悲しみの中の良さを見付けている。 【思・判・表】(ノート) どんな力が身に付いたのかを振り返り, 次単元でも生かせるように自分の言葉で学びをまとめている。 【思・判・表】(ノート)</p>
課外	司書の先生から, 紹介した本の貸し出しの様子や, 図書室での反応を聞く。		

5 本時の展開 (10/13 時間)

(1) 本時の目標

「ごんぎつね」と「サーカスのライオン」の結末の共通点について話し合うことを通して、悲しい結末の魅力について考えることができる。【思・判・表】

(2) 観点別評価規準

2つの作品の共通点から、悲しい結末の魅力を考えている。【思・判・表】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
1 本時のめあてを確認する。	○ 「ごんぎつね」の初発の感想を数名紹介し、多くの児童が結末について悲しいと感じていたことを確認し、その理由について問う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">悲しい結末の中には、悲しいことしかないのだろうか。</div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; width: fit-content;">似たもの同士で優しい二人なのに、どうしてこんな悲しい結末になるのはどうしてかな。</div>
2 ごんと兵十の関係を考える。	○ これまでの学習を振り返り、ごんと兵十の共通点を問うことで、似たような境遇にあることを振り返らせる。 ○ ごんのいたずらが原因であるという意見が出た際には、「ごんだけが悪いんだね」と揺さぶりをかけることで、兵十の側にも目を向けさせる。	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; width: fit-content;">兵十が神様のしわざだと勘違いしたり、ごんをすぐ銃で撃ったりしたところがいけなかった。ごんは栗を持ってきたのに、またいたずらをしに来たと思ひ込んだ。</div>
3 「サーカスのライオン」の結末を比較し、悲しみの中にある魅力を見付ける。	○ 「サーカスのライオン」の教材文を印刷したものを配布し、内容を想起しやすくしたり、人物の行動や様子に着目したりできるようにする。 ○ ごんから兵十への気持ちと、じんざから男の子への思いを並列に板書することで、人物関係を比較しやすくする。 ◆ 2つの教材の結末の部分の部分を黒板に提示し、叙述に着目しやすくする。	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; width: fit-content;">ごんもじんざも、兵十や男の子のために優しくしていたところが似ているな。</div>
4 まとめと振り返りをする。	○ 「サーカスのライオン」の結末部分に着目させ、①じんざの願いが届いたこと②観客たちもじんざの勇気と行動に気付いていたことの2点をおさえた上で、「ごんぎつね」と比較する。 ○ めあてを振り返り、自分の言葉でまとめさせる。 ○ 新美南吉原作の「ごんぎつね」の結末の部分を示し、教材文との違いを把握させる。(下線部は着目させる言葉) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">『おや—————。』兵十は権狐に眼を落としました。 『権、お前だったのか……。いつも栗をくれたのは——。』 権狐は、ぐったりになったまま、うれしくなりました。』</div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; width: fit-content;">始めはただ悲しい話しだと思っていただけで、兵十に思いが伝わったことや、誤解がとけたことが伝わって、ごんは満足して死んでいった話だと思いました。</div>
○ 原文では「うれしくなりました。」とあるのに、どうして教材文に無くなっているのか問う。暗喩的な表現になったことで、叙述をもとに想像したり様々な意見が出たりしたことを振り返る。 ○ ①分かったこと②得たこと③感じたことを振り返ることで、身に付いた力の自覚や学習意欲につなげられるようにする。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; width: fit-content; margin-top: 10px;">最初は、ただ悲しい話としか思っていませんでした。けれど、「サーカスのライオン」の結末と比べることで、じんざと同じように、ごんも満足して死んでいったということが分かり、ごんの気持ちが伝わって良かったなと思いました。でも、やっぱりこんな結末になってしまうことは、悲しくて切ない気持ちになります。思いが伝わらないというのは、辛いなと思いました。</div>		<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; width: fit-content;">悲しい結末なのは変わらないけど、ごんの思いが兵十に通じたことや、村人たちにごんの話が伝わっていったというところは、少し安心しました。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; width: fit-content; margin-top: 10px;">○ 2つの作品の共通点から、悲しい結末の魅力を考えている。 【思・判・表】(ノート、行動観察)</div>

「ビブリオバトル! 作品の魅力を伝え合おう」

5年「大造じいさんとがん」

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力

1 単元について

- 本単元は、次期小学校学習指導要領第5学年及び第6学年の内容「C 読むこと」に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

- (1) イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。
エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。

(1) 単元観

本単元は、描写を捉えて想像しながら文章を読み取ること、優れた叙述について自分の考えをまとめることをねらいとしている。人物の行動や会話、表情、心内語、情景描写など、人物の心情や相互関係を読み解くために必要な読みの視点を意識させながら読解を進めていく。

本教材は、狩人「大造じいさん」とがんの頭領「残雪」の四年にわたる戦いを通して、いまいましく思いながらも「たかが鳥」と思っていた残雪への見方が「英ゆう」「えらぶつ」と賞賛するまでに変化していく様子を読み取ることができる。大造じいさんの心情も優れた情景描写などから想像することができ想像を豊かに広げていくことのできる教材である。

また、本教材が初めて教科書に搭載されたのは昭和26年で、約半世紀以上もの間学ばれ続けている教材である。なぜこんなに長く搭載されているのかを考えながら、教材文の魅力を積極的に見付けることができるようにしたい。そのためにも、大造じいさんの行動を表す描写や大造じいさんの心理を描きだす優れた自然描写に着目させて、想像力や思考力を働かせて読み取らせていく。このような大造じいさんの練った作戦の展開の面白さや、優れた叙述表現、主題に関わる箇所などに着目させ、自分なりに教材の魅力を発見しながら、書評にまとめていくことができるように単元を設定した。

(2) 児童観

学力調査等の実態

今年度の「基礎・基本」定着状況調査を実施した結果、「読むこと」の正答率は73.0%であった。物語の面白さを感じ取りながら読むことはできるものの叙述を基に、登場人物の気持ちを想像しながら読み進めることに苦手意識を感じている児童も多く、分析的に読んだり、根拠付けて読んだりすることに課題がある。

課題発見・解決学習の実態

本学級の児童は、物語を読んだ後、どのような気持ちになったのかなど意見を積極的に交流することができるが、なぜそう思ったのか、どの叙述からそのように感じたのかについて表現することが苦手な児童もいる。

また、読書が好きと答えた児童の割合は74%であった。読書をする際に気を付けていることとして、「登場人物を確認すること」や「どんな事件が起こったのかを把握すること」などが挙げられた。

大きな出来事や変化などの大まかなあらすじは読み取ることができるものの、小さな心情の変化や情景の変化などに気を付けて読み進めることはまだ不十分である。

(3) 指導観

長年搭載されている教材としての魅力を感じ、教材文の良さや、想像をふくらませながら読むことができるように指導する。そのために、人物の行動や会話、表情、心内語、情景描写など、人物の心情や相互関係などの読みの視点を決定して読み進めていくことができるよう掲示をしておく。
また、叙述を基に自分の考えが説明できるように、教材に振り返りながら読み進めていく。

本単元の課題発見・解決学習の冒頭では、5学年でならう物語3作品を使って、ビブリオバトルを行うことを知らせ、意欲を高めさせる。また、初発の感想から単におもしろかっただけではなく、この教材がなぜどんなふうにおもしろかったのかを交流させていくことで、教材文を深く読もうとする態度を育てる。

書評を書く際は、漠然とした印象のみだけでなく、情景描写や会話文、心内語、主題についてなどの読みの視点を意識させて書くように指導する。そのためにも、どこに着目して教材文を読むか単元前に話し合い、各場面で確認をしながら指導していく。教材文を精読し、友達との対話の中で、教材を多面的に詳細に分析することを目指す。友達との読みの違いから、自分の感じた魅力を書評に表現できるように指導する。

(4) 単元の目標 (めざす児童の姿)

- 教材文を通して、比喻や反復などの表現の工夫に気付き、書評を書く際に活用する。(知識及び技能)
- 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉え、人物の行動や会話、心内語、情景の叙述に着目し、人物の心情の変化や変化の要因を読むことができる。(思考力、判断力、表現力等)
- 興味を持って教材文を読み、友達との交流の中で、人物の心情の変化を捉えようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

2 単元の評価規準

観点	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	主体的に学習に取り組む態度
教科	教材文を通して, 比喩や反復などの表現の工夫に気づき, 書評を書く際に活用している。	登場人物の相互関係や心情などについて, 描写を基に捉え, 人物の行動や会話, 心内語, 情景の叙述に着目し, 人物の心情の変化や変化の要因を読んでいる。	興味を持って教材文を読み, 友達との交流の中で, 人物の心情の変化を捉えている。

3 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本単元では, ビブリオバトルを行い, チャンプ本になるために作品の魅力が伝えられる書評を書くことを目標に学習を進める。書評を書くために教材文の魅力はどのようなところが挙げられるのか, またどのように表現するとその魅力がより伝わるのかなどの目的に応じ, 伝達の効果を考えて情報を整理・構成し, 自分の思いや考えを適切な言葉でまとめていく思考力・表現力(スキル)を育成することができると思える。

4 指導計画(全9時間)

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準(評価方法)
0	第5学年で扱う物語3作品を読み, 自分のおすすめの作品でビブリオバトルを行うことを知り, 物語の魅力を実分析的に読み進めていくことが必要であることを知る。		
一	課題の設定 長年教科書に掲載されている文章であるということから, 椋鳩十を知り, 学習課題を設定する。 初発の感想をもつ。(1) 感想を基に, 何について書評を書くか確認を行い, 読みの視点をもたせ, 学習計画を作成する。(1)	それぞれの課題や疑問を解決するためにはどんなことを学べば良いだろう。 大造じいさんが残雪に対する見方が変わっているね。	初発の感想を基に, 学習の計画を立てようとしている。 【態度】(ノート) 学習計画を立て, 課題や疑問を解決していくための方法を考えようとしている。 【態度】(ノート)
【本質的な問い】 作品の魅力を捉えて, ビブリオバトルでチャンプ本を目指すにはどうすれば良いだろう。			
二	情報の収集 整理・分析 一場面を読み, 大造じいさんの釣り針の作戦について読み取る。(1) 二場面を読み, 大造じいさんのたにしの作戦について読み取る。(1) これまでの大造じいさんと残雪の関係についてまとめ, 三場面前半の作戦について読み取る。(1) 三場面後後半のはやぶさと残雪の死闘の場面を中心に読み, 大造じいさんの心情の変化や残雪に対する見方の変化を読み取る。(本時, 6/9) 四場面を読み, これまでと四場面の大造じいさんを比較し, 大造じいさんの言葉から, 残雪に対する大造じいさんの考えを読み取る。(1)	大造じいさんは, 残雪やがんのかしこさに, 驚いている様子が分かる。 一場面よりも作戦をよく練っているね。 大造じいさんはなぜそこまで残雪にこだわるのかな。 場面を追うごとに, 作戦が時間も手間もかかってくるね。それだけ, 残雪を手に入れたいんだろうね。 なぜ残雪に対する考え方が変わったのだろう。 「ただの鳥に対してしているような気がしませんでした。」とはどういうことだろう。 大造じいさんが残雪に対して, 「えらぶつ」という言葉を使っているから, 考え方が変わったことが分かる。	一場面を読ませ, 大造じいさんと残雪についての人物設定と釣り針の作戦の内容について読み取っている。 【思・判・表】(ノート) 一場面での大造じいさんの気持ちと比較させながら, 気持ちの変化を読み取っている。 【思・判・表】(ノート) 叙述を基に, 大造じいさんの気持ちの変化に気づき, 理由を考えている。 【思・判・表】(ノート) 情景を表す叙述や行動などから, 大造じいさんから残雪への思いの高まりや転換点を見付けている。 【思・判・表】(ノート) 大造じいさんと残雪の関係を想像させ, その関係に対する自分の考えをまとめている。 【思・判・表】(ノート)
三	まとめ・創造・表現 実行 ふりかえり 教材文を用いて, 読みの視点を基に, 書評を作成する。(1) 完成した書評を推敲した後, 学年で交流する。(1)	情景描写と大造じいさんの様子がつながっていて, 場面の様子が分かりやすい。 この作品は, 場面の様子が映像のように頭に浮かんでくるのが魅力だね。	優れた叙述表現や場面ごとにおもしろかった所をまとめ, 評価している。 【思・判・表】(ノート) 教材文を通して, 比喩や反復などの表現の工夫に気づき, 自分の書評に活用している。 【知・技】(書評)
課外	3学期教材「注文の多い料理店」の読解を行った後, クラス→学年でビブリオバトルを行い, チャンプ本を決定し, そのチャンプ本を学校全体で5年が学習する物語文の魅力の一つとして紹介する。		

5 本時の展開 (6/9)

(1) 本時の目標

大造じいさんがなぜ残雪を討たなかったのかの理由を考える活動を通して、大造じいさんの残雪に対しての心情の変化を読み取ることができる。 【思・判・表】

(2) 観点別評価規準

情景を表す叙述や行動などから、大造じいさんから残雪への思いの高まりや転換点を見付けている。 【思・判・表】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
<p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <p>2 大造じいさんの残雪に対する変容前と変容後を比較する。</p>	<p>○ 大造じいさんが残雪との戦いに執念を燃やしていることを振り返らせる。</p> <p>◆ これまでの残雪に対する大造じいさんの見方を振り返ることができるように掲示しておく。</p> <p>○ 今年の作戦は、どのようなものであったか確認を行い、大造じいさんの残雪に勝ちたいという執念を感じさせる。</p> <p>○ 前時までに与えられた児童の発言から、情景描写に込められた大造じいさんの気持ちを考えさせる。</p> <p>○ 三場面を音読し、本時学習する箇所の確認を行うことで、本時の見通しをもたせる。</p> <p>○ クライマックスから、大造じいさんの気持ちの変化やそのきっかけなどを明確にさせ、残雪に対する見方がこれまでとは違うということに気付かせる。</p>	<p>「残雪め」から嫌な気持ちが読み取れる。</p> <p>「青くすんだ空」から、余裕も感じられる。</p>
<p>なぜ大造じいさんは残雪を討たなかったのだろう。</p>		
<p>3 情景描写から大造じいさんの心情や場面の様子を読み取る。</p> <p>4 大造じいさんはなぜ残雪を討たなかったのか考える。</p>	<p>○ 大造じいさんの心情が現れている箇所に線を引かせ、叙述を基に読み取ることができるようにする。</p> <p>◆ これまでの情景描写を参考に見付けることができるように、掲示しておく。</p> <p>○ 各場面における情景描写を抜き出し、そこから想像できる大造じいさんの気持ちを考え、ノートに書かせる。</p> <p>◆ 気持ちを考える際は、既習の大造じいさんの行動描写を参考に考えるように指示する。</p> <p>○ 残雪に対する大造じいさんの心情が変化したきっかけを読み取ることができるように、これまでの戦いを基に、残雪に対する考えが変容した場面を抜き出し掲示しておく。</p> <p>○ 大造じいさんの目的や残雪を討ち取りたいという気持ちがあるということをおさえた上で、なぜ残雪を討ち取らなかったのか考えさせる。その際、なぜそのように考えたのか、叙述や自分の考えを明確にしながらか説明させる。</p> <p>○ 自分だったら残雪を討つかどうかを考えさせ、教材文との対話を深めさせることで、自分の中での残雪や動物に対する気持ちの変容を感じ取らせるようにする。</p> <p>○ クライマックスから、大造じいさんが残雪に対する見方が変わったことを理解し、なぜこのように変わっていったのか読み取らせ、変化のきっかけに着目させる。</p> <p>○ 「ただの鳥に対してのような気がしませんでした。」とはどういうことなのか読み取らせることで、大造じいさんの変化を自分の言葉でまとめることができるようにする。</p>	<p>「東の空が真っ赤に燃えて」から戦闘態勢の様子を感じる。</p> <p>「冷え冷えするじゅう身」からも緊張感が分かるね。</p> <p>情景を表す叙述や行動などから、大造じいさんから残雪への思いの高まりや転換点を見付けている。</p>
<p>5 まとめとふりかえりを行う。</p> <p>6 次時の学習を確認する。</p>	<p>○ 自分だったら残雪を討つかどうかを考えさせ、教材文との対話を深めさせることで、自分の中での残雪や動物に対する気持ちの変容を感じ取らせるようにする。</p> <p>○ クライマックスから、大造じいさんが残雪に対する見方が変わったことを理解し、なぜこのように変わっていったのか読み取らせ、変化のきっかけに着目させる。</p> <p>○ 「ただの鳥に対してのような気がしませんでした。」とはどういうことなのか読み取らせることで、大造じいさんの変化を自分の言葉でまとめることができるようにする。</p> <p>○ 読み取ったことから、大造じいさんの気持ちについて新たに気付いたことや、三場面での魅力をノートにまとめ、ビブリオバトルで使うための書評に活用できるようにしておく。</p> <p>○ 学習計画を参考に、次時では何をすれば良いか確認をして、見通しをもたせておく。</p>	<p>【思・判・表】(ノート)</p> <p>残雪は、命がけで仲間を守っているから、大造じいさんは討たなかったのだろう。</p> <p>ただの鳥だと思っていたのに、いつのまにかライバルになっていた。</p> <p>あかつきの空に光って散りました。」から残雪とハヤブサの死闘の様子が、「すんだ空」からは、残雪が勇敢に仲間のために戦っている様子が読み取れました。このような必死な残雪の様子を見て、大造じいさんは、「ただの鳥ではない」と思い討たなかったのだろうと思いました。たいした知恵もっていないと、思い込んでいた残雪への見方が変わった様子や気持ちが分かりました。</p>

「ずをかいてかんがえよう！～たすのかな ひくのかな～」

1年 たすのかな ひくのかな

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力 主体性・積極性

1 単元について

- 本単元は、次期小学校学習指導要領第1学年の「A数と計算」の内容に基づき設定した。次期小学校学習指導要領には、以下のように示されている。

- A (2) 加法及び減法に関わる数学的活動を通して、その事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 加法及び減法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知ること。
- (イ) 加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。
- (ウ) 1位数と1位数との加法及びその逆の減法の計算が確実にできること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすること。

(1) 単元観

本単元では、加法及び減法が用いられる具体的な場面を式で表したり、式を読み取って図や具体物を用いて表したり、そのわけを説明したりする活動を通して、加法及び減法の演算決定の力を高めることをねらいとしている。

加法及び減法の問題で単元が構成されているため、問題を正確に読み取り、加法及び減法のどちらが適用できるのかを適切に判断することが必要になる。また、演算決定を行うだけでなく、その式になったわけを具体物进行操作する、図に表す、言葉で説明をすることを意図的に学習に取り入れることで、演算決定の力を高めることができる。また、順序数を含む加法や減法、求大・求小の問題にも取り組み、加法や減法の用いることのできる場面を次第に一般化して、加法や減法の意味を具体的に捉えさせる。集合数と順序数の違いを意識しながら、求めようとするものが何かをはっきりさせ、解決方法を考えさせていく。

(2) 児童観

学力調査等に関する実態

本学級の児童は、算数科の学習に意欲的に取り組む児童が多い。加法の計算は29人、減法の計算は26人が正確に問題を解くことができた。加法や減法を学習している単元中に行う文章問題は比較的正確に解くことができる。しかし、加法や減法が混在している問題を解くことには課題がある。特に、加法では増加の問題、減法では求差の問題に課題があることが分かった。

課題発見・解決学習の実態

1学期に行った「たしざん(1)」「ひきざん(1)」の単元では、問題場面をブロックで操作し、図に表し、立式をして答えを求めるといった活動を繰り返した。また、単元末にたし算やひき算の本を作成し、合併・増加・求残・求差の具体的な場面をイメージすることができるようになってきた。

問題場面を図に表し、立式をすることができる児童は加法(増加)は21人、減法(求差)は17人であった。加法・減法を分けずに問題に取り組ませることで、具体的な場面がイメージできにくくなっている。

(3) 指導観

加法・減法の問題を複数解いていく活動を取り入れることで、加法や減法の演算決定の力を高めていきたい。また、既習の集合数の加法や減法だけでなく、順序数での加法や減法を扱ったり、求大場面や求小場面を扱ったりして、加法や減法の意味理解を拡張することができるようにしていく。その際、1学期から作成している「けいさんデパート」も活用して、問題作りや友達の問題を解く活動を取り入れ、加法と減法の場面のイメージを広げたり、深めたりしていきたい。

これまでの加法や減法の単元でも行ってきたように、問題場面を立式に表すだけでなく、具体物进行操作したり、図に表したりしながら、加法や減法の意味理解を深めていきたい。本単元は、既習事項を活用して、演算決定の力を高めることをねらいとしているため、式と図を関連付けて説明する児童を育てていきたい。そのため、ペアトークを取り入れ、自分の考えを説明する時間を毎時間設定していきたい。また、自分の問題を解説する場面で、より分かりやすく説明できるように自分の解決プロセスを振り返る時間も設定していく。また、友達の説明の仕方の良さを交流することで、次への意欲へつなげていきたい。

(4) 単元の目標 (めざす児童の姿)

- 加法、減法の用いられる場面を理解し、立式して答えを求めることができる。(知識及び技能)
- 加法、減法が用いられる場面を、具体物や図などを用いて考え、演算決定をしている。(思考力、判断力、表現力等)
- 図や具体物などを用いて表すなどして、具体的な方法で演算を判断しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

2 単元の評価規準

観点	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	加法, 減法が用いられる場面を, 具体物や図などをもとにして, 立式して答えを求めている。 加法, 減法の用いられる場面を具体物や図などを用いて理解し, 順序数, 集合数に関連した加減法の計算の意味やその方法を理解している。	加法, 減法が用いられる場面を, 図や具体物などを用いて考え, 演算決定をしている。	問題場面を図や具体物などを用いて表すなどして, どの演算を用いればよいかを判断しようとしている。

3 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本単元において, 加法や減法の問題を図に表したり, 立式して説明したりする活動を繰り返し取り入れることで, 演算決定の力を高めていく。自分たちで問題を作ったり, 解き合ったりすることを通して, 主体性・積極性が身につくと考えられる。また, 加法や減法を図や式の意味を説明したり, 自分が作った問題の答えを解説したりする活動を通して, 思考力・表現力を育成できると考えられる。

4 指導計画 (全8時間)

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)
一	<p>課題の設定</p> <p>絵を見て, 加法や減法の問題をつくる。 (1)</p>	<p>どんな場面なのか想像すると, 問題をつくることができるね。</p>	<p>絵から, 加法や減法の問題作りに取り組もうとしている。 【態度】 (ワークシート)</p>
<p>【本質的な問い】 図をかいて考えると, たし算やひき算の問題が正しくとけるかな。</p>			
二	<p>情報の収集 整理・分析</p> <p>加法 (合併・増加), 減法 (求残・求差) のどちらを用いればよいかを考え, 問題を解く。 (1) 順序や集合を数量化して考える問題の場面を, 絵を見て考える。 (2)</p> <p>求大場面の文章題を読んで, 問題を解く。 (1)</p> <p>求小場面の文章題を読んで, 問題を解く。 (1) (本時6/8)</p> <p>同じ数ずつ分ける方法を考える。 (1)</p>	<p>図を描いて説明すると, よくわかるね。</p> <p>何番目の問題にも, たし算やひき算が使えるんだな。</p> <p>この問題も, たし算で解けるんだな。</p> <p>この問題も, ひき算で解けるんだな。</p> <p>同じ数ずつ分けることができたよ。</p>	<p>加法や減法の場面を具体物や図などを用いて考え, 演算決定している。 【思・判・表】 (ノート)</p> <p>加法や減法が用いられる場面を具体物や図などをもとにして, 立式して答えを求めている。 【知・技】 (ノート)</p> <p>求大場面の問題も, 具体物や図などを用いて考え, 演算決定をしている。 【思・判・表】 (ワークシート)</p> <p>求小場面の問題も, 具体物や図などを用いて考え, 演算決定をしている。 【思・判・表】 (ワークシート)</p> <p>具体物を操作した過程や結果を図や数などに整理している。 【思・判・表】 (ノート・操作)</p>
三	<p>まとめ・創造・表現</p> <p>友達が作った問題を解き合う。 (1)</p>	<p>図を描いて, 問題を解くと正しく解けるよ。</p>	<p>友達が作った問題を積極的に解こうとしている。 【態度】 (ワークシート)</p> <p>図などを用いて考え, 正確に問題を解いている。 【知・技】 (ワークシート)</p>

5 本時の展開 (6/8時間)

(1) 本時の目標

求小を求める減法の文章題を読み、問題場面を図に表して、式を考えることができる。

【思・判・表】

(2) 観点別評価規準

求小場面の文章題を読み、問題場面を図や式に表して考えている。

【思・判・表】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
1 問題に出合う。	<p>フラミンゴが12わいます。ダチョウは、フラミンゴより5わ少ないです。ダチョウは、なんわですか。</p> <p>○ 教室に、前時の求大問題の掲示をして、前時と比較しながら考えることができるようにする。</p>	<p>フラミンゴより5わすくないって、どうやってずをかくといいのかな。</p>
2 本時のめあてをつかむ。	<p>ずをかくて、どうやってもとめたらいいのかながえよう。</p>	
3 自力解決をする。	<p>○ 問題文をもう一度確認し、何を問われているのかを明確にして、自力解決の時間を設定する。</p> <p>◆ 問題場面をブロック操作でお話をさせることで、立式に結びつけるようにする。</p>	<p>たしざんか、ひきざんか、ずをかくて、かんがえてみよう。</p>
4 ペアで話し合う。	<p>○ どのような図をかいたのか説明し、図と式を関連付けて立式の説明をさせる。</p> <p>○ 隣の友達に話をする中で、自分の考えていることを頭の中で整理できるようにする。</p>	<p>ブロックをみて、ずをかくてみよう。</p>
5 考えを発表する。	<p>○ 「フラミンゴより5わ少ない」とは、どういうことか図を使って説明し、式と関連付けて説明させる。</p> <p>○ 「少ない」と書いている児童を発表させ、図に言葉を付け加えると分かりやすくなることに気付かせる。</p> <p>○ 児童が考えた図の中から、フラミンゴとダチョウの○図を2段でかくている図が分かりやすいことに気付かせる。</p> <p>○ 問題文から、順序立てて図に表すと、問題場面の把握がより明確になることに気付かせる。</p> <p>○ 図や式の根拠を複数の児童に説明させることで、問題場面をより具体的にとらえることができるようにさせる。</p>	<p>ずのいみをかんがえると、たしざんかひきざんかわかりやすいな。</p>
6 まとめる。	<p>ひきざんでもとめることができる。</p>	<p>「のこりや」、「ちがいや」のほかにも、ひきざんでもとめることがあるんだな。</p>
7 適用題を行う。	<p>ヤマアラシが15ひきいます。ミニブタは、ヤマアラシより7ひき少ないです。ミニブタは、何ひきですか。</p> <p>○ 問題を提示し、ブロック操作をしたり、図や式に表したりすることで、本時の理解を深める。</p>	<p>○ 求小問題を図と式に表している。 【思・判・表】</p>
8 振り返りを行う。	<p>○ 自分で考えて解くことができたか、他者との学びから考えを深めることができたか等を振り返り、本時の理解を深めたり、次時への意欲を高めたりする。</p>	<p>もんだいをよくよんで、ずにかくと、ひきざんでもとめることがわかりました。 いままでならったように、ひきざんでもとめられるとわかりました。</p>

「1つ分は何かな？いくつ分あるのかな？」

2年 かけ算(3)

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力 主体性・積極性 自分への自信

1 単元について

- 本単元は、次期小学校学習指導要領算数科第2学年の「A（3）乗法」の内容に基づき設定した。次期小学校学習指導要領には、以下のように示されている。

(3) 乗法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(イ) 乗法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。

(ロ) 乗法に関して成り立つ簡単な性質について理解すること。

(ハ) 簡単な場合について、2位数と1位数との乗法の計算の仕方を知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(イ) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。

(1) 単元観

本単元は、乗法九九表を観察して乗法の交換法則に気付くとともに、簡単な場合の2位数と1位数との乗法の計算の仕方について考えたりいろいろな数のまとまりで被乗数を捉えて乗法の式に表したりすることで、乗法への理解を深めることをねらいとしている。

本教材は、身に付けた乗法九九を活用し、九九表を拡張したり乗法が適用できる場面で問題解決をしたりする。乗法九九を知るだけでなく、乗法が用いられる場合について理解を深めたり簡単な性質について知ったりすることで、既習をもとに統合的・発展的に考えるのに適した教材である。

また、本単元では、「いくつずつ」「いくつ分」を明らかにして図や式、言葉で表して説明したり、式と図を対応させながら話し合ったりすることで、自分と違った見方や考え方に気付き、数の意味や表し方への理解を深めていくことができると考える。

(2) 児童観

学力調査等の実態

レディネステストの結果、図から「いくつずつ」「いくつ分」を捉えることができた児童は75%、同数累加の足し算を正しく計算することができた児童は、83.3%であった。「いくつずつ」「いくつ分」と考えることが児童は苦手である。そのため、乗法九九を構成していく過程において、その意味について、理解を深めていく必要がある。

課題発見・解決学習の実態

アンケートの結果、「算数が好き」と答えた児童は、70.8%、「算数が得意」と答えた児童は、62.5%であった。「算数が好き」「算数が得意」と答えた児童には、計算を早く解くことができることを理由にあげた児童が多かった。学級全体には、算数を苦手としている児童が多く、その苦手意識から算数が好きではないと感じている児童が多いと考えられる。また、問題を解くことができないことを算数が好きではない理由に答えた児童も何名かおり、「問題を正しく解くこと」にのみ算数の価値を感じている児童が多いとも考えられる。

また、「算数で学習したことを学習や生活に生かしている」と答えた児童は、79.2%であり、学習したことを進んで生かそうとする態度にも課題が見られる。

(3) 指導観

本単元前には、掛け算(1)～(2)において掛け算の意味理解と九九の暗唱を行っているが、これらの活動を通して「いくつずつ」「いくつ分」を捉えることを繰り返し行ってきた。様々な場面に、その考えを適用し、掛け算で課題を解決することで、掛け算の有用性を感じさせていく。

本単元の課題発見・解決学習では、まず、九九表を用いて掛け算の交換法則が成り立つことを学習していく。その中で、「被乗数・乗数は、どちらにどんな数字を当てはめても良い」という考えが生まれてくるのではないかと考えられる。そこで、九九表から生活場面へと段々問題場面を移していくことで、被乗数・乗数を気にした方がよい場合と、気にしなくても良い場合があることに気付かせていく。

本時においては、田中博史氏の実践を基に授業を展開していく。まずは、児童の考えと問題場面とにズレがあることに気付かせ、そのズレを埋めていこうとする意欲を高める。そして、式と図によって自分の考えを表現し、対話によって友達と自分、自分と問題場面との間にどのような違いがあるのか考えさせていく。今回は、正しい図が1つあるため、友達や自分の考えについて「なるほど」「たしかに」「ん？ どういうこと？」と関わっていくことになる。友達と、教材と、対話を繰り返すことで、段々と自分の考えが洗練していくことを感じさせたい。

(4) 単元の目標 (めざす児童の姿)

- 乗法のきまりを用いて、乗法九九を構成できる。
- 被乗数、乗数、積の関係や交換法則を理解することができる。 (知識及び技能)
- 乗法九九の表を観察して、乗法についての性質を見出すことができる。また、簡単な2位数と1位数の計算について、乗法のきまりをもとに考えることができる。 (思考力、判断力、表現力等)
- 乗法のきまりや乗法九九表を活用して、身近な問題に生かそうとすることができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

2 単元の評価規準

観点	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	被乗数、乗数、積の関係や交換法則を理解し、九九表のきまりを理解している。 乗法のきまりを用いて、乗法九九表を手際よく完成させることができている。 被乗数、乗数、積の関係や交換法則を理解し、九九表のきまりを理解している。	乗法九九の表を観察して、被乗数、乗数、積の関係や交換法則などの乗法についての性質を見出している。 簡単な2位数と1位数の計算について、乗法のきまりをもとに考え、式や図を用いて表現し、答えの求め方を工夫している。	乗法九九表を活用して、進んできまりを見つけたり、楽しいゲームを工夫したり、身近な問題に生かそうとしたりする。

3 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本単元においては、九九表を構成し、観察していく。この活動をしていくうちに、掛け算には答えが同じものがあることや、それらの掛け算は被乗数・乗数が入れ替わっていることなどに気付いていく。その気づきを共有することで、「他の場合にもなっているのかな。」という意欲が増していき、実際に調べていこうとすることになる。どんな場合でも掛け算のきまりが成り立っていることを帰納的に考えていくことで、思考力の高まりが期待できる。さらに、自分の考えを図に表したり、問題場面を図に置き換えたりする中で、友達や教材の考えを解釈することを繰り返していく。自分の解釈を友達に伝える活動を繰り返すことで段々と表現が洗練されていくと考えられるため、表現力の高まりも期待できる。さらに、前単元まで九九の暗唱に取り組んでおり、その覚えた九九を用いて、2位数×1位数の計算を解いていくことで、「難しい問題でも、自分の学んできたことを活かすと問題を解くことができた。」という気持ちになる。このことが、自分への自信へとつながっていく。友達の考えを解釈したり、既習事項を活かして問題を解いたりする中で、自分への自信がついてくると、「もっと他の問題も解きたいな。」という気持ちにつながる。このことで、主体性・積極性が養われていくと考える。

4 指導計画 (全9時間)

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)
—	<p>課題の設定</p> <p>乗法九九の表の書き方を知る。 4, 16, 30はどんな乗法の答えなのかを考える。 乗法九九の答えを表に書く。 (1)</p> <p>九九表から、いろいろなきまりや特徴を考え、発表する。 (1)</p> <p>かけられる数が3の答えと、かける数が3の答えを比べる。 答えが同じになるわけを考え発表する。 交換法則を用いて問題を解く。 (1)</p>	<p>九九表という物があるのか。 覚えていたことを使えば簡単だよ。 あれ?答えが同じところがたくさんあるな。 九九表には、たくさんきまりがあるのだな。</p> <p>なぜ、答えが同じになるのかな。 そうか、掛け算は掛けられる数(1つ分)と掛ける数(いくつ分)を入れ替えても答えが同じだからだ。</p>	<p>九九表の仕組みを理解している。 乗法九九の表を完成することができる。 【知・技】(ノート, 行動観察)</p> <p>九九表のよさに気づき、九九のきまりや特徴を見出している。 【思・判・表】(ノート, 行動観察)</p> <p>被乗数と乗数に着目して、式や図を用いて表現し、答えが同じになるわけを考えている。 【思・判・表】(ノート, 行動観察)</p>
	<p>【本質的な問い】 この場面では、1つ分は何だろうか。基にする数は、いくつ分あるのだろうか。</p>		

二	<p>情報の収集 整理・分析</p> <p>ブロックの数を求める式を考える。 交換法則や情報のきまりを使って、12×3の計算のしかたを考える。(1) 12×3の計算のしかたを分配法則を使って考える。 13×3の計算のしかたを考え、答えを求める。(1)</p>	<p>あれ？確かに、掛ける数と掛けられる数を入れ替えても答えは同じだけど、図と結びつかないな。 友達と考えている式が全然違うよ。友達は、どのようにして考えているのかな。 なるほど、やはり1つ分といくつ分は、どちらでもいいわけではなくて、大切なことなんだな。</p>	<p>簡単な2位数と1位数の計算について、図で表したり、式を変形したりすることができる。 【思・判・表】(ノート, 行動観察)</p> <p>簡単な2位数と1位数の計算について、分配法則をもとに考えている。 【思・判・表】(ノート, 行動観察)</p>
三	<p>まとめ・創造・表現 実行</p> <p>16×3を表す図について考える。(1) (本時6/9)</p> <p>19人で旅行に行くときの、座席の取り方を考える。 他の人数の場合の座席の取り方を考える。(1)</p>	<p>「いくつずつ、いくつ分」を考えると問題が解けるね。 座席の形を見ると、1つ分が分かるね。いくつ分は、何列あるかを見ると分かるね。</p>	<p>1つの図について、「1つ分は何か」「1つ分を○とすると、いくつあるか」ということを考えながら、様々な図や式で表したりすることができる。 【思・判・表】(ノート, 行動観察) 掛け算九九を想起し、場の状態を考えながら、掛け算九九を生活場面で活用し、問題を解決している。 【思・判・表】(パフォーマンス評価)</p>
四	<p>ふりかえり</p> <p>既習事項の理解を深める。(2)</p>	<p>どれだけ学んだことが身についているかな。</p>	

5 本時の展開 (6/9)

(1) 本時の目標

1つの図や式について、「1つ分は何か」「1つ分を○とすると、いくつあるか」ということを考えながら、様々な図や式で表したりすることができる。

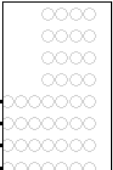
【思・判・表】

(2) 観点別評価規準

1つの図や式について、「1つ分は何か」「1つ分を○とすると、いくつあるか」ということを考えながら、様々な図や式で表したりすることができる。

【思・判・表】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○), 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
1 問題に出合う。	<p>たろうくんは、○の数を数えるのに、16×3という式で数えました。 ○は、どのようにならんでいるのでしょうか。</p> <p>○ 問題を読ませて、16×3を図に表させる。図の一部分しか提示しないことで、児童の考えとたろうくんと考えにズレが生まれることをねらう。 (予想される児童の考え) ○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○ (問題提示) </p> <p>※図を隠して、図の一部のみ提示する。</p>	<p>1つ分は、16。いくつ分は、3だな。</p> <p>16こずつ、3つ分だと、図はどうなるかな?</p> <p>え?どういうこと?</p> <p>その図では表せないはずだけど...</p>

2 課題を知る。	<p>◆ 児童の思考に差を広げないために、戸惑っている児童の気持ちを考えさせる。「式が16×3の中には、4という数字がない。」などの戸惑っている部分を明確にしておく。</p>	<p>16×3の中には、4なんてないもんね。</p>
<p>○は、どのようにならんでいるのだろうか。</p>		
3 自分の考えを書く。	<p>○ 図の一部分から図の全体を予想できている児童の考えを発表させる。「4が横に続いている。」というような図・意見を出させたい。そこで、「1つ分を4とすると、いくつ分並んでいるのか。」という課題意識を共有し、自分の考えを書かせる。</p> <p style="text-align: center;">○○○ ○○○ ○○○ ○○○</p>	<p>いや、表せるよ？</p> <p>4のまとまりが、いくつあるのかな？</p>
4 友達と話し合う。	<p>○ 「1つ分を4とすると、12こ並んでいる。」という答えが出てきたら、「12こ」という数字の根拠を示すために、次は「16×3を既習を活かして求めさせる。</p> <p>○ 次に、再び「1つ分を4とすると、いくつ分並んでいるのか。」という課題に戻る。48という答えを参考にして、「1つ分を4とすると、12こ分並んでいる。」ということを確認する。そして、以下のような図になるであろうことを確認する。</p> <p style="text-align: center;">○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○</p> <p>○ 続いて、図の見せる部分を増やし、児童の考えを揺さぶり、さらなるズレを引き出す。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 20px;"> <p style="text-align: center;">○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">○○○ ○○○ ○○○ ○○○ ○○○ ○○○ ○○○ ○○○ ○○○ ○○○</p> </div> </div> <p>○ 図と式を予想し、ノートに考えを書かせる。</p> <p>◆ 考えることの難しい児童がいれば、「$4 \times \square$、$8 \times \square$」と板書する。</p> <p>○ 図を全て提示するか、同様の図を児童に発表させる。</p> <p>○ 「4のいくつ分か、8のいくつ分か」ということについて、図に補助線を描かせながら児童に説明させる。</p> <p>○ 最後に「16×3」を図の中から見つけさせる。</p>	<p>12こだ。だって、○は全部で48こあるからね。</p> <p>○は全部で48こあるから、4、8、12、...、48。</p> <p>○は全部で48こ。交換法則を使って、$12 \times 4 = 12 + 12 + 12 + 12 = 48$。</p> <p>○ 1つの式について、「1つ分は何か」「1つ分を○とすると、いくつあるか」ということを考えながら、様々な図や式で表したりすることができる。 【思・判・表】(ノート)</p> <p>8の数のまとまりと4の数のまとまりは、いくつずつ並んでいるのかな。</p> <p>○をどのように数えると16×3になるかな。</p>
5 まとめる。	<p>1つ分はいろいろな見方をすることができる。</p>	<p>○ 1つの図について、「1つ分は何か」「1つ分を○とすると、いくつあるか」ということを考えながら、様々な図や式で表したりすることができる。 【思・判・表】(ノート)</p>
6 適用題を解く。	<p>○が下のようにならんでいます。かけ算で数えるとすると、どのような式になりますか。図を線でめぐり、式を書きましょう。</p> <p style="text-align: center;">○○ ○○ ○○ ○○ ○○ ○○ ○○○○○○ ○○○○○○ ○○○○○○</p>	<p>かけ算では、いくつで区切るかによって、式が変わるとわかりました。</p>
7 振り返りを書く。	<p>○ 本時では、誰のどのような考えを活かして問題を解いたか、本時を学んで分かったことは何かということについて書かせる</p>	

「分数～分けた大きさを表そう～」

3年 数と計算 分数

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力 チャレンジ精神

1 単元について

- 本単元は、次期小学校学習指導要領第3学年の「A数と計算」の内容に基づき設定した。次期小学校学習指導要領には、以下のように示されている。

- A (6) 分数とその表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (7) 等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを表すのに分数を用いることを知ること。また、分数の表し方について知ること。
- (4) 分数が単位分数の幾つ分かで表すことができることを知ること。
- (9) 簡単な場合について、分数の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算ができることを知ること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (7) 数のまとまりに着目し、分数でも数の大きさを比べたり計算したりできるかどうかを考えるとともに、分数を日常生活に生かすこと。

(1) 単元観

本単元は、分数の大きさを図や数直線上に表したり、同分母分数の加法・減法の仕方を考えたりすることで、分数の意味や表し方が分かるとともに、同分母分数の加法・減法の意味について理解することをねらいとしている。

本教材は、分数の大きさを図や数直線上に表したり、それを基に小数の大きさと関係付けたり計算の仕方を考えたりすることで、1を基にした分数の大きさを捉えていく。このような見方は、基準量の分数倍にあたる量を求める考え方や、1を基にしたときの割合を分数で表す考え方につながる。

本単元では、第2学年までに学習してきた簡単な分数を表す体験を基に、分数の意味や表し方を理解させていく。図や数直線上に表した数量を分数として捉えたりその逆をしたりすることを反復することで、それらを確実に理解させたい。また、同分母分数の加法・減法の計算の仕方を図や数直線上に表して考えることで、単位分数の幾つ分で考えると整数と同様に処理できることが分かることをねらいとしている。

(2) 児童観

学力調査等の実態

レディネステストで「分数を図や数直線上に表す問題」を実施した。その結果、図に表したもとの大きさを等分した場合の正答率は100%だったが、数直線に表した場合の正答率は69.4%だった。分数は1を等分した大きさを表した数であることが分かるようにしていく必要がある。

また、1Lや1mを等分した大きさを分数に表すこと（量分数の表し方やその意味）や等分した大きさを合わせた大きさが1になることへの理解が十分とは言えなかった。

課題発見・解決学習の実態

学級の児童に算数科の学習への意識調査を実施した結果、「算数が好き」と答えた児童は80.6%、「算数が得意」と答えた児童は75.0%だった。苦手意識を持つ理由として「計算が苦手だから」という回答が多かった。「考えを説明したりまとめたりすることが苦手だから」という回答もあった。日頃の授業で、進んで友達に考えを伝え合おうとする児童は多い。また、自分が考えたことを式や図、言葉などでノートに表す力も付いてきた。

しかし、意見交流の場で考えが分かりやすく伝わらない場面や、伝え合ったことを基にうまく比較・一般化できない場面がしばしば見られる。

(3) 指導観

本単元では、第2学年までに学習したことを基に、分数の意味や表し方を学習していく。1を等分した大きさを分数で表すことについて理解させることは、第5学年で学習する分数が割合や商を表すことにつながるため、重要である。また、分数で表した長さを実際に見たりそれを基に測定したりする経験をさせることで、量分数で表すことに親しませたい。さらに、分数をL・dLマスの図やテープ図、数直線上に表して数量の大きさを掴ませていくことで、分数が表す数量への見方を広げていきたい。

本単元の学習では、次のことに留意したい。

- 1つ目は、児童自身が課題を設定することである。問題から既習との違いを見つけ、課題を設定することで、目的意識を持って学習できるようにしたい。
- 2つ目は、一人一人が考えを伝え合う場を設定することである。考えを確かめたり広げたり深めたりするために、全体交流の前にはペアトークをさせ、全員が話したり聞いたりできるようにしたい。
- 3つ目は、同分母分数の加法・減法は、単位分数のいくつ分で考えると整数と同様にできることに気付かせることである。分子同士の計算で機械的に処理するのではなく、その意味をしっかりと理解させることで、これからの学習に活用できるようにしたい。

(4) 単元の目標 (めざす児童の姿)

- 分数の意味や表し方, 簡単な場合の加法及び減法の意味について知っている。 (知識及び技能)
- 同分母分数の大小比較や加法・減法の仕方について, 単位分数の幾つ分かで表して考えている。 (思考力, 判断力, 表現力等)
- 分数や分数で学習したことを学習や生活に生かそうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)

2 単元の評価規準

観点	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	分数の意味や表し方, 同分母分数の加法及び減法の意味について知っている。	同分母分数の大小比較や加法・減法の仕方を単位分数の幾つ分かで表して考えている。	分数で表すことよさに気付き, 学習や生活に生かそうとしている。

3 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本単元では, 等分してできる数量や端数部分の数量の大きさをL・dL ますを使った図や数直線などに表し, 1を等分した数量(単位分数)の幾つ分か確かめながら分数に表していくことで, 分数の意味やその表し方への理解を深めていく。また, 新しい用語や問題に出合ったときに, 既習事項を活用したりノートを見直したりして粘り強く考えて自力解決したり, 友達との話し合いから理解を深められるような場を設定する。これらを通して, 思考力・表現力(スキル)やチャレンジ精神(価値観・倫理観)を育成することができると考える。

4 指導計画 (全9時間)

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (方法)
一	<p>課題の設定</p> <p>1m のテープを等分した長さやはしたの長さを単位分数で表す。 (1)</p>	<p>○分の1で表せない長さは, どのように表そう。</p>	<p>いろいろな等分した長さやはしたの長さを分数で表そうとしている。 【態度】(ノート, 発言)</p>
<p>【本質的な問い】 分けた長さやかさは, 分数でどのように表すことができるだろう。</p>			
二	<p>情報の収集 整理・分析</p> <p>単位分数のいくつ分という見方で, 長さやかさを分数や図に表す。 (2)</p> <p>分数を使って, 長さやかさをはかる。 (1)</p> <p>分数と小数の関係を調べ, 大小比較をする。 (1)</p> <p>分数の仕組みを調べ, 同分母分数の大小比較をする。 (1)</p> <p>分数のたし算とひき算の仕方を考える。 (1) (本時7/9)</p>	<p>○分の1のいくつ分で考えれば, 分数で表せるね。 1m や1L を何等分したいいくつ分で見ればいいね。</p> <p>身近な長さやかさも分数で表せるんだね。</p> <p>0.1 と $\frac{1}{10}$ は同じ大きさだね。</p> <p>○分の1のいくつ分で考えれば比べられるね。</p> <p>○分の1のいくつ分で考えれば, 整数と同じようにできるんだね。</p>	<p>分数の表し方を理解し, 分数を図に表すことができる。 【知・技】(ワークシート)</p> <p>図に表された数量を分数で表すことができる。【知・技】(ワークシート)</p> <p>身近なものの長さやかさを分数で表している。【態度】(発言・行動観察)</p> <p>分数と小数の大きさの関係を知っている。【知・技】(発言・ノート)</p> <p>大小比較の仕方や1と等しくなる分数があることを知っている。 【知・技】(発言・ノート)</p> <p>同分母分数の加法・減法の仕方を単位分数の幾つ分で考えている。 【思・判・表】(発言・ノート)</p>
三	<p>まとめ・創造・表現 ふりかえり</p> <p>学習したことを活用し, 問題作りをして解き合ったり, 練習問題に取り組んだりする。 (2)</p>	<p>分けた大きさを分数で表すとき, ○分の1のいくつ分で考えることが大切だね。</p>	<p>進んで分数の問題を作ったり解いたりしている。 【態度】(ノート・行動観察)</p>

5 本時の展開 (6/9)

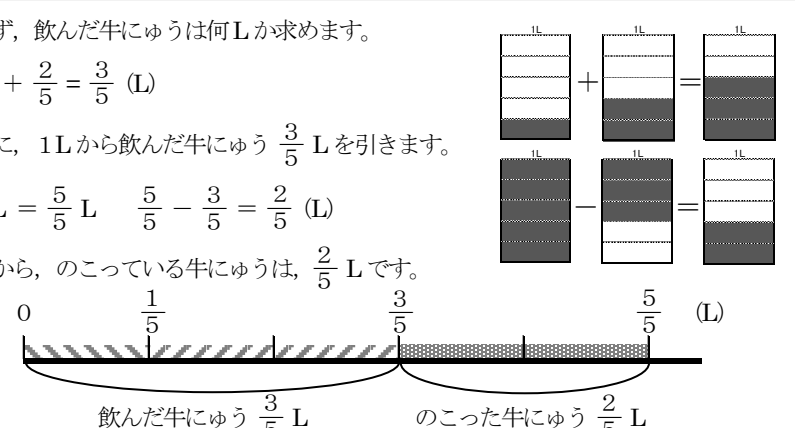
(1) 本時の目標

同分母分数の加法・減法の仕方を図や数直線上に表して考えることで、単位分数の幾つ分かで考えると整数と同様に処理できることに気付く。【思・判・表】

(2) 観点別評価規準

同分母分数の加法・減法を単位分数の幾つ分かで考えて求めている。【思・判・表】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
1 問題に出合い、めあてを設定する。	○ 問題文を一度に見せず、イ、ア、ウの順に提示することで、問題場面や立式の仕方を意識させる。 ア あきらさんは、1L入りの牛にゆうパックを買いました。 イ 牛にゆうをきのう $\frac{1}{5}$ L、今日 $\frac{2}{5}$ L 飲みました。 ウ 何Lの牛にゆうがのこっているのでしょうか。 ○ 立式させ、既習との違いからめあてを設定する。	全部でどれだけ飲んだのか求める式は、 $\frac{1}{5} + \frac{2}{5}$ だね。 1Lから飲んだかさを引けば、のこった牛にゆうが何Lあるか求められるね。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 分数のたし算やひき算は、どうすればできるだろう。 </div>		
2 自力解決する。	◆ 問題場면을イメージできるよう、ノートに図、数直線で考えを書かせる。 まず、飲んだ牛にゆうは何Lか求めます。 $\frac{1}{5} + \frac{2}{5} = \frac{3}{5}$ (L) 次に、1Lから飲んだ牛にゆう $\frac{3}{5}$ Lを引きます。 $1L = \frac{5}{5} L \quad \frac{5}{5} - \frac{3}{5} = \frac{2}{5}$ (L) だから、のこっている牛にゆうは、 $\frac{2}{5}$ Lです。 	図や数直線を使って表せば、求め方がよく分かるよ。
3 考えを出し合い、練り合う。	○ 簡単に答えを求める方法について話し合わせることで、分子どうしのたし算・ひき算をしていることに気付かせる。 ○ $\frac{1}{5} + \frac{2}{5} = \frac{3}{10}$ になるのではないかと考えを揺さぶることで、 $\frac{1}{5}$ のいくつ分で考えればよいことを確かめる。	$\frac{1}{5} + \frac{2}{5}$ は 1+2, $\frac{5}{5} - \frac{3}{5}$ は 5-3で求められるよ。
4 適用題に取り組む。	赤いテープの長さは $\frac{4}{7}$ mで、青いテープの長さは $\frac{3}{7}$ mです。 ① 合わせて何mでしょうか。 ② どちらが何m長いでしょうか。	$\frac{1}{5}$ のいくつ分で考えれば、分子どうしの計算で求められるね。
5 まとめる。		○ 同分母分数の加法・減法を単位分数の幾つ分かで考えて求めている。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> $\frac{1}{5}$ のいくつ分で考えて、分子どうしの計算をすればよい。 </div>		【思・判・表】 (ノート)
6 振り返る。	○ 学習でよく分かったことや学び方について振り返ったことをノートに書かせる。	これまでに習った図や数直線を使えば、求め方がよく分かりました。

「広島県内の空き家率って何%？」

5年 割合とグラフ

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力 主体性・積極性

1 単元について

- 本単元は、次期小学校学習指導要領第5学年の「C 変化と関係」「D データの活用」の内容に基づき設定した。次期小学校学習指導要領には、以下のように示されている。

- C (3) 二つの数量の関係に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係とを比べる場合に割合を用いる場合があることを理解すること。
- (イ) 百分率を用いた表し方を理解し、割合などを求めること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係との比べ方を考察し、それを日常生活に生かすこと。
- D (1) データの収集とその分析に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 円グラフや帯グラフの特徴とそれらの用い方を理解すること。
- (イ) データの収集や適切な手法の選択など統計的な問題解決の方法を知ること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択して判断し、その結論について多面的に捉え考察すること。

(1) 単元観

本単元は、基準量を1とみると比較量がどれだけにあたるか、全体と部分、部分と部分の関係を割合で表し、それを用いることができるようになることをねらいとしている。

本単元で学習する「割合」という見方は、2つの数量がある時、一方を1とすると他方はどれくらいかという見方である。また、百分率（基準量を100として割合表す）や歩合（0.1を1割、0.01を1分、0.001を1厘と表す）について理解することや、割合を帯グラフや円グラフに表し、その読み方・かき方・使い方を理解することもねらいとしている。

本単元では、2年生で学習した乗法、3年生で学習した除法、4年生で学習した小数と整数による乗法・除法、5年生で学習した小数倍などの考え方を活用していく必要がある。これまで学習した見方・考え方を活用しながら数量の関係を捉え、正しく立式するために図（比例数直線図や関係図）などの活用を図ることも重要であると考える。

(2) 児童観

学力調査等の実態

本校独自に作成した割合に関するレディネステストを実施した結果、基準量を求める問題について立式できた児童が81.4%であった。しかし、立式した理由を図や言葉で説明することには課題があった。特に、割合、比較量、基準量を求める問題に共通して言えることは、「1にあたる数」が何かを22.2%の児童しか説明できていなかった。

課題発見・解決学習の実態

平成27年度「基礎・基本」定着状況調査の児童生徒質問紙を実施した。その結果、「授業では、自分の考えを積極的に伝えていきます。」(81.4%)、「授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるよう発表を工夫していきます。」(81.4%)に課題が見られた。これらのことから、自分の考えを自ら友達に伝えようとすることや、問題を自分事として捉えようとする主体性・積極性に課題があると考える。また、自分の考えの根拠を明らかにし、その内容を相手に分かりやすく伝えるための思考力・表現力に課題があると考える。

(3) 指導観

本単元では、児童が問題を解く際、「なぜその式で良いのか」という立式した理由にこだわっていく。その中で、比例数直線図や4マス関係図で数量の関係を児童が捉えられるように指導していく。また、「○を1とした時、△にあたる数を求める。」などのように説明の仕方を意識した指導を行っていく。

本単元の導入では、総合的な学習の時間で学習している空き家問題をもとに割合の問題に出合わせる。尾道市は空き家が多いと言われており、広島県内の空き家率がどうなっているかに着目させる。すると、県内でも広島市や福山市などは空き家の戸数が多いということに気付くであろう。しかし、空き家率を見た時には、両市とも空き家率は低いという事実に出合う。そのズレを感じさせることで、「割合とは何か、どういう仕組みなのかを解決したい」という学習に対する必要感が高まり、本質的な問いにつながる。このことが、問題を自分事として捉える意識や身の回りの事象を数学的な視点で捉えることにつながると考える。

また、単元の中で立式した理由を話し合わせることで、自分の考えとその理由を明らかにして説明する場や友達の見意を取り入れる場を設定する。このように、対話を通して、考えの深まりを実感させていきたい。

(4) 単元の目標 (めざす児童の姿)

- 割合, 比較量, 基準量を求めたり, 割合を円グラフや帯グラフに表したりすることができる。また, 割合の意味と表し方, 円グラフや帯グラフの読み方やかき方を理解している。(知識及び技能)
- 割合で捉えられる同種の2つの数量の関係を, 図や式を用いて考えている。また, 資料について全体や部分の関係を調べ, 特徴を捉えている。(思考力, 判断力, 表現力等)
- 2つの数量の関係を割合を用いて考えたり, 割合や円グラフ, 帯グラフを活用したり表したりしようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

2 単元の評価規準

観点	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	割合, 比較量, 基準量を計算で求めている。 割合を円グラフや帯グラフに表している。 割合の意味と表し方, 円グラフや帯グラフの読み方やかき方を理解している。	割合で捉えられる同種の2つの数量の関係を, 図や式を用いて表現して考えている。 資料について, 全体や部分の関係を調べ, その特徴を捉えている。	身の回りで割合が使われている場面を見付けようとしている。 2つの数量の関係を割合を用いて考えたり, 割合や円グラフ, 帯グラフを活用したり表したりしようとしている。

3 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本単元の導入では, 総合的な学習の時間で学習している空き家問題をもとに割合の問題に出合わせる。広島県内の空き家率がどうなっているかに着目させ, 県内でも広島市や福山市などは空き家の戸数が多いということに気付かせる。しかし, 空き家率で見た時には, 両市とも空き家率は低いという事実に出合う。そのズレを感じさせることで, 「割合とは何か, どういう仕組みなのかを解決したい」という学習に対する必要感が高まり, 問題を自分事として捉える意識や身の回りの事象を数学的な視点で捉えること(主体性・積極性の育成)につながると思う。

また, 単元の中で立式した理由を話し合わせることで, 自分の考えとその理由を明らかにして説明する場や友達の意見を取り入れる場を設定することで思考力・表現力の育成を図る。

4 指導計画 (全15時間)

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)
○	身の回りにある割合の表記について調べておく。 (○倍, □%, ○割△分◇厘など)		
一	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin-bottom: 10px;"> 課題の設定 </div> 総合で学習している空き家問題と関連させ, 広島県内の空き家率から, 割合についての疑問をもたせ, 学習意欲を喚起する。 (1)	福山市は空き家の数が多いのに, 空き家率は13.8%と低いのはなぜだろう。	身の回りで割合が使われている場面から, 割合についての疑問や関心をもとうとしている。 【態度】(ノート, 行動観察)
	【本質的な問い】 「割合」とは何だろう。また, 「割合」とはどういう仕組みなのだろう。		

二	<p>情報の収集</p> <p>全体と部分の関係にあるものの比べ方を考える。(1)</p> <p>基準量が分からなければ、割合が分かっても比較量の大小判断ができないことを考える。関係図の使い方や割合の意味を知る。(2)</p> <p>割合の求め方を考える。百分率について知る。(3)</p> <p>基準量の求め方を考える。(2) (本時8/15)</p> <p>歩合の意味を理解し、割合の問題を解く。(2)</p> <p>帯グラフや円グラフの意味や読み方を知る。(1)</p> <p>帯グラフや円グラフのかく。(1)</p> <p>まとめ・創造・表現</p> <p>割合についての問題作りをし、解き合う。(1)</p>	<p>整理・分析</p> <p>シュートの成績は比べられる量÷もとにする量で求められる。</p> <p>もとにする量が分からないと、バスの席の数は比べられない。</p> <p>関係図に表すと大小関係がよくわかり、式にも表しやすい。 ○を1とした時、△にあたる数を求める。</p> <p>1あたりを求めるためにはわり算をしたらいい。</p> <p>割合の0.1を1割と表す。</p> <p>帯グラフや円グラフだと全体と部分、部分と部分の関係が分かる。</p> <p>今まで習ったグラフと似たところもある。</p> <p>割合についての問題を作ろう。</p>	<p>シュートの成功率を表す方法を考えている。 【思・判・表】(ノート, 行動観察)</p> <p>基準量が分からなければ、割合が分かっても比較量の大小判断ができないことを考えている。 【思・判・表】(ノート, 行動観察)</p> <p>関係図の使い方や割合の意味を理解している。 【知・技】(ノート) 関係図などを用いて、割合の求め方を考えている。【思考力・表現力】(ノート) 百分率の意味を理解している。 【知・技】(ノート)</p> <p>関係図などを用いて、基準量の求め方を考えている。 【思・判・表】(ノート, 行動観察)</p> <p>歩合の意味を理解し、割合の問題を解くことができる。 【知・技】(ノート)</p> <p>帯グラフや円グラフの意味や読み方を理解している。 【知・技】(ノート)</p> <p>割合を帯グラフや円グラフに表すことができる。 【知・技】(ノート)</p> <p>割合の問題を作り、解いている。 【思・判・表】(ノート, 行動観察)</p>
三	<p>実行</p> <p>第一次での話題を再度取り上げ、広島県内の空き家率についての疑問を解決する。付いた力と学び方を振り返る。(1)</p>	<p>ふりかえり</p> <p>なぜ福山市の空き家率が低いのかを解決できた。</p>	<p>身の回りで割合が使われている問題場面を解決しようとしている。 【態度】(ノート, 行動観察)</p>

5 本時の展開 (8/15)

(1) 本時の目標

関係図などを用いて、基準量の求め方を考えることができる。【思・判・表】

(2) 観点別評価規準

関係図などを用いて、基準量の求め方を考えている。【思・判・表】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
1 問題に出合う。	<p>○ 単元の導入で学習した、広島市や福山市の空き家の戸数が多いが、空き家率が低いのはなぜかを想起させる。</p> <p>○ 可能であれば空き家の戸数は少ないが、空き家率が高い市についても触れる。</p> <p>福山市の空き家の数は27600戸で、福山市の家の数の13.8%にあたります。福山市の家の数は何戸でしょうか。</p>	<p>そう言えば、福山市は空き家の数は多かったけれど、空き家率は低かったな。</p>

2 本時のめあてをつかむ。	<p>◆ 「13.8%=0.138」であることを確認する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">福山市の家の数の求め方を考えよう。</p>	<p>比べる量を求めるのかな。それとも、もとにする量を求めるのかな。</p>
3 自力解決をする。	<p>○ 比例数直線図や関係図をもとに、立式の理由を考えさせる。</p> <p>○ 「△を0.138とした時、1にあたる数を求めるので」などのように言葉で説明できるようにする。</p> <p>◆ 基準量を求める問題であることをつかませる。</p> <p>◆ これまでの学習で「1にあたる数」を求める時、どのように考えていたかを想起させる。</p>	<p>27600戸が13.8%にあたるから、100% (1)にあたる数を求める問題だ！</p> <p>今まで1人分を求める時にはわり算を使っていたから、1あたりを求めるためにはわり算をしたらいい！</p>
4 全体で話し合う。	<p>○ 比例数直線図や関係図をもとに説明させることで、数量の関係を捉えることができるようにする。</p> <p>○ 3・4年生で学習したことと結び付けさせる。 (「1にあたる数」を求める時はわり算)</p> <p>○ 誤答や途中まで考えた児童の考えを取り上げ、全体で加筆・修正していく。</p>	<p>27600を0.138とした時、1にあたる数を求めるので、$27600 \div 0.138$になる。</p>
5 まとめる。	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">もとにする量は、比べられる量÷割合で求めることができる。</p>	
	<p>○ 児童が自分自身でまとめをする。</p>	<p>授業の始めは、どうやって求めたら良いか分からなかったけれど、みんなの話を聞いて、3・4年生で学習した「1あたりの数」を求めていることと同じだと分かりました。</p>
6 適用題を解く。	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">江田島市の空き家の数は4070戸で、江田島市の家の数の27.5%にあたります。江田島市の家の数は何戸でしょうか。</p> <p>○ 立式の理由を関係図や言葉で説明ができているかを見取る。</p> <p>○ 友達の考えたことをまねして考えさせたり、取り入れさせたりすることで、一人一人の思考の変容や深まりを見取る。</p> <p>○ 既習事項と統合させて考えることができるようにする。</p>	<p>○ 関係図などを用いて、基準量の求め方を考えている。</p> <p>【思・判・表】(ノート、発表)</p>
7 振り返る。	<p>①自分の成長</p> <p>②友達から学んだこと</p> <p>③うまくいったことや失敗したこと</p> <p>④新たな疑問</p>	<p>最初は自分で数直線図に表せなかったけれど、友達の発表を聞いて、練習問題では数直線図に表すことができました。</p>

「速さ～速さの考えを使って到着時刻を調べよう～」

6年「速さ」

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力 主体性・積極性

1 単元について

- 本単元は、次期小学校学習指導要領第5学年の「C変化と関係」の内容に基づき設定した。次期小学校学習指導要領には、以下のように示されている。

C (2) 異種の二つの量の割合として捉えられる数量に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 速さなど単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解し、それを求めること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(イ) 異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を考察し、それらを日常生活に生かすこと。

(1) 単元観

本単元では、速さの意味を知り、その表し方や求め方を理解することや速さ、かかった時間、進んだ道のりの3つの数量の関係を理解することをねらいとする。

第5学年では、異種の二つの量の割合について指導し、部屋の混み具合や人口密度などを取り上げて指導している。第6学年では、異種の二つの量の割合である速さについて指導する。速さについては、児童は日常生活において、人の走る速さや乗り物が移動する速さなどを、速い、遅いなどと表現してとらえる経験をしてきている。速さを量として表すには、移動する長さ、移動にかかる時間という二つの量が必要になる。速さは、単位時間あたりに移動する長さとしてとらえると、 $(\text{速さ}) = (\text{長さ}) \div (\text{時間})$ として表すことができる。また、速さと時間から長さを求めることもできるし、長さから速さを求めることもできる。実際の場面と結び付けるなどして、生活や学習に活用できるようにしていきたい。

遠足の行程表を見せ、どうやって到着時刻を決めているのか、話し合わせるところから単元をスタートし、時速とは何か、速さや道のり、時間の関係はどのようになっているのかを解決しながら単元を進めていきたい。

(2) 児童観

学力調査等の実態

全国学力・学習状況調査算数Bの正答率は、数と計算 65.6%、量と測定 56.3%、図形 40.6%、数量関係 52.7%であった。平均をを求める問題の正答率は 34.4%と低く、条件に合わせて問題を解いたり説明したりすることに課題が見られた。また、示された式の中の数の意味を表と関連付けながら正しく解釈して、記述することに課題が見られた。

課題発見・解決学習の実態

本学級の児童は、5年生「単位量あたりの大きさ」の学習を通して、単位量あたり大きさに揃えて異種の二つの量を比べる方法を学習してきた。

また、「割合とグラフ」の単元では、身近な生活場面から割合の場面を見付けたり、割合の問題作りをしたりして学習してきた。児童の実態に応じて分けられた小集団での学習により、どの児童も主体的に学習に参加したが、個人で課題を解決していく力は十分とは言えない。

(3) 指導観

本単元は、条件に合わせて問題を解いたり説明したりすることができるようにするために、多量の情報の中から問題解決に必要な情報を選択し、数学的な見方・考え方を働かせて問題を解決することができるような日常場面の問題を設定する。また、数直線図を使って式の意味について考える活動を取り入れる。

本単元は、遠足の行程表を見せ、どうやって到着時刻を決めているのか、話し合わせるところから単元をスタートさせる。

時間はこれまでとは違い、見たり肌で感じたりすることのできない量である。そのため、数直線図を活用した児童同士の対話により、単位量あたりの大きさが発展して、速さの学習をしていることを実感させながら、学習を進めていく。単元の終わりには、日常場面の問題を解かせ、算数の学習を進んで問題解決に活用しようとする態度を育てていきたい。

(4) 単元の目標

- 単位量あたりの考えをもとに、速さなどを求めたり、速さの表し方を理解したりすることができる。
(知識及び技能)
- 速さを求めるときに、単位量あたりの考えを用いて考えることができる。(思考力、表現力、判断力等)
- 速さを求めるときに、単位量あたりの考えを用いたり、生活や学習に活用したりしようとしている。
(主体的に学習に取り組む態度)

2 単元の評価規準

観点	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	単位量あたりの考えをもとに, 速さなどを求めている。 単位量あたりの考えをもとにした速さの表し方を理解している。	速さを求める時に, 単位量あたりの考えや道のりと時間が比例関係にあることなどをもち, 数直線や図, 式を用いて考えられている。	速さを求める時に, 単位量あたりの考えを用いて数値化したり, 具体的な場面と結び付けて, 生活や学習に活用したりしようとしている。

3 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

遠足の行程表を見て話し合ったり日常場面の速さの問題を解いたりすることを通して, 学習の必然性を見だし, 日常生活を数理的に捉え, 数学的に処理し, 問題を解決したり (思考力・表現力), よりよく問題を解決するために, 算数の学習を進んで生活や学習に活用しようとする態度 (主体性・積極性) を育てたりする。

4 指導計画 (全9時間)

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)
一	課題の設定	遠足の行程表は, どうやって到着時刻を決めているのかな。速さって何かな。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">【本質的な問い】速さや時間, 道のりは, どうやったら求めることができるのだろう。</div>		
一	情報の収集	整理・分析	
	4人の子どもの走る速さを調べ, その比べ方を考える。(1)	1秒間あたりに走る道のりや1mあたりに走るのにかかる時間で比べたらいいね。単位量あたりの考えだね。	混み具合のときの比較の仕方と同じように, 考えようとしている。 【態度】(ノート)
	時速, 分速, 秒速について知り, 公式を適用して速さを比べる。(1)	時速は1時間あたり, 分速は1分間あたり, 秒速1秒間あたりに進む道のりを表しているんだね。	速さは, 単位時間あたりに進む道のりで表されることを理解している。 【知・技】(ノート)
	同じ速さのものを, 時速や分速や秒速で表す。(1)	60をかけたり割ったりすれば, 時速や分速, 秒速に直すことができるんだね。	時速, 分速, 秒速の相互の変換をしている。【知・技】(ノート)
	50mを何秒で歩くのかを実際に調べてみる。(1)	秒速1.3mだ。分速74mだ。(道のり) ÷ (時間) で, 自分の歩く速さを調べることができるね。	実際に測定して, 時速, 分速, 秒速を求めている。 【知・技】(ノート, 行動観察)
	図や表に表して, 道のりを考える。(1)	道のりは, (速さ) × (時間), で求めることができるね。	速さと時間が分かっている場合の道のりを求めるために単位量あたりの考えを使って考えている。 【思・判・表】(ノート, プリント)
図や表に表して, 時間を考える。(1) (本時6/9)	時間は, (道のり) ÷ (速さ) で求めることができるね。行程表の到着時刻も速さや道のりを使えば, 求められそうだよ。	速さと道のりが分かっている場合の時間を求めるために単位量あたりの考えを使って考えている。 【思・判・表】(ノート, プリント)	
二	まとめ・創造・表現	ふりかえり	
	提示された条件について, 速さを適用して考える。(1)	(道のり) ÷ (速さ) を使って時間を求めることができた。数直線図に表すと, 分かりやすいね。	速さの考えを, 問題解決に活用している。 【思・判・表】(ノート, 行動観察)
	練習問題を通して, 既習事項の理解を深める。(1)	速さの考えを使えば, 目的地への到着時刻を調べたり, 道のりを調べたりすることができる。	速さと時間が分かっている場合の道のりや, 速さと道のりが分かっている場合に時間を求めている。 【知・技】(ノート)
	力だめしの問題を通して, 既習事項の確かめをする。(1)		速さを求めるときに, 具体的な場面と結びつけて, 生活や学習に活用しようとしている。 【態度】(ノート, 行動観察)

5 本時の展開 (6/9時間)

(1) 本時の目標

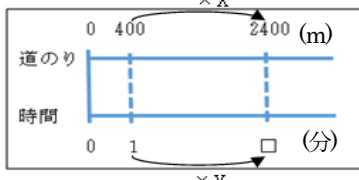
速さと道のりが分かっている場合の時間を求めることができる。【思・判・表】

(2) 観点別評価規準

速さと道のりが分かっている場合の時間を求めるために単位量あたりの考えを使って考えている。

【思・判・表】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
1 問題に出会う。	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">分速 400mで走る自転車は、2400mの道のりを進むのに、何分かかるでしょうか。</p> <p>○ 問題文を音読し、気付いたことを発表させ、道のりや時間を求めることを知る。</p>	<p>今までは、速さや道のりを求める問題だったけど、今日は、時間を求める問題だな。</p>
2 本時のめあてをつかむ。	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">時間の求め方を考えよう。</p>	<p>道のりを求めた時と同じように、数直線図を使って時間を求めることができないかな。</p>
3 自力解決をする。	<p>○ これまでの問題解決の仕方を振り返り、ノートに数直線図や式、言葉を書いて考えさせる。</p> <p>◆ 分からない時は、自由に友達と相談させて考えさせる。</p> <p>◆ 考えに困った時や説明に困った時には、道のりと時間の関係を表した数直線図をもとに考えさせたり、説明させたりする。</p> <p>○ 数直線図、4マス関係表、単位量あたりの考え、割合の考え、比の考えなどを使って考えたことを説明させる。</p>	<p>数直線図に表すと、400を1とした時、2400にあたる数を求めるから、$2400 \div 400$ で時間を求めることができるな。</p>
4 全体で話し合う。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【時間を求める】</p>  <p style="text-align: right;"> $400 \times X = 2400$ $X = 2400 \div 400$ $X = 6$ </p> <p style="text-align: right;"> 400を1とした時、 2400にあたる数を求めるので 式は、$2400 \div 400$ 答え6分 </p> <p style="text-align: center;">(時間) = (道のり) ÷ (速さ)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>1つ分が400mのとき、2400mは $2400 \div 400$ で、6つ分。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>$400 : 1 = 2400 : X$ $2400 \div 400 = 6$</p> </div>	<p>1つ分が400mのとき、2400mは $2400 \div 400$ で、6つ分。</p>
5 まとめと適用題をする。	<p>○ これまで学習してきたことと関連付けて考えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>時間を求める時は、いくつ分を求めるわり算や割合を求める問題と同じように (道のり) ÷ (速さ) で求めることができる。</p> </div> <p>○ 全体での話し合いで出た考えを使って適応題を解かせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>分速 80mで歩いている人がいます。5分間では、何m進むでしょうか。2000m進むのに、何分かかるでしょうか。</p> </div>	<p>時間を求める時は、(道のり) ÷ (速さ) で求めることができることが分かったぞ。</p>
6 振り返りをする。	<p>○ 授業の始めと終わりで考えが変容したことについて書く。</p> <p>○ 学んだことの中でこれからも活用できそうなことを見付けさせる。</p>	<p>○ 速さと道のりが分かっている場合の時間を求めるために単位量あたりの考えを使って考えている。</p> <p style="text-align: right;">【思・判・表】 (ノート、プリント)</p> <p>数直線図や表に表すと、時間の求め方が分かりやすかったな。</p>

「尾道の小路復活大作戦！」

本単元で育成する資質・能力

課題発見・解決力 主体性・積極性 尾道市民としてのアイデンティティ

1 単元について

○ 本校における総合的な学習の時間の目標及び本単元で育てたい資質・能力は以下の通りである。

郷土を素材とした活動や体験を通して、課題を自ら見出し、仲間と協力して探究活動に取り組む態度を育てるとともに、郷土への愛着を深め、郷土のよさを守ろうとする態度を育てる。本単元では、思考力、判断力、表現力等（課題発見・解決力）、主体的に学習に取り組む態度（主体性・積極性、尾道市民としてのアイデンティティ）の資質・能力を育てる。

(1) 単元観

本単元においては、地域貢献を図る探究的な学習を行うことを通して、地域の小路に関する問題を取り上げ、児童自ら課題を発見し、解決方法を考えて実行することで、児童の思考力、判断力、表現力（課題発見・解決力）と、主体的に学習に取り組む態度（主体性・積極性、尾道市民としてのアイデンティティ）を育てることをねらいとしている。

本教材は、地域の小路に関する問題を取り上げ、地域で取材することで小路について詳しく知らない人が多いという地域の現状に気付かせる。このことで児童の問題意識を高め、問題解決の実行に向けて最善解を創造しようという課題意識を高めるために適した教材である。児童は地域の一員として問題解決に参画することで、尾道市民としてのアイデンティティを高め、自己の生き方を考える際においても適した教材である。

また、本単元は国語科の「書く」学習との関連も考慮し、収集した資料を根拠にしながら伝えたいことの中心を考え、まとめる言語活動を行い、教科学習における探究的な学習を進めることもねらいとしている。

(2) 児童観

課題発見・解決学習の実態

質問紙調査^{*}の結果、以下の実態が見られた。

課題設定では、「自分で課題を決めている」と回答した児童が約 57%であった。その中で、課題設定時の難しさとして半数以上の児童が「調べたいことが思いつかない」と答えており、課題設定の段階で課題が見られる。

整理・分析では、調べた情報を比較したり分類したりして表や図にまとめて整理することはこれまでの学習で行っており 89%の児童が肯定的な意見をもっていった。しかし、児童が考えた課題解決のためのアイデアや方法を吟味したり、より質の高いアイデアや方法へ高めたりすることは苦手意識をもっている児童がいる。

まとめ・創造・表現では、課題解決のための表現方法に対して友達から意見をもらったり、見直したりするという活動が十分とは言えない。

振り返りでは、資質・能力の観点から自己評価をし、自分に身に付いた資質・能力や課題を省察しながら自己評価する力が十分とは言えない。

また、コンピテンシーに関する質問紙調査の結果、建設的・批判的能力に課題が見られた。

※基礎・基本定着状況調査児童質問紙 No13～27

(3) 指導観

本単元の課題発見・解決学習では、特に以下の点を重点に取り組む。

課題設定では、地域の小路の場所を確認し、名前の由来や年代などを調べるために、まず地域に出るという行動を起こすことで学習材に対する児童の興味・関心を高める。また、学習課題を自ら設定させるため、地域で収集した情報から地域の小路に関する問題に気付かせ、解決したいという意欲を高める。

整理・分析では、課題解決のための方法をメリットとデメリットに分けて考え、方法を吟味させたりよりよい方法へ高めたりするために建設的な思考を促しながら表現方法を整理させていく。

まとめ・創造・表現では、整理・分析した情報を基に小路復活に向けた解決方法を創造させる。その際、中間発表会を設定することで、自分や友達の活動を建設的・批判的に考える時間を設ける。その後、自分の活動を見直し分かりやすく表現する力を育てていく。

実行では、解決プランを地域に発信する場を設定することで、学習したことを表現する喜びや地域の一員として問題解決に参画しようとする意識を高める。

振り返りでは、コンピテンシー表を用いて資質・能力について力が付いたことや今後の目標を自己決定させ、自己評価する力の向上を図る。

(4) 単元でめざす児童の姿

- 地域の小路に関する現状と課題について知り、保存に対する地域の人々の思いや生き方を知る。（知識）
- 探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら解決方法を考え、目的意識をもって情報収集、整理・分析、自己評価するなど、問題を解決する方法を身に付ける。（思考力、判断力、表現力等）
- 地域の小路に関する問題の解決方法を考えることを通して、地域の役に立ちたいという思いをもって、主体的、協働的に課題を解決したり、自己の生き方を考えて実践したりしようとする。（意欲・態度）
- 地域の小路に関する問題の解決に向けて解決方法を創造し実行することで、地域の一員としての自覚を持ち、尾道の歴史や地域の人々の生き方を大切にす。（価値観・倫理観）

2 単元の評価規準

観点	知識	思考力, 判断力, 表現力等	主体的に学習に取り組む態度	
			意欲・態度 (主体性・積極性)	価値観・倫理観 (尾道市民としてのアイデンティティ)
評価規準	<p>地域には様々な由来をもつ小路が多くあり、その歴史を大切にしている人々の取組や思いがあることに気付いている。</p> <p>地域の小路に関する問題や今後の課題について概要を知っている。</p> <p>地域の問題解決に取り組む人々の思いや生き方の大体を知っている。</p>	<p>地域の問題に気付いて学習課題を設定している。</p> <p>その場の状況に応じて適切に情報を収集し、目的に応じて整理している。</p> <p>伝えたいことを中心に考えて表現し、自他の発表を比べながら聞いている。</p> <p>コンピテンシーに基づいて自己評価し、次の目標を書いている。</p>	<p>地域の小路に関心を持ち、進んで学習活動に取り組んでいる。</p> <p>地域の問題解決のために進んでアイデアを創造し、取り組もうとしている。</p> <p>他の人の意見も取り入れて自分の考えを改善している。</p> <p>これからの自分の生き方について考え、生活に生かしたいことを考えている。</p>	<p>地域の小路や歴史を保存したいという地域の人々の願いを大切にしている。</p> <p>地域の一員として地域の歴史の伝承に貢献することの意義や素晴らしさを感じている。</p>

3 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本単元においては、地域の小路に関する問題を題材として取り上げ、地域に住まれている人々とのかかわりを通して地域の小路に関する問題に気付き、解決方法を創造して実行する活動を中心とした単元を構成することで、児童の主体的な課題発見・解決学習を支援する。これらのことを通して、地域の小路に関する現状と人々の願いについての理解（知識）を深め、情報収集や整理・分析、振り返りなどを繰り返しながら探究活動に慣れることで課題発見・解決力（思考力、判断力、表現力等）を育成する。また、地域のために役に立ちたいという思いを抱かせることで主体的に学習に取り組む態度（課題解決への主体性・積極性や尾道市民としてのアイデンティティ）を育成する。

4 指導計画（全29時間）

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)	教科の課題 発見・解決学習
一	<p>課題の設定</p> <p>日本遺産のポスターを見て、気付いたことを出し合い、小路について知っていることを出し合う。(1)</p>	<p>このポスターの場所知っているよ。ポスターになるくらい小路は有名なんだな。</p> <p>小路ってどのくらいあるのだろう。</p> <p>地図やインターネットで調べてみよう。</p>	<p>地域の小路に関する学習課題に対して関心をもっている。【主・積】(ワークシート)</p>	
	尾道の小路はどこにどのくらいあるのだろう。			
	<p>情報の収集</p> <p>尾道の小路の場所や名称についてインターネットや本などの資料で調べる。(2)</p>	<p>尾道には、自分が知らなかった小路がたくさんあるな。それぞれに違う名前がついているな。</p>	<p>様々な資料や ICT などを活用し、適切に情報を収集している。【思・判・表】(ワークシート)</p>	
<p>整理・分析</p> <p>調べて分かったことを地図上に整理したり、交流したりする。(2)</p>	<p>他の街と違って尾道には小路がたくさんあることがわかったな。</p>	<p>その場の状況に応じて適切に情報を収集し、目的に応じて整理している。【思・判・表】(ワークシート)</p>		

<p>課題の設定</p> <p>尾道に小路が多い理由や名前の由来などについて疑問をもち、学習課題を設定する。(1)</p>	<p>どうして尾道には小路がたくさんあるのかな。それぞれの小路に名前がついているのは何か理由があるのかな。</p>	<p>地域の小路に関心をもち、進んで学習活動に取り組んでいる。 【主・積】(ワークシート)</p>	
<p>尾道にはどうしてたくさんの小路があるのだろう。 小路の名前にはどんな由来があるのだろう。</p>			
<p>調査計画を立て、分担をしたり、注意点を話し合ったりする。(2)</p> <p>情報の収集</p> <p>現地に行って地域の人にインタビューして調べる。(2)</p> <p>整理・分析</p> <p>情報を収集して分かったことや分からなかったことを整理し、地域の現状について分析する。(2)</p>	<p>小路の名前の由来などは地域の人に聞いてみると分かると思う。実際にインタビューして聞いてみよう。</p> <p>地域の人に聞いてみたけど、小路のことを詳しく知らない人が多いぞ。観光客は小路自体知らない人もいたぞ。</p>	<p>地域の小路に関心をもち、進んで学習活動に取り組んでいる。 【主・積】(ワークシート)</p> <p>その場の状況に応じて適切に情報を収集している。 【思・判・表】(ワークシート)</p> <p>その場の状況に応じて適切に情報を収集し、目的に応じて整理している。 【思・判・表】(ワークシート)</p> <p>地域の小路に関心をもち、進んで学習活動に取り組んでいる。 【主・積】(ワークシート)</p>	<p>国語科 「メモの取り方をくふうして聞こう」(4)で話の内容を確かめながらメモする力</p>
<p>このままでは、尾道の小路を知らない人が増えてしまうぞ！これは問題だ！！</p>			
<p>問題の解決方法を考え、今後の計画を立てる。(1)</p> <p>情報の収集</p> <p>前回の調査で分からなかったことを中心に詳しい人から話を聞く。(2)</p> <p>課題の設定</p> <p>地域の実態から新たな課題を設定する。(1)</p>	<p>尾道の街の特徴である小路をたくさんの人にもっと知ってほしいな。 でも自分達も小路について詳しくない。だれか詳しく知っている人はいないかな。 去年の祭りを調べた時にもお世話になった林さんに聞いてみよう。</p> <p>小路は、寺社と人、海と人をつなぐ道なんだな。名前が付いている小路はやはり理由があったんだな。おもしろい民話もある。</p> <p>このことを地域の人や観光客に広めたい。林さんの願いや思いにも応えたい。</p>	<p>地域の問題に気付いて学習課題を設定している。 【思・判・表】(ワークシート)</p> <p>その場の状況に応じて適切に情報を収集している。 【思・判・表】(ワークシート)</p> <p>地域の小路や歴史を保存したいという地域の人々の願いを大切にしている。【アイデンティティ】(ワークシート)</p>	<p>国語科 「お願いやお礼の手紙を書こう」(4)で目的に合わせて手紙を書く。</p>
<p>地域の人や観光客に小路の名前の由来や歴史について知ってもらうための方法を考えよう。</p>			

三	情報の収集	<p>課題を解決するための方法について情報を集める。(1)</p>	<p>これまで調べてきたことを地域の人や観光客に伝えるには、どんな方法があるかな。これまでの方法は使えないかな。</p>	<p>地域の問題解決のために進んでアイデアを創造し、取り組もうとしている。 【主・積】(ワークシート)</p>	<p>国語科 「広告と説明書を読みくらべよう」(8)で文章を読み比べ、目的に合わせた表現の違いを読み取る力</p>
	整理・分析	<p>解決方法の良さや不足部分を考え、解決方法を整理・分析する。(1) (本時18/29)</p>	<p>ポスターやリーフレットなどいろいろな方法があるけど、それぞれ良さや不足があるな。よりよい方法にするにはどうしたらいいかな。2つの方法を1つにまとめるといいと思う。</p>	<p>その場の状況に応じて適切に情報を収集し、目的に応じて整理している。 【思・判・表】(ワークシート)</p>	
	まとめ・創造・表現	<p>ガイドブックを書く。(4)</p> <p>中間発表会を行う。(2)</p> <p>内容を修正する。(1)</p>	<p>観光客や地域の人に見てもらえるようなガイドブックを作るには、どんな内容をいれたらいいかな。それぞれの小路の名前の由来や歴史は必ず必要だな。</p> <p>読み手の立場に立って修正すると分かりやすいものになるのだな。</p>	<p>伝えたいことを中心に考えて、分かりやすく表現している。【思・判・表】(ワークシート)</p> <p>伝えたいことを中心に考えて表現し、自他の発表を比べながら聞いている。【思・判・表】(ワークシート)</p> <p>他の人の意見も取り入れて自分の考えを改善している。【主・積】(ワークシート)</p>	
	実行	<p>小路ガイドブックを商店街に置いて、地域の人や観光客に見てもらい、尾道の小路を広めよう。</p>			
	ふりかえり	<p>役割を決め、あいさつの練習をする。(1)</p> <p>ガイドブックのお願いに行く。(2)</p>	<p>その場や相手の状況に応じて礼儀正しくあいさつをすることが大切だな。</p>	<p>他の人の意見も取り入れて自分の考えを改善している。 【主・積】(ワークシート)</p>	
		<p>単元で身に付いた力と学び方を振り返り、自分の生き方を考える。(1)</p>	<p>小路の学習をして、名前の由来や小路がある理由など初めて知ったことばかりだった。小路はぼくたちが住む街にはなくてはならないものだと思う。あまり小路については知られていないことがわかったので、これからは僕たちが小路のことを伝えていきたい。</p>	<p>地域の一員として地域の歴史の伝承に貢献することの意義や素晴らしさを感じている。【アイデンティティ】(ワークシート)</p> <p>これからの自分の生き方について考え、生活に生かしたいことを考えている。【主・積】(ワークシート)</p>	

5 本時の展開 (18/29)

(1) 本時の目標

解決方法のよさや不足部分を分析し、目的に応じてよりよい方法にするために建設的に考えることができる。 【思・判・表】

(2) 観点別評価規準

その場の状況に応じて適切に情報を収集し、目的に応じて整理している。 【思・判・表】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆)		評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
	T1	T2	
1 これまでの学習を想起する。	○地域や観光客は小路のことをあまり知らないという現状、地域の小路に詳しい人から聞いた話や小路に対する願いを掲示物を見ながら確認させる。 ○目的を達成するために事前に児童から意見が出た課題解決の方法を確認させる。	○掲示物を見ながら目的を確認させる。(小路の魅力、名前の由来、民話などを地域の人や観光客にもっと広めたい) ○児童の意見を板書する。	自分たちができそうな方法として、ポスター、リーフレット、新聞、パンフレット、スタンプラリーがあった。
2 めあてを設定する。	たくさんの人に小路のことを知ってもらうために伝える方法を考えよう。		
3 見通しを持つ。	○やりたい表現方法を選んだ理由を伝え合って話し合えばよいことを確認する。	○児童から出された意見を板書する。	それぞれの方法の良さを考えて班で話し合えばいいと思う。ぼくはパンフレットならたくさんの人に小路を知ってもらえると思う。
4 自分の考えを持つ。	○ワークシートに選んだ表現方法と理由を書かせる。	◆児童の様子を観察し、状況に応じて個別の支援を行う。	リーフレットは、お店などに置いて地域の人や観光客などたくさんの人に見てもらえることができると思うよ。スタンプラリーならその小路に行ってもらえることができる。
5 グループや全体で話し合う。	◆グループに対して助言をしていく。 ○国語科「広告と説明書を読みくらべよう」の学習を想起させ、伝える目的に立ち返って考えさせる。 ○より自分たちの目的に近付けるためにそれぞれの表現方法のよさを組み合わせるなどの視点に気付かせる。	○選んだ表現方法と理由を交流させ、表現する方法を話し合わせる。 ◆既習事項の想起を支援する。 ◆困っているグループに対して助言をしていく。 ◆児童がそれぞれの方法について話し合った内容を板書をする。	それぞれの方法を組み合わせると1つのものを作れば僕たちの目的が達成できるものが作れると思う。例えば、リーフレットとスタンプラリーを組み合わせよう。
6 振り返る。	○今日話し合ったことを全体で確認させ、建設的に考えるよさに気付かせる。 ○授業の始めと終わりの自分の考えに着目させて、考えが深まったことを書かせる。 ◆「振り返りの型」を見ながら本時の学習で考えが深まったことを書かせる。	◆児童の様子を観察し、状況に応じて個別の支援を行う。	今日は、目的を達成させるためにどんな方法ができるのかを考えました。最初はリーフレットがいいと思っていたけど、リーフレットとスタンプラリーを合わせたものができれば、小路のことを知ってもらえるよりよい方法になることが分かりました。
			その場の状況に応じて適切に情報を収集し、目的に応じて整理している。 【思・判・表】(ワークシート)

いろいろな形の面積を比べてみよう！

「面積」(4年)

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力

1 児童観

本学級は、5年女子1名の知的障害特別支援学級である。

学力に関する実態

本児童は、四則計算については、概ね身に付いており、問題を読んだり、課題や問題をノートに書いたりすることは行える。しかし、問題場面把握が難しく、文章題に対する苦手意識が強い。広さの大小を判断する能力は、日常生活の場面において少しずつ育ってきているが、その概念は必ずしも身につけているとは言えない。形と広さ、長さとの混同が見られ、広さの判断材料として図形の横の長さに着目しやすい。横の長さが同じ長方形と正方形では、縦の長さの短い横長の長方形が広いと捉えてしまう。また、図形を90度回転させた図がイメージしにくいことから、辺の長さが3cm、5cmの長方形を描く場合も横の長さとして3cmを描き、縦の長さが5cmの縦長の長方形を描こうとする。ワークシートが横長の場合は、図形がうまく納まらず、悩んでしまう。ものの長さや距離を表す単位においては、相互の関係をつかむことが難しく、適切な単位が分かりにくい。

資質・能力に関する実態

本児童は、反復練習して暗記したことを問われると発表することができる。しかし、自分にはできないかもしれない、分からないと判断すると学習意欲が低下し、間違えているかもしれないという不安感が強くなり、自分の考えを発表することができなくなることに課題がある。

2 単元について

- 本単元は、次期小学校学習指導要領第4学年の「B 図形」の内容に基づき設定した。次期学習指導要領には、以下のように示されている。

B (1) 平面図形の面積に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 面積の単位(平方センチメートル(cm^2), 平方メートル(m^2), 平方キロメートル(km^2))について知ること。

(イ) 正方形及び長方形の面積の計算による求め方について理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 面積の単位や図形を構成する要素に着目し、図形の面積の求め方を考えるとともに、面積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察すること。

(1) 単元観

本単元では、求積指導の基礎となるもので、児童がこれまでに学習してきた長さやかさ、重さと同じように、広さも、単位面積をもとに、数値化できることを理解させることが主なねらいである。

本単元では、自分が家を購入すると想定させ、より広い家と庭を選ぼうという学習意欲を高める。そのためには、比較方法を考える必要がある。そこで、広さを面積という量としてとらえ、普遍単位を導入して長方形や正方形などの求積ができるようにする。つまり、1辺が1cmの正方形の敷き詰めを考えから、続いて単位面積 1cm^2 を導入する。長方形や正方形の面積は、横の長さだけに着目するのではなく、単位面積のいくつ分として表すことを指導する。求積公式は覚えさせるものというよりも、切って動かしたり、慣れさせたりすることを通して、面積という量を視覚的に捉えさせ、正しく用いられることを定着させたいと設定した。

(2) 指導観

児童の創造性を刺激する家づくりという活動を仕組むことで、楽しみながら意欲的に面積をとらえることができるとともに、今まで広さを比べるには、直接比較を行っていたが直接比較できない場合でも、普遍単位を用いれば、広さを比べることができるというよさを感じさせたい。そのためには、普遍単位の良さを感じさせる必要がある。そこで、面積の違う正方形を使用し、Aの図形は、「正方形の6こ分」Bの図形も「正方形6こ分」正方形の数は同じにもかかわらず、どうして広さが違うのか考え、普遍単位の良さを感じさせたい。

また、本単元では、これまで大まかに捉えていた広さを量として捉えさせる必要がある。そのためにも学習活動において、毎時間、「普遍単位のいくつ分」という考え方を明確に表現させる。複合図形の面積においては、児童がどのように考えたのか確かめながら明示的に指導することで思考力・表現力の資質・能力の向上を図る。

(3) 単元でめざす児童の姿

- 長方形や正方形の面積を公式を使って求めることができる。
- 面積も長さやかさと同じように単位のいくつかで表されることを理解している。(知識及び技能)
- 広さを数値化する方法を考えたり、測定する広さに応じた面積の単位や求め方を考えたりする。(思考力、表現力、判断力)
- 面積の大きさを数値化して表すことよさに気付き、いろいろな形の面積を求めようとする。(主体的に学習に取り組む態度)

3 単元の評価規準

観点	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	長方形や正方形の面積を公式を使って求めている。 面積も長さやかさと同じように単位のいくつかで表されることを理解している。	単位面積を用いて、広さを数値化する方法を考え、図や数、式を用いて表し、正方形や長方形の求積公式を導き出している。	面積の大きさを数値化して表すことよさに気付き、身の回りのいろいろな形の面積を求めようとしている。

4 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本単元では、児童に将来、家と庭を持つとしたらと想定させ、いくつかある物件の中からより広いものを選択するという目的を示すことで、学習の課題に見通しをもたせる。学習活動では、実測による求積を大切に扱い、任意単位での比較からスタートし、普遍単位での比較の良さに気付かせる。面積は、周りの長さでは決まらないことを実例をもって理解させたい。また、複合図形の面積を求める際には、「いろいろな四角形」で学習した既習事項を活かし、複雑に見える図形でもいくつかの図形を組み合わせたものであることを補助線を引いたり、図形を移動させたりすることで気付かせたい。課題解決のために試行錯誤し、自分の考えを振り返らせながら、思考力・表現力を育んでいきたい。

5 指導計画（全11時間）

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準（方法）
一	課題の設定 広さを比べる方法を考える。 長方形、正方形の面積を任意単位を使ってそのいくつかで表す。 面積の単位 cm^2 を知る。(1)	広さを比べるには、どうすればいいんだろう。	広さ比べに興味をもち、進んで調べる方法を見付けようとしている。 【態度】 （行動観察、ノート） 長方形、正方形の面積を任意単位を使って、そのいくつかで考えている。 【思・判・表】 （行動観察、ノート）
	単位面積（ cm^2 ）をもとにして面積を求める。 形や向きを変えても、面積は変わらないことが分かる。(1) (本時2/11)	長方形や正方形と違う形の面積は、切って長方形になるように動かせば、求められるかな。	1cm^2 の正方形の何個分によって面積を求めることができる。 【知・技】 （行動観察、ワークシート） 長方形、正方形以外の図形の面積の求め方を考えている。 【思・判・表】 （行動観察・ワークシート）
	【本質的な問い】 ・広さや面積とは何だろう。 ・どのようにして広さや面積を求めるのだろうか。		

	<p>情報の収集</p> <p>1 c m²のいくつか分から長方形、正方形の面積を速く正確に出せる方法を考える。 公式を使って長方形、正方形の面積を求める。(1)</p>	<p>同じ数ずつ並んでいるものを数えるときには、かけ算を使ったね。</p>	<p>単位となる大きさを基にして、長方形、正方形の面積の公式を考えている。 【思・判・表】(行動観察, ノート)</p>
	<p>面積が同じで形が異なる長方形を考える。 作図を通して面積の意味の理解を深める。 長方形の面積の公式を活用して問題を解く。(1)</p>	<p>12 c m²は、1 c m²の12個分だから、12個の正方形を長方形に並べ替えるといいかな。</p>	<p>同じ面積の長方形をいろいろ考えている。 【思・判・表】(行動観察, ノート) 長方形の面積の公式を使って、面積が分かっている辺の長さを求めることができる。 【知・技】(行動観察, ノート)</p>
	<p>面積の単位m²を知り、面積を求める。 1 m²を単位としていろいろな長方形や正方形の面積を求める。(1)</p>	<p>1 c m²がたと横に何個並べられるかな。</p>	<p>辺の長さが、mで表されている大きな面積の表し方を考えている。 【思・判・表】(行動観察, ノート)</p>
	<p>m²とc m²との単位間の関係を理解する。(1)</p>	<p>辺の長さは、mかcmにそろえないといけないな。</p>	<p>m²とc m²の単位間の相互関係を理解している。 【知・技】(行動観察, ノート)</p>
二	<p>整理・分析</p> <p>複合図形の面積を長方形、正方形の面積の公式を使って求める。 複合図形の面積の求め方について考える。(1)</p>	<p>面積は、切って移動させても変わらないから、L字型を長方形に変えよう。</p>	<p>L字型の面積を既習の公式を使って求めている 【思・判・表】(行動観察, ノート)</p>
二	<p>面積の単位k m²を知り、面積を求める。 m²とk m²との単位間の関係を理解する。(1)</p>	<p>1 k m²は1 m²のいくつ分と考えられるかな。</p>	<p>辺の長さがk mで表されている大きな面積の表し方を考えている。 【思・判・表】(行動観察, ノート)</p>
	<p>面積の単位a, haを知り、面積を求める。 aとhaの単位間の関係を理解する。(1)</p>	<p>1 aは、1辺の長さが10 mで1 haの1辺の長さは、100 mだから、1 m²のいくつ分になるかな。</p>	<p>a, haで表されている大きな面積の表し方を考えている。 【思・判・表】(行動観察, ノート)</p>
三	<p>まとめ・創造・表現</p> <p>既習事項の確かめをする。(1)</p>	<p>いろいろな形の面積を求めることができるようになったよ。</p>	<p>面積について単位と測定の意味を理解している。 【知・技】(行動観察, ノート)</p>
四	<p>実行 ふりかえり</p> <p>家と庭の面積を求め、より広い物件を選ぶ。(1)</p>	<p>一番面積が広い物件を選ぶよ。</p>	<p>既習事項の理解を深めている。 【知・技】(行動観察, ノート)</p>

6 本時の展開 (2 / 11 時間)

(1) 本時の目標

単位面積 (c m²) をもとにして面積を求める。

【知・技】

正方形・長方形以外の図形の面積の求め方を考える。

【思・判・表】

(2) 観点別評価規準

1 c m²の正方形の何個分によって面積を求めている。
 正方形・長方形以外の図形の面積を求める方法を考えている。

【知・技】
 【思・判・表】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
1 本時の学習課題をつかむ。	○ 学習活動を提示し、めあてと本時の活動を明確にする。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> いろいろな図形の面積の求め方を考えよう。 </div>		
2 1 c m ² の正方形のいくつかを考え、面積を求める。 ・長方形 ・長方形を組み合わせた図形	○ 単位面積である1 c m ² の正方形が何個分であることを捉えさせる。 ◆ 形が凸凹していても1 c m ² の正方形を敷き詰めれば面積が分かることを視覚的に示す。	1 c m ² の正方形の何個分によって面積を求めることができる。 【知・技】(行動観察, ワークシート) <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 1 c m²の正方形が12個分だから、12 c m²です。 </div>
3 台形の面積の求め方を考える。	○ どのように等積変形するのか考えさせる。 ◆ 補助線を引き、実際に回転移動することにより形や方向を変えても面積は求められることに気付かせる。	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> どうしよう。この形は1 c m²の正方形が、ぴったり敷き詰められないな。 </div>
4 適用題を解く。	○ これまでの考え方をもとにして面積の求め方を考えさせる。 ◆ 以下の方法で考えさせる。 ① 1 c m ² の正方形がぴったりと敷き詰められるか。 ② 切り取って、移動させ長方形や長方形を組み合わせた図形にしてみる。 ③ 1 c m ² の正方形が何個分か数える。	長方形、正方形以外の図形の面積の求め方を考えている。 【思・判・表】(行動観察, ワークシート) <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> そうか。ここの部分をここへ移動させたら、面積が求められるかもしれない。 </div>
5 まとめをする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 長方形や正方形の形に変えれば面積は求められる。 </div> ○ ささまざまな形の面積を求めるためには、どうすればよいか自分の言葉でまとめさせる。 ◆ まとめの言葉は、穴埋め式にしておく。 ◆ 頑張っていたところを評価し、次時へ向けての意欲をもたせる。	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 1 c m²の正方形が敷き詰められなかったら、切って長方形にすれば面積が求められる。 </div>

さくら cafe を開こう！～割引価格を考えよう～ 『割合とグラフ』(5年)

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力

1 児童観

本学級は、6年男子1名の自閉症・情緒障害特別支援学級である。

学力に関する実態

本児は、語彙が少なく言葉で説明することが苦手である。普段の学習では教師が聞き返したり、ほかの言葉に言い換えたりして理解の定着を図っている。繰り下がりのある(2位数)÷(1位数)の計算では、5分間に自力で50問程度解けるようになってきた。これまでの学習では、数と計算領域において数直線を活用させ、式を考えさせた。単位量当たりの大きさの学習では数直線を正しく使い、1あたりの量を考えることができていた。数直線図に表すことで、小数倍や小数で割ることができた。複数の事例を関連させて論理展開をすることが苦手であるため、教師が児童の説明を補助したり、板書に整理したりしている。

資質・能力に関する実態

本学級の児童は、分かっていることやできることに対しては意欲的に取り組むことができる。しかし、未知の内容に取り組むことになると、不安が高まり主体的に取り組めなくなる傾向がある。また、作業完成を急ぐあまり、活動の内容がおろそかになりがちである。

全体的に、粘り強く取り組んだり、よりよい手法を考えたりしながら学習に取り組むことが難しいという実態が見られる。これまでの学習では、既習事項を振り返り、活用しながら学習に取り組んできた。教師が思考を整理したり、視覚化したりすることで深く思考することができる。

2 単元について

- 本単元は、次期小学校学習指導要領第5学年の「C 変化と関係」「D データの活用」の内容に基づき設定した。次期小学校学習指導要領には、以下のように示されている。

- C (3) 二つの数量の関係に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を比べる場合に割合を用いる場合があることを理解すること。
- (イ) 百分率を用いた表し方を理解し、割合などを求めること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を比べる方を考察し、それを日常生活に生かすこと。
- D (1) データの収集とその分析に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 円グラフや帯グラフの特徴とそれらの用い方を理解すること。
- (イ) データの収集や適切な手法の選択など統計的な問題解決の方法を知ること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択して判断し、その結論について多面的に捉え考察すること。

(1) 単元観

本単元で学習する「割合」という見方は、2つの数量があるとき、一方を1とすると他方はどれくらいかという見方である。本単元では2つの数量をもとにする量、比べられる量として捉えさせ、割合を考えさせる。また、2つの数量で、割合が1をこえる場合、もとにする量を1とする見方、100とする見方(百分率)を関連付けて学習を進めていく。歩合についても、その表し方を理解させる。

割合の見方の理解を深めることと同時に、ほかの単元や領域の内容をよりよく理解していくために役立てていく。本単元で数理的な処理のよさ(簡潔・明瞭・的確さ)を味わいながら利用・活用させていく。



(2) 指導観

本単元では、「喫茶店を開こう」という学習課題を設定し、学習を進める。店の込み具合、品物の割引の値段、ジュースの分量の割合など学習課題に絡めて問題を提示し、児童が抵抗感を感じず、学習できるようにする。

実際の指導においては、児童が何を求めるのかわからなくなることが想定される。そのため、問題場面では聞かれていることは何か、もとにする量、比べる量、割合はどれかを明らかにさせる。

問題解決の際には、数直線図を活用させる。これは効果的に数処理を行うのみでなく、児童が繰り返し数直線図に表すことで、もとにする量、比べる量、割合を正確に把握させるとともに、立式の根拠を説明するための一助とする。また、学習内容をモジュール学習と関連させることで習熟を図っていく。

本単元において2つの数量の関係を、割合を用いて考えたり、グラフに表したりする活動を通して、割合の見方の理解を深め、日常生活の中にある数に生かしていくようにする。

3 単元でめざす児童像

- 身の回りにある割合に関心を持ち、進んで学習に取り組もうとする。（主体的に学習に取り組む態度）
- 2つの数量のうち、片方を1としてもう片方の量を考えることができる。（思考力、判断力、表現力等）

4 単元の評価規準

観点	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	割合の意味と表し方円グラフや、帯グラフの読み方、かき方を理解している。 割合、もとにする量、比べる量を正しく求め、必要に応じてグラフに表すことができる。	割合でとらえられる同種の2つの数量の関係を図や式を用いて表現し、考えている。また、資料の全体や部分の関係を調べ、特徴を考えている。	身の回りで割合が使われる場面を理解し、百分率や歩合を用いることの良さに気付いている。

5 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本単元では、割合を考えさせる際に基準量、比較量を児童に明確に意識させたり、もとにする量に対して比べられる量の大きさを比較させたりすることで割合をイメージしやすくさせる。また、割合の問題を解く際には、数直線図を活用させることで割合を考える一助となるようにする。

以上の活動を、単元を通して繰り返し行うことで、児童が思考の仕方を理解し、図を用いて説明したり、理由を説明したりする思考力・表現力を育成していく。

6 指導計画（全10時間）

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準（評価方法）
一	こみ具合を、割合を使って表す。 (2) 課題の設定 2つの量の割合を求める活動を通して、実生活の中にある割合を想起させ、学習課題や解決の見通しをもたせる。 (1)	普通の生活の中にも、割合に関係する事柄があるな。○割引とか、○%はどういう意味だろう。	割合の意味を理解している。 【知・技】（行動観察） 身の回りで割合が使われる場面を理解している。 【態度】（行動観察）
【本質的な問い】 基準量、比較量、割合は日常生活に、どのように生かされているのか。			
二	情報の収集 整理・分析 百分率と歩合、もとにする量、比べられる量の求め方について考える。 ・百分率と歩合。 (2) ・比べられる量を求める。 (1) (本時6/10) ・もとにする量を求める。 (1) 割合をグラフに表し、処理の良さについて考える。 ・割合をグラフに表す。 (1)	問われていることが何かはつきりさせないといけないね。 数直線図に表すことで答えが求めやすくなるよ。	百分率を使って割合を表すことができる。 【知・技】（行動観察・ノート） 比べられる量・もとにする量・割合を求めたり、割合をグラフに表したりできる。 【知・技】（ノート） 割合でとらえられる同種の2つの数量の関係を図や式を用いて表現し、考

三	まとめ・創造・表現 割合を活用して、喫茶店のメニューの値段を設定する。(1)	これまでの学習を生かして、 ○割引の値段を設定してみよう。	えている。また、資料の全体や部分の関係を調べ、特徴を考えている 【思・判・表】(行動観察・ノート)
四	実行 ふりかえり ・「Café さくら」をオープンし、すみれ・たんぽぽ学級の友達を招待する。(1)	割合の学習を生かして、正しい値段でお店ができたよ。	百分率や歩合を用いることの良さに気付いている。 【態度】(行動観察)

7 本時の展開 (6/10時間)

(1) 本時の目標

比べられる量の求め方を、考えることができる。

【思・判・表】

(2) 観点別評価規準

2つの数量の関係を図や式を用いて表現し、比べられる量を考えている。

【思・判・表】

比べられる量を、正しく求めることができる。

【知・技】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
1 問題に出会う。	○ 調合を失敗したカルピスを提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">おいしいカルピスを作るための分量を求めて、完成させよう！</div>	
2 本時の流れと課題の確認をする。	○ 問題文からわかることに線を引かせる。(もとにする量, 割合) ○ 比べられる量を求めることが、本時の課題であることをつかむ。 ◆ 児童の発言が難しいときは基準量, 比較量, 割合を提示する。	今日は比べられる量を求めるぞ。
3 自力解決する。 ・数直線を使い、立式をする。	○ 原液の量と水の量を求めること、水のほうが、量が多くなることを確認する。 ○ 問題場面を数直線図に表現させ、立式させる。 ◆ 自力解決が難しい場合は、数直線図に数値を正しく記述できるよう支援する。 ◆ 百分率を割合に直して、考えさせる。 ◆ 原液の量と水の量を足して、もとにする量になるかを確認させる。	数直線を使うと、式が分かったよ。
4 まとめる。	○ 実際に原液と水を計量させ、カルピスを作る。 ○ 最後までやりきる態度を大いに褒めて評価する。 ○ 比べられる量はもとにする量に割合を掛ければよいことをまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">もとにする量×割合で分量が分かった。</div>	原液の量と水の量を足したら 200 mL になったぞ。
5 振り返りをする。	◆ 本時の内容を生かして、図、言葉、数直線に表現させ、それぞれを相関図にまとめさせることで、理解の定着を図る。 ○ これからの目標やできるようになったこと、授業の前後を比べて、自分の考えや気持ちの変化を書かせるようにする。 ◆ 話型「授業の始めは～だったが、今は～だ。」を示し、自分の変容を書かせる。	図や式を用いて数量関係を正しく表現し、考えている。 【思・判・表】(ノート) 比べられる量を正しく求めている。 【知・技】(ノート)
		おいしいカルピスができたぞ。

単元名

「ひきさん(2)」～「ひきさんむかしばなし」のたびに出よう！～

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力 自分への自信

1 児童観

本学級は、1年女子1名と3年女子1名の計2名の難聴障害特別支援学級である。

学力に関する実態

本学級の児童は、これまでに、身のまわりの物の数を捉えたり、具体物を半具体物に置き換えて数えたりする活動を通して、数に関する理解を深めてきた。

「たしざん(1)」「ひきざん(1)」の学習では、ブロックを合わせたり、離したりする活動を取り入れながら学習を進めてきたので、念頭操作で計算できるようになってきている。

問題文を正しく読み、減法への関心も高く、減法計算については正確に解答ができています。しかし、求残や求差などの違いを理解し、計算を進めていくことには難しさを感じている。

資質・能力に関する実態

これまで数の把握や繰り上がりのない加法・減法の計算において、ブロック操作を行ってきている。そのため、ブロック操作については、抵抗なく行えるようになってきている。

自分の考えを言葉や図を用いて、ノートを使って表現することもできるようになってきた。また、操作したことや、自分のノートに表したものを、黒板に表記し言葉を使って分かりやすく説明することもできるようになってきている。しかし、一つの考えを活用して考えを深めたり、他の問題に応用させたりしていくことには、まだ抵抗を感じている。

2 単元について

- 本単元は、次期小学校学習指導要領第1学年及び第2学年の「A 数と計算」の内容に基づき設定した。学習指導要領では、以下のように示されている。

A (2) 加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 加法及び減法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知ること。

(イ) 加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。

(ウ) 簡単な場合について、2位数などについても加法及び減法ができることを知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

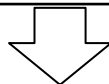
(ウ) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすること。

(1) 単元観

本単元では、繰り上がりのあるたし算と構成・内容ともに「10のまとまり」をもとに考えるという点において共通していることから、常に既習学習である「10のまとまり」を意識しながら考えていくことが大切である。

本単元の導入では、ブロックを用いて答えを求めるのに、一つ一つ数えて引くことの大変さに目を向けさせ、まとめて引く方法を考えさせる。ブロックの操作を通して、被減数を10といくつに分け、10のまとまりから引くことを操作と図や式を関連させて考えさせる。

繰り下がりのある減法の考え方には、減加法と減々法の2つがある。双方を扱い、計算の考え方は1つではないことに気付かせ、問題に応じて解決方法を柔軟に選択する素地的な経験をさせる。本単元では、導入段階で、計算の仕方を自由に考えさせ、ブロック操作を十分に行っていく。そして、2年生の減法の筆算の場面にも連動することが多い考え方である減加法の理解の定着を確実にし、理解できるように指導していきたい。また、ブロック操作だけではなく、図に表したり、言葉で表現する活動など多様な算数的活動を通して、一連の計算の手順を児童自らが導き出していけるようにする。実際にブロックや図を使い考えながら捉えることができるようにしたい。



(2) 指導観

本単元では、10のまとまりを考えながら、減法に取り組めるように、既習学習を生かしていく。そのためにも、導入では、既習の「ひきざん(1)」や「10より大きいかず」の復習を随所で取り入れていきたいと考えている。

国語の「むかしばなしを たのしもう」で学習したお話を問題提示場面で使うことで学習を連動させて、児童が楽しみなら「ひきざん(2)」の学習をすすめていけるようにする。

減加法や減々法での考えを通して、計算しやすい方法を見付け、自分なりに使えるように操作活動や説明させる場面を多く取り入れていきたい。

減々法は、なかなか考え付かないことが予想できるので、意図的にこちらから提示することで理解を深め、減加法と比較して考えていくことができるようにしていく。また、問題文から求残・求差についても理解を深めていくことができるようにしたい。

自力解決の場では、ブロックを操作したり、言葉で表現させて、自分で考えたことが視覚的に分かるようにする。自分の考えを書き表すことによって、自分の考えを整理し、深めていくことの手立てとしたい。発表経験をさせることにより、自己肯定感を高めていきたい。また、算数科における思考力を育成するために自分の言葉で説明する言語活動を、積極的に取り入れていく。

減加法と減々法を学習した後、それぞれの方法を実際の計算にどのようにして生かすか考えられるように指導を展開する。

(3) 単元でめざす児童の姿

- 10のまとまりに着目しながら、減加法や減々法を問題場面に合わせて使いながら考えることができる。
(知識及び技能)
- 繰り下がりのある減法の計算の仕方を具体物や言葉、式、図を用いて考え、表現することができる。
(思考力、判断力、表現力等)

3 単元の評価規準

観点	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	(十何) - (1位数)の減法で、10のまとまりに着目することで、繰り下がりのある計算の意味やその方法を理解している。 (十何) - (1位数)の減法で、繰り下がりのある計算が正しくできる。	繰り下がりのある減法の計算の仕方を、半具体物や言葉、式、図を用いて考えており、問題場面にあった方法で計算できている。	日常生活の中から減法が用いられている場面について考え、式に表したり、問題づくりをしたりしている。

4 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本単元において、具体物を使って問題場面を正確に理解し、それを基にして、図、式などと対応させる。繰り下がりのある場合の減法の計算の仕方を考え、その計算が確実にできる力の育成を目指す。また、減加法や減々法を問題場面に合わせて使いながら計算し、半具体物や言葉を用いながら、自分の考えを積極的に、周囲に伝え、思考力・表現力の育成を目指す。これらの力が、総合的に自己肯定感を高めていくことにつながっていくことをねらいとする。

5 指導計画 (全11時間)

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)
一	<p>課題の設定</p> <p>減法の用いられている場面であることに気づき、既習学習のひきざん(1)と比べながら、具体的にどこが違うのかを見付け、計算の方法について考える。</p> <p>減法の用いられる場面(求残場面)から、繰り下がりのある減法の計算の仕方を考える。(1)</p>	<p>こういうときは、引き算を使うんだったなあ。</p>	<p>問題場面が、減法(求残)であることに気付くことができる。</p> <p>【知・技】(行動観察) 既習事項を生かし、10のまとまりを意識しながら、様々な方法で減法を考えることができる。</p> <p>【思・判・表】(ノート)</p>
	<p>【本質的な問い】一の位どうして引けない引き算はどうやって計算するのだろう。</p>		

	<p>情報の収集</p> <p>減加法による計算の仕方を、具体物を操作しながら説明する。(1)</p> <p>減加法を使って繰り下がりのある減法、減々法の計算の仕方を考える。</p> <p>減々法を使って繰り下がりのある減法の計算をする。(1)</p>	<p>整理・分析</p> <p>足し算でやったように、ブロックを使ってやっただけならいいなあ。</p> <p>足し算は、10のまとまりをつかった。だから、引き算も、10のまとまりに注目するんだな。</p>	<p>減加法の方法が正確に理解でき、数え引きではなく、減加法をもとに、計算できる。</p> <p>【知・技】(ノート)</p> <p>減々法について減加法との相違点に気がつき、減々法を用いて計算することができる。</p> <p>【思・判・表】(ノート)</p>
	<p>繰り下がりのある減法について、問題場面に応じた計算の仕方、問題を解く。(1)</p>	<p>10のまとまりを作る練習をいっぱいしたら、速く計算できるんだな。</p>	<p>問題場面を考え、減加法と減々法のどちらを使うとより速く簡単に計算できるか考え、計算することができる。</p> <p>【思・判・表】(ノート)</p>
	<p>減法の用いられている場面が、これまでとは違う求差になっていることに、気が付き、どこが違うのか考えながら計算する。(1)</p>	<p>「ちがひ」を答えるときも、引き算を使えばいいんだな。</p>	<p>既習の求残の場面とどこが違うのか問題場面からしっかり読み取りながら、立式し計算することができる。</p> <p>【思・判・表】(発表)</p>
	<p>減法の問題作りの活動を通して、減法の意味や方法について考えを深め、式から問題場面を考える。(1)</p>	<p>問題を作るのは、足し算でやったから、今度は引き算の問題を考えたらいいんだな。</p>	<p>減法が用いられる場面を考え、式にあった問題場面を想像し、作成することができる。</p> <p>【態度】(ノート)</p>
二	<p>ひきざんカードの作成やひきざん絵本を作成する。</p> <p>ひきざんカードを用いて、繰り下がりのある減法の計算の練習を行う。</p> <p>ひきざんカードから、被減数と減数の関係に気付く。(3)</p>	<p>まだ、計算するのに時間はかかるけれど、がんばったら速くできそう。</p>	<p>繰り下がりのある減法を、速く正確に答えを出すことができる。</p> <p>【知・技】(行動観察)</p>
三	<p>まとめ・表現</p> <p>文を見て、文章題の意味を正しくとらえ、立式する。(1)(本時10/11)</p>	<p>数字が3つ出てきたときは、どの数字を使うか、問題をよく読まないといけないんだな。</p>	<p>繰り下がりのある減法の計算の仕方を、半具体物や言葉、式、図を用いて考えており、問題場面にあった方法で計算できている。</p> <p>【思・判・表】(行動観察・プリント)</p>
四	<p>ふりかえり</p> <p>既習事項の振り返りをし、減法を速く・簡単に・正確にできるようになる。(1)</p>	<p>引き算も、始めは難しいと思ったけれど、上手にできるようになったよ。</p>	<p>繰り下がりのある減法の問題場面を整理し(求残・求差・求補)、読み取りながら正しく立式することができる。</p> <p>【思・判・表】(ノート・プリント)</p>

6 本時の展開 (10/11時間)

(1) 本時の目標

文章題の意味を正しくとらえ、立式する。

【思・判・表】

(2) 観点別評価規準

○ 繰り下がりのある減法の計算の仕方を、半具体物や言葉、式、図を用いて考えており、問題場面にあった方法で計算できている。

【思・判・表】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
1 本時の学習課題をつかむ。	○ 学習活動を提示し、めあてと本時の活動を明確にする。	
2 12-6になるかを考える。 ① 足し算 ② 3つの数字 ③ 引き算	<div data-bbox="292 322 1074 387" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">12-6のしきになるもんだいはどれでしょうか。</div> ○ 3つの問題を、一つずつ検証させる。式を書き答えを出し、その理由も考えさせる。 ○ 「あわせて」「のこりは」「ちがいは」に着目させ、考えさせる。 ◆ これまで、3つの数字のある問題をしたことがないので、動揺するかもしれないので、「どの数字が、必要な。」と声をかけて、考えさせる。 ◆ ガムの残りを求めるのに、6人という数は関係ないことに気付かせる。	繰り下がりのある減法の計算の仕方を、半具体物や言葉、式、図を用いて考えており、問題場面にあった方法で計算できている。 【考え方】 (行動観察・ノート) <div data-bbox="1074 629 1385 725" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">「あわせて」だから、これは足し算。</div> <div data-bbox="1074 757 1385 853" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;">どうしよう。3つ数字がある。どれを使うのかな。</div>
3 立式とその根拠を説明する。	○ ブロック操作を交え、発表させる。 ○ 「はじめに」「つぎに」「さいごに」の言葉を使って、説明させる。 ◆ 3つの数字の中で、必要なものと必要でないものの理由を明確に発表させる。	
4 適用題を解く。	<div data-bbox="395 987 1082 1052" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">12-3のしきになるもんだいはどれでしょう。</div> ① 「おじいさんは12個あったおむすびを、3個ネズミにあげました。のこりのおにぎりは、何個でしょうか？」 ② 「桃太郎は、12個あったきびだんごを、犬、サル、キジの3匹に全部で9個あげました。残りは何個でしょう。」 ③ 「サルは、木になっている柿を12個食べました。カニは、3個食べました。あわせて何個食べたでしょうか。」 ○ ブロック操作をさせる。 ○ 考えた計算の仕方を教科書P90の①～④の文章で表し、黒板に書き、発表させる。 ○ 足し算のときにしたように、10のまとまりとばらで考えさせる。 ◆ 緊張して考えられないことも予想されるので、一緒に問題文を読むことも、視野に入れておく。 <div data-bbox="280 1621 1102 1686" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">足し算と引き算になる言葉とどの数字を使うかの2つに気を付ける。</div>	繰り下がりのある減法の計算の仕方を、半具体物や言葉、式、図を用いて考えており、問題場面にあった方法で計算できている。 【思・判・表】 (行動観察・プリント) <div data-bbox="1034 1227 1385 1429" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">数字が、3つあってももう大丈夫。さっきと同じように考えればいいな。</div> <div data-bbox="1114 1458 1393 1742" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;">「あわせて」「のこりは」「ちがいは」に気を付けて読んでいけば、問題をスラスラすることができる。繰り上がりの引き算もそんなに難しくない。</div>
5 まとめをする。	○ どんな問題になるかを考えるには、どうすればよいのか自分の言葉でまとめさせる。 ◆ 自分の言葉でまとめられないときは、まとめの言葉を穴埋め式にしたものを、準備しておく。 ◆ 頑張っていたところを評価し、次時へ向けての意欲を持たせる。	

「三角形」～「パズル」完成させよう！～

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力 自分への自信

1 児童観

本学級は、1年女子1名、3年女子1名の計2名の難聴障害特別支援学級である。

学力に関する実態

本児童は、足し算引き算については、概ね身に付いているが、一桁の計算でも指を使うことがある。筆算の際の繰り上がりをきちんとメモすることは定着しており、喜んで計算に取り組む。しかし、文字を丁寧に書かないので、それゆえの計算ミスもある。かけ算九九は、難聴児童ゆえの聞き間違いで4や7の九九に間違いが多い。3の段や4の段でも間違えることもあるため、計算問題全般に苦手意識が強い。また、思考力を必要とする問題も厳しい側面がある。

資質・能力に関する実態

本児童は、豊かな発想力を持っている。補聴器が故障し、全く聞こえなくなった状況でも、折り紙をしながら気持ちを落ち着かせ、級友や先生を楽しませ、雰囲気明るくしようとするたくましさやユニークなアイデアを生み出す力を持っている。造形活動が大好きで、視覚的な学習活動が得意である。しかし、こだわりが強くやりたいことは積極的に取り組むが、嫌なことはやろうとしない一面があり、じっくり取り組むことや反復練習を苦手としている。自信のもてることであると、生き生きと発表することはできる。

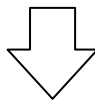
2 単元について

○ 本単元は、次期小学校学習指導要領第3学年の「B 図形」の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のよう示されている。

- C (3) 図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (7) 二等辺三角形、正三角形などについて知り、作図などを通してそれらの関係に次第に着目すること。
- (4) 基本的な図形と関連して角について知ること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (7) 図形を構成する要素に着目し、構成の仕方を考えるときともに、図形の性質を見だし、身の回りのものの形を図形として捉えること。

本単元では、図形の構成要素である辺の長さに着目しながら、三角形を分類する。その活動により、二辺の長さが等しい三角形や三辺の長さが等しい三角形があることに気付き、それらが二等辺三角形、正三角形であることを理解していく。次に、二等辺三角形や正三角形のかき方や作り方を考えたり、それらを説明したりすることで、二等辺三角形や正三角形についての理解をさらに深めることができる。また、二つの角を重ね、角の大きさを比べる活動を通して、図形の構成要素としての「角」について理解し、さらに、合同な二等辺三角形や正三角形を敷き詰める活動を通して、平面図形の広がりや美しさに気付き、図形についての見方や感覚を豊かにすることができる。

この学年で培われた図形の構成要素やその関係に着目する見方や考え方は、図形の構成要素である平行や垂直の関係に着目しながら、平行四辺形やひし形などについて理解する第4学年の学習につながっていくと考える。



(2) 指導観

これまで児童は、算数セットの中のパズルを一人で自力解決してきたがまだ完成していない。パズルを全部完成させることを楽しみにしている。

本単元は、児童の未完成のパズルを早く完成させたいという思いに応える学習内容である。そのため、児童が進んでやりたいと思える授業になるだろうと予想される。また、この単元では、平面図形の広がりや図形の美しさを感じたりすることもねらいとしているため、本児童の得意とする図形操作を取り入れて指導していく。大好きな折り紙や、図形を見ての視覚的な弁別、コンパスで描いたり、二等辺三角形や正三角形を作ったり、敷き詰めたりする活動を行い、学習の楽しさを持続させながら、主体的に活動させたい。

(3) 単元でめざす児童の姿

- 二等辺三角形や正三角形の特徴が分かる。
- 図形を弁別したり、描いたり、作ったり、敷き詰めたりすることができる。 (知識及び技能)
- 三角形について分類し、図形ごとの特徴を見出している。 (思考力、判断力、表現力等)
- いろいろな三角形を調べたり、作図したりしようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)

3 単元の評価規準

観点	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	二等辺三角形、正三角形の定義・特徴や図形としての角の意味を理解している。また、図形についての豊かな感覚をもっている。 三角形の辺の長さに着目して、ストローなどで三角形を構成したり、コンパスや定規で作図したりできる。	三角形について違いに気付き分類し、分類した図形ごとの特徴を見出している。	三角形に関心をもつとともに、身の回りから三角形を探したり、進んで調べたり、比べたりしようとする。

4 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本単元では、完成していない算数セットのパズルを完成させるために、三角形の性質を学習するという見通しをもたせる。折り紙を切る、合わせる等大好きな図工の学習活動を取り入れ、得意とする視覚的な学習活動を中心に、楽しみながら三角形の学習を進めさせる。これらの活動を通して、共通点や相違点を見つけながら検討するという思考力や、自分の言葉で考えをまとめ説明する表現力の育成を目指す。

5 指導計画 (全13時間)

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)
一	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;">課題の設定</div> <p>長さの異なる4種類の色ストローで様々な三角形を作る 作った三角形を比べ、落ちや重なりを調べ、似ている形を探し分類する。(1)</p>	<p>いろいろな三角形があるけれど、いくつかの仲間にわけられるんだろう。</p>	<p>いろいろな三角形を作ろうとしている。 【態度】(行動観察)</p>
	【本質的な問い】 三角形の分け方について調べてみよう。		
	<p>ストローの長さを観点とした場合の分類のしかたを考え、その仲間を決める。 三角形をつるしたときの下の辺の傾きによる分類のしかたを考え、その仲間を決める。(1)</p>	<p>つるす仲間分けが、おもしろいなあ。 どんなふうにつりさげられるかな。</p>	<p>三角形について分類し、分類した観点や分類した図形ごとに特徴を見出している。 【思・判・表】(ノート)</p>

	<p>情報の収集</p> <p>互いの分類のしかたを確かめ合い、2辺が同じ三角形、3辺が同じ三角形の特徴を考える。</p> <p>2つの観点による仲間分けの結果が同じになることが分かる。(1)</p>	<p>整理・分析</p> <p>辺の長さで分けられそう。</p>	<p>2つの分類が同じ結果になることを見出している。</p> <p>【思・判・表】(発表)</p>
	<p>二等辺三角形を紙に写し取って、辺の長さを調べ、二等辺三角形の定義を知る。</p> <p>三角形の中から、二等辺三角形を選ぶ。</p> <p>身近な生活の中から、二等辺三角形が使われているものを探す。(1)</p>	<p>二つの辺の長さが同じ三角形の仲間があるんだ。</p>	<p>三角形を折ったり、測ったりして性質を見いだしている。</p> <p>【知・技】(行動観察)</p> <p>二等辺三角形の定義や特徴を理解している。</p> <p>【知・技】(ノート)</p>
	<p>二等辺三角形と同じようにして、正三角形の辺の長さを調べ、正三角形の定義を知る。</p> <p>三角形の中から、正三角形を選ぶ。</p> <p>三角定規を用いて、二等辺三角形や正三角形を作る。(1)</p>	<p>3つの辺の長さが同じ三角形もあることが分かった。</p>	<p>三角形を折ったり、測ったりして性質を見いだしている。</p> <p>【知・技】(行動観察)</p> <p>二等辺三角形の定義や性質を理解している。</p> <p>【態度】(ノート)</p>
二	<p>与えられた長さを用いて、二等辺三角形をかく方法を考える。</p> <p>二等辺三角形の作図の練習をする。(1)</p>	<p>コンパスを使うと、二等辺三角形がうまくかけるなあ。</p>	<p>二等辺三角形を、コンパスを使ってかくことができる。</p> <p>【知・技】(行動観察)</p>
	<p>二等辺三角形のかき方をもとに、正三角形のかき方を考えノートにまとめる。</p> <p>円の半径を使った正三角形のかき方を考え、説明する。(1)</p>	<p>下になる辺と同じ長さにして二等辺三角形をかくと、正三角形になることが分かった。</p>	<p>正三角形を、コンパスを使ってかくことができる。</p> <p>【知・技】(ノート)</p>
	<p>折り紙を折ったり、切ったりして二等辺三角形や正三角形を作り、重ねてその特徴を考える。</p> <p>正三角形の作図をする。(1)</p>	<p>コンパスでかくのと同じように、下になる辺と同じ長さにして折ればいいんだな。</p>	<p>折り紙で二等辺三角形や正三角形を作る作り方を、定義をもとに考えている。</p> <p>【思・判・表】(ノート)</p>
三	<p>三角定規の角を写し取り、重ねてその大きさを比べる。</p> <p>角の定義と、角・頂点・辺・角の大きさの用語を知る。(1)</p>	<p>分かりやすい言葉があるので、説明しやすくなったなあ。</p>	<p>角の定義と、角・頂点・辺・角の大きさの用語を理解している。</p> <p>【思・判・表】(ノート)</p>
	<p>まとめ・表現</p> <p>二等辺三角形、正三角形の角の大きさの関係を調べる。</p> <p>二等辺三角形、正三角形の性質を、角の大きさの関係からまとめる。</p> <p>三角定規を2枚使って、既習の三角形、四角形の形を作る。(1)(本時10/13)</p>	<p>二つの角の大きさも同じだった。</p> <p>正三角形は、3つ角が同じだった。</p>	<p>二等辺三角形、正三角形について、角の性質を理解している。</p> <p>【知・技】(ノート)</p>
	<p>ふりかえり</p> <p>同じ大きさの二等辺三角形や正三角形の特徴を生かして、いろいろな形を考える。</p> <p>身の回りの中から、模様を探してみる。(1)</p>	<p>正三角形は、集めても正三角形ができるんだな。</p> <p>よく探すと、いろんなところに正三角形の形があることが分かった。</p>	<p>二等辺三角形や正三角形を敷き詰めて、きれいな模様を作ろうとしている。</p> <p>【態度】(行動観察)</p>
四	<p>既習事項の理解を深める。(1)</p>		<p>二等辺三角形、正三角形の定義・特徴や図形としての角の意味を理解している。また、図形についての豊かな感覚をもっている。</p> <p>【知・技】(プリント)</p>
	<p>既習事項の確かめをする。(1)</p>		<p>二等辺三角形、正三角形の定義・特徴や図形としての角の意味を理解している。また、図形についての豊かな感覚をもっている。</p> <p>【知・技】(プリント)</p>

6 本時の展開

(1) 本時の目標

三角形の3つの角を紙に写し取って角の大きさを比べ、二等辺三角形や正三角形の角の特徴を調べる。 【知・技】

(2) 観点別評価規準

二等辺三角形や正三角形について、角の性質を理解している。

【知・技】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点（・） 配慮を要する児童への支援（◆）	評価規準（評価方法） 教科の指導事項（○）
1 課題をつかみ、 予想を立てる。	○ 学習活動を提示し、めあてと本時の活動を明確にする。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 三角形の 角の大きさを 比べてみよう。 </div>		
2 課題解決の見通しを持つ。	○ これまでの学習を振り返りながら、予想をたてる。	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;"> なんとなく、わかるなあ。 折り紙みたいに、折ってみるといいかも。 </div>
3 自力解決をする。	○ 二等辺三角形や正三角形の特徴の理解を、確かなものにするために見通しをもたせる。	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;"> まず、二等辺三角形を作ってみよう。 </div>
3 自力解決をする。	① 二等辺三角形を紙にかいて切り抜き、①の角と⑦の角の大きさをくらべましょう。 ②⑦の角と①の角の大きさをくらべましょう。 ③正三角形を、紙にかいて切り抜き、①の角と⑨の角の大きさをくらべましょう。 ④⑨の角と①の角の大きさをくらべましょう。	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;"> ⑦の角と①の角の大きさをくらべるのはどうやったらいいのかな。 </div>
3 自力解決をする。	◆ 角をきちんと合わせることの必要性を、試行錯誤させながら気づかせる。	
3 自力解決をする。	◆ 二等辺三角形の⑦の角と①の角は、比べる方法を思い浮かべないときは、教師がやり方を示し思考させる。	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;"> 二等辺三角形がうまくいったので、正三角形も作ってみよう。 </div>
3 自力解決をする。	○ 角をきちんと合わせることの必要性を、試行錯誤させながら気づかせる。	
3 自力解決をする。	◆ 二等辺三角形の⑦の角と①の角は、比べる方法を思い浮かべないときは、教師がやり方を示し思考させる。	
4 前に出て考えたことを発表する。	○ 自分の考えを声に出して伝えることで、考えを整理する。	
4 前に出て考えたことを発表する。	○ 整理した考えをもとに、どうすれば角をくらべることができるかを、発表する。	○二等辺三角形や正三角形について、角の性質を理解している。
4 前に出て考えたことを発表する。	◆二等辺三角形と正三角形を操作したり、図を指し示したりしながら、「はじめに」「つぎに」と順序を表す言葉を使って発表させる。	【知・技】(行動観察)
5 まとめと振り返りをする。	① 二等辺三角形では、2つの角の大きさが等しくなっている。	
5 まとめと振り返りをする。	② 正三角形では、3つの角の大きさが、すべて等しくなっている。	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;"> 二等辺三角形は、2つの角、正三角形は、3つの角が等しいことが分かった。 </div>
6 適用題を解く。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">適用題1</div> 同じ直角三角形の定規を2枚使って、長方形、正方形、直角三角形、二等辺三角形、正三角形を作ってみよう。	
6 適用題を解く。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">適用題2</div> 同じ大きさの二等辺三角形を2枚使って、いろんな形を作りましょう。	

平成29年度 御指導いただいた先生方

文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部		教育課程調査官	笠井 健一 先生
比治山大学・比治山短期大学 広島大学		副学長 名誉教授	林 武広 先生
福岡教育大学	国語教育講座	教授	河野 智文 先生
福岡教育大学	数学教育講座	准教授	岩田 耕司 先生
広島県東部教育事務所		指導主事	平田 恭子 先生
広島県東部教育事務所		指導主事	神鳥 裕史 先生
広島県東部教育事務所		指導主事	西谷由季子 先生
尾道市教育委員会		指導主事	大矢 純一 先生
尾道市教育委員会		指導主事	山口 晴子 先生
広島県立尾道特別支援学校		教育相談主任・地域支援部長	佐藤 喜昭 先生
広島県立尾道特別支援学校		教育相談主任	井桁 陽介 先生

平成29年度研究同人

佐々木 智彦	植木 雅子	槇田 有香	隆杉 佳代
灰垣 亜希子	岡 明美	亀本 拓朗	舛上 敏成
島本 佳代子	菅方 賢司	谷川 友弥	上田 千紘
才谷 瑛一	黒飛 美穂	渡邊 翠大	内海 京子
保森 智彦	川嶋 佳那美	大谷 千恵子	岡田 美紀代
前田 真由美	福田谷 知加子	中谷 稔	藤本 陽子
石田 博子	貝川 充洋	柏原 ひとみ	Marie Wyatt